

令和5年度

子ども・子育て家庭・若者の生活実態等調査結果概要

報告書

令和6年7月

子育て推進部子ども政策課

目次

第1章 子ども・子育て家庭・若者の生活実態等調査	1
1. 調査の概要	1
(1) 目的	1
(2) 調査方法・回収状況	1
(3) 調査項目	2
2. 調査の視点	4
(1) 階層Ⅰに分類する世帯（困窮度が高いと考えられる世帯）	5
(2) 階層Ⅱに分類する世帯（困窮度がやや高いと考えられる世帯）	5
(3) 階層Ⅲに分類する世帯（困窮度が比較的低いと考えられる世帯）	5
3. 報告書内のデータの記述について	5
第2章 調査結果	6
1. 保護者アンケート結果	6
(1) 世帯の状況	6
(2) 理想の子どもの人数	9
(3) 就労状況	10
(4) 育児休業について	14
(5) 保育サービス等について	16
(6) 子育て支援センター等について	19
(7) 放課後児童クラブについて	20
(8) 生活等の状況について	23
(9) 健康・食生活の状況	28
(10) 学習・進学について	31
(11) ゲーム・インターネットについて	38
(12) 子どもの権利について	41
(13) その他	44
2. 子どもアンケート結果	51
(1) 子どもの居場所	51
(2) 地域との関わり	59
(3) 子どもの意見表明	61
(4) 進学等について	65
(5) 家庭の経済状況について	67
(6) 子どもの権利について	69
(7) 子ども自身について	71

(8) ヤングケアラーについて	76
(9) その他	78
3. 子どもと保護者の比較	85
(1) 子どもの権利の認知度	85
(2) 進学希望	86
4. 若者アンケート結果	87
(1) 就労の状況	87
(2) 外出の機会について	89
(3) 結婚・子育てについて	89
(4) 若者自身について	94

第1章 子ども・子育て家庭・若者の生活実態等調査

1. 調査の概要

(1) 目的

石狩市で子育てをしている家庭の実態や生活状況を伺い、支援ニーズを把握することで、今後の石狩市における子どもやその家庭への支援のあり方及び子ども・子育て施策の企画、検討をするための調査を実施した。

(2) 調査方法・回収状況

項目		内容			
対象	対象者	1) 保護者 ・ 就学前の子どもがいる世帯 ・ 小学校2年生の子どもがいる世帯 ・ 小学校5年生の子どもがいる世帯 ・ 中学2年生の子どもがいる世帯 ・ 高校2年生の子どもがいる世帯 2) 子ども ・ 小学5年生の児童 ・ 中学2年生の生徒 ・ 高校2年生の生徒 3) 若者 ・ 15歳から39歳の市民（無作為抽出2,000人）			
		調査期間	令和6年2月22日～令和6年3月8日		
実施方法	配布方法	1) 保護者 ・ 就学前児童世帯：全対象世帯へ郵送により配布 ・ 小学2年生～中学2年生：市内全小中学校を通じて全対象世帯へ配布 ・ 高校2年生：高校2年生の年代がいる全対象世帯へ郵送により配布 2) 子ども ・ 小学5年生・中学2年生：市内全小中学校を通じて全対象世帯へ配布 ・ 高校2年生：高校2年生の年代がいる全対象世帯へ郵送により配布 3) 若者 ・ 無作為抽出により対象世帯へ郵送により配布			
	回収方法	回答フォーム（WEB）、郵送			
		対象者	配布件数	回答数	回答率
	保護者	就学前児童世帯	1,813件	634件	35.0%
		小学2年生がいる世帯	510件	196件	38.4%
		小学5年生がいる世帯	502件	166件	33.1%
		中学2年生がいる世帯	499件	101件	20.2%
		高校2年生がいる世帯	550件	116件	21.1%
		小計①	3,874件	1,213件	31.3%
	子ども	小学5年生の児童	502件	241件	48.0%
中学2年生の生徒		499件	354件	70.9%	
高校2年生の生徒		550件	99件	18.0%	
小計②		1,551件	694件	44.8%	
若者	若者	1,953件	381件	19.5%	
	小計③	1,953件	381件	19.5%	
	合計（小計①+小計②+小計③）	7,378件	2,288件	31.0%	

(3) 調査項目

■保護者 (◎：共通、●：就学前のみ、○：就学前・小2、◇：小5、中2、高2)

項目	内容
あなた自身や 家族について	◎回答者属性
	◎小学校区・居住形態
	◎石狩市を住むところとして選んだ理由
	◎理想の子どもの人数
就業状況について	◎父親・母親の働き方
	●育児休業の取得
お子さんについて	●平日・休日の子どもの預け先、利用時間
	●子どもが病気やケガをした時の対応
	●病児・病後児のための保育施設等の利用希望
	●子どもの一時預かりの利用希望
	○放課後児童クラブの利用希望
	●子育て支援センター等の利用頻度・利用希望
	◎子どもの健康状態・生活状況
	◇子どもの教育について
◇児童虐待の通報義務について	
子どもの権利について	◎子どもの権利の認知度
	◎子どもへの意見聴取
	◎石狩市の子どもの権利に対する姿勢
現在の生活について	◎世帯収入・支出
	◎家庭が受けている手当
	◎家計状況
家族の健康について	◎父親・母親・子どもの健康状態
行政サービスについて	◎得たいと思う子育て情報
	◎情報収集の方法
	●石狩市が取り組む子育て支援事業の利用状況
	◎石狩市の子育て施策
	●家庭での困りごと・相談先

■子ども（◎：共通、●：中2・高2のみ）

項目	内容
あなたの状況について	◎回答者属性
あなたの普段の生活について	◎放課後過ごす場所
	◎学校以外の居場所
	◎地域の人との関わり
食事や健康、暮らしのことについて	◎ひとりで食事を取る頻度
	◎生活状況・経済状況
	●学校の授業以外での体験・活動の機会
学校や勉強のことについて	◎授業の理解度
	◎勉強がわからない時に教えてくれる人
	◎学習塾の利用状況
	◎進学希望
	◎先生への気持ち
子どもの権利について	◎子どもの権利の認知度
	◎大切だと思う子どもの権利
	●石狩がどんなまちになってほしいか
あなた自身について	◎保護者との関わり
	◎自分自身への思い
	◎悩みや困っていることの相談
	◎相談機関の認知度
	◎相談してみようと思うところ
	◎子どもの居場所の利用希望
	●家族におけるお世話が必要な人・お世話の状況
	●ヤングケアラーについて

■若者

項目	内容
あなた自身や 家族について	回答者属性
	居住区域
	最終学歴
家族や家庭のこと	家族の人数・世帯構成
	家族との関わり
	家庭内の悩み
就労・就学状況	就労・就学状況
	仕事への満足度
	離職経験
	自分自身について
	生活の中で楽しさを感じること
	悩んでいること
	相談先
日常生活について	外出頻度
	学校・職場以外での活動
あなたの今後や 将来について	石狩市への居住願望
結婚やお子さんの ことについて	配偶者の有無
	結婚願望について
	子どもを持つことへの希望について
	少子高齢化対策について

2. 調査の視点

2022（令和4）年に厚生労働省が実施した国民生活基礎調査により、2021（令和3）年における可処分所得（等価可処分所得）の中央値は254万で、その半分の値（いわゆる貧困ライン）は127万であった。

今回の調査では、2022（令和4）年の国民生活基礎調査の結果を基に、推測される生活困窮度のレベルを3つの階層に仮定し、今回のアンケート対象世帯を年収と世帯員数の回答結果でクロス集計を行い、各階層に分類することにより（図1参照）、両親世帯やひとり親世帯といった世帯類型と併せて生活困窮度との関連性を見ていくこととした。

※今回のアンケートでは税込みの世帯収入を聞いているため、可処分所得と見なして分析を行うこととした

※等価可処分所得～世帯員1人あたりの所得水準のことをいい、世帯の可処分所得（税金や社会保険料を控除し手当等を加えたいわゆる手取り収入）を当該世帯員数の平方根で除した値

	100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1000万円未満	1000万円以上
2人世帯	階層Ⅰ		階層Ⅱ	階層Ⅲ							
3人世帯	階層Ⅰ		階層Ⅱ		階層Ⅲ						
4人世帯	階層Ⅰ			階層Ⅱ	階層Ⅲ						
5人世帯	階層Ⅰ			階層Ⅱ		階層Ⅲ					
6人以上世帯	階層Ⅰ			階層Ⅱ		階層Ⅲ					

図1：世帯人数ごとの困窮群・予備群とみなす区分

(1) 階層Ⅰに分類する世帯（困窮度が高いと考えられる世帯）

- ・ 年収が200万円未満の世帯
- ・ 世帯員が4人以上で年収が200万円以上300万円未満の世帯

(2) 階層Ⅱに分類する世帯（困窮度がやや高いと考えられる世帯）

- ・ 世帯員が2人で年収が200万円以上300万円未満の世帯
- ・ 世帯員が3人で年収が300万円以上400万円未満の世帯
- ・ 世帯員が4人で年収が300万円以上400万円未満の世帯
- ・ 世帯員が5人で年収が400万円以上500万円未満の世帯
- ・ 世帯員が6人以上で年収が400万円以上500万円未満の世帯

(3) 階層Ⅲに分類する世帯（困窮度が比較的低いと考えられる世帯）

- ・ (1) 及び (2) 以外の世帯

3. 報告書内のデータの記述について

比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。また、複数回答を認めている質問の場合、比率の合計は通常100%を超える。

図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューター処理の都合上、省略している箇所がある。

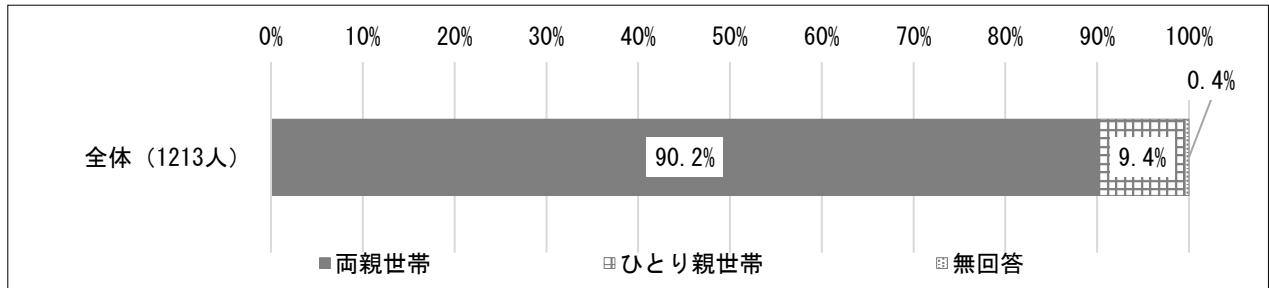
第2章 調査結果

1. 保護者アンケート結果

(1) 世帯の状況

1) 世帯構成

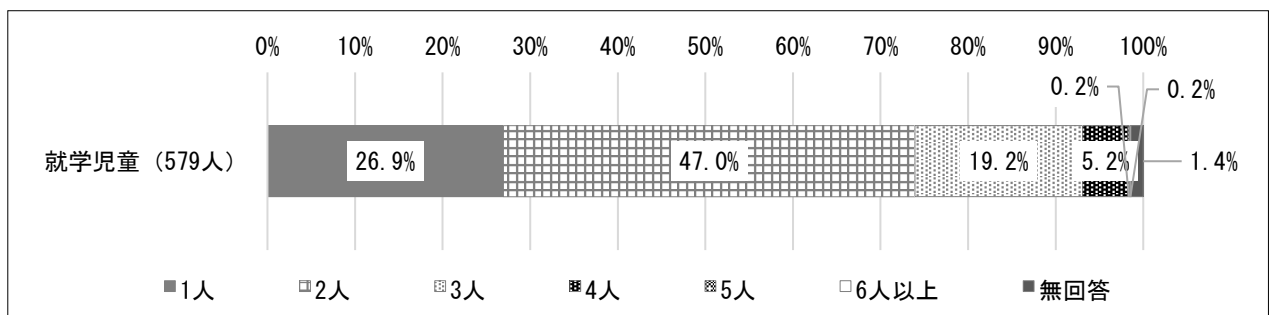
【全学年】両親世帯：90.2%、ひとり親世帯9.4%、無回答0.4%



2) 世帯の子どもの人数

【小学2年生～高校2年生】

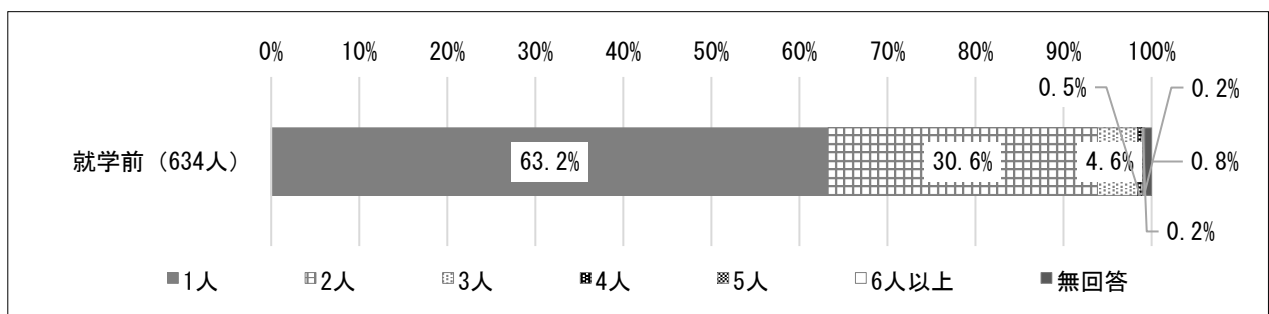
① 18歳以下の子どもの数



就学児童世帯における18歳以下の子どもの数は「2人」が47.0%と約半数を占める。

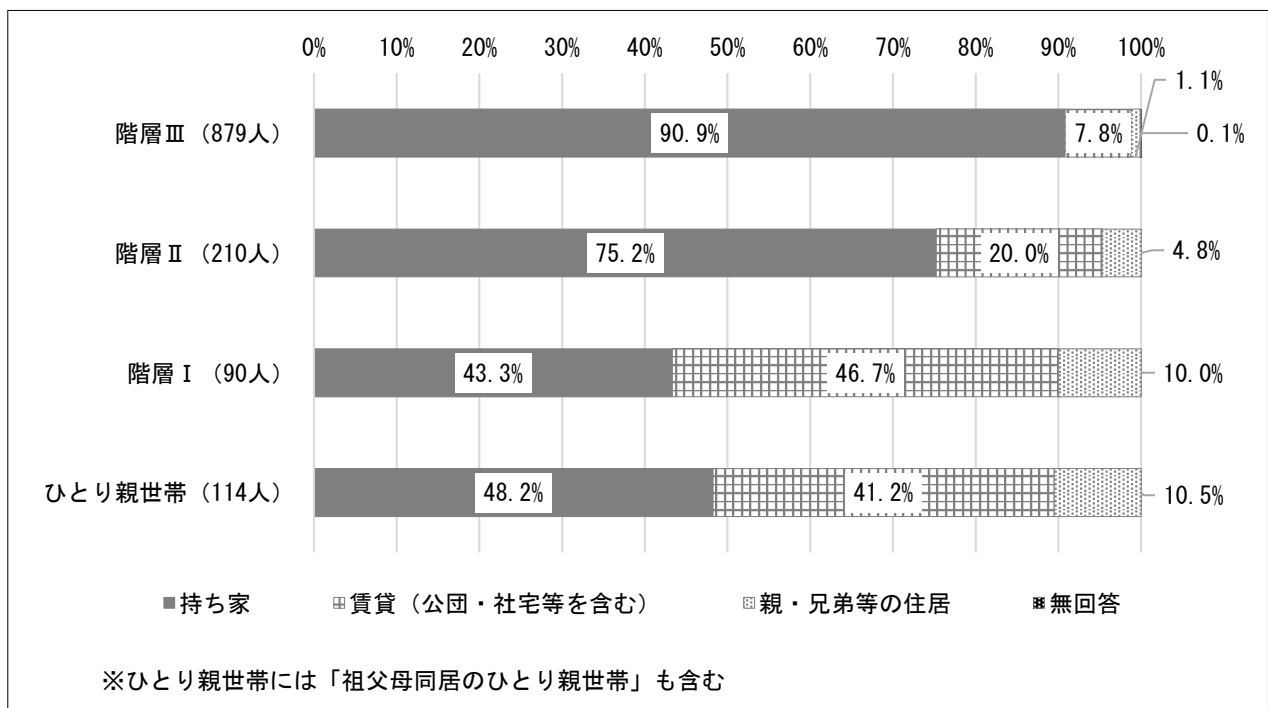
【就学前】

② 6歳以下の子どもの人数



就学前児童世帯における6歳以下の子どもの人数は「1人」が63.2%で最も多い。

3) 居住形態

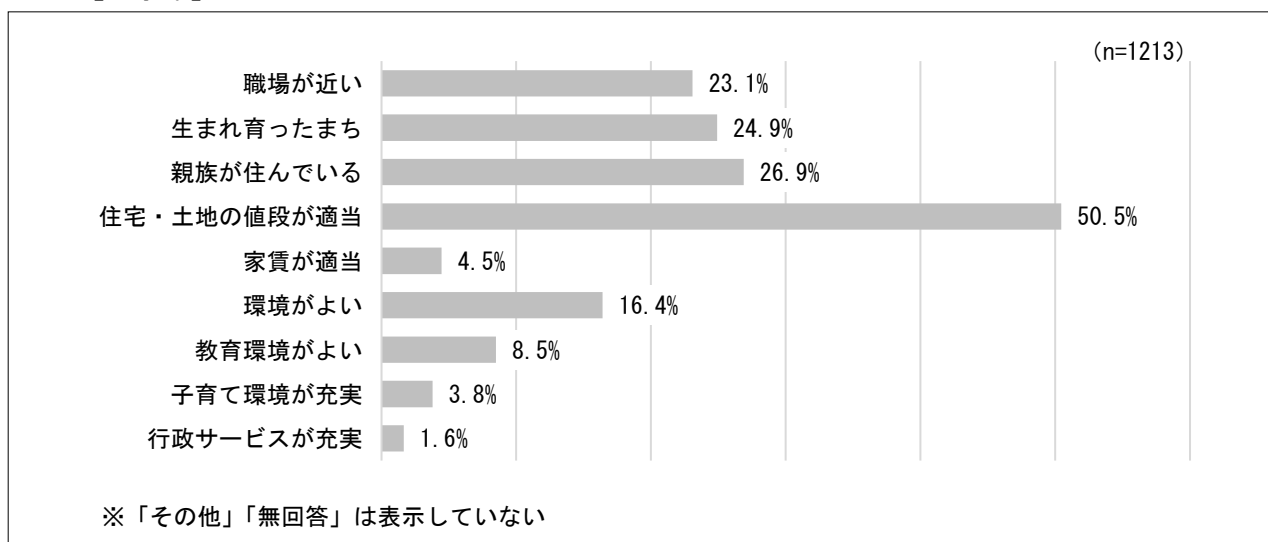


居住形態について、階層別にみると、階層Ⅲ、階層Ⅱでは「持ち家」率が7割を超えている。

階層Ⅰ・ひとり親世帯においては、「賃貸」や「親・兄弟等の住居」の割合が高い。

4) 石狩市を居住地とした理由

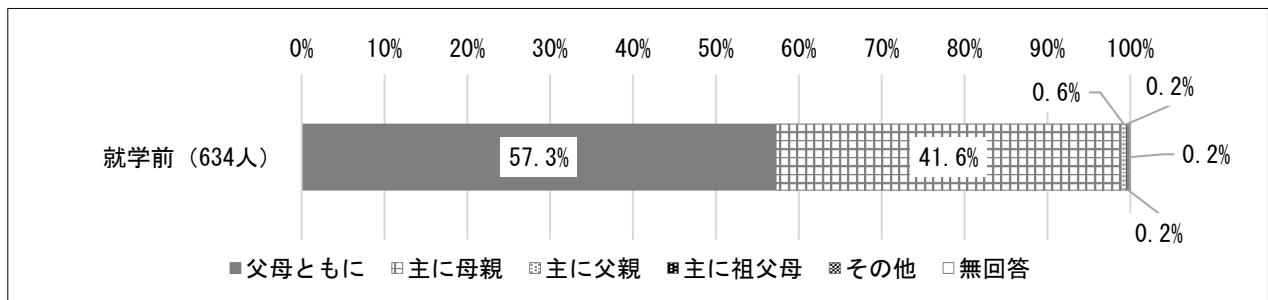
【全学年】



石狩市を居住地として選んだ理由については、「住宅・土地の値段が適当」が50.5%と最も多く、次いで「親族が住んでいる」が26.9%、「生まれ育ったまち」が24.9%と、地縁に関する事由が多い。

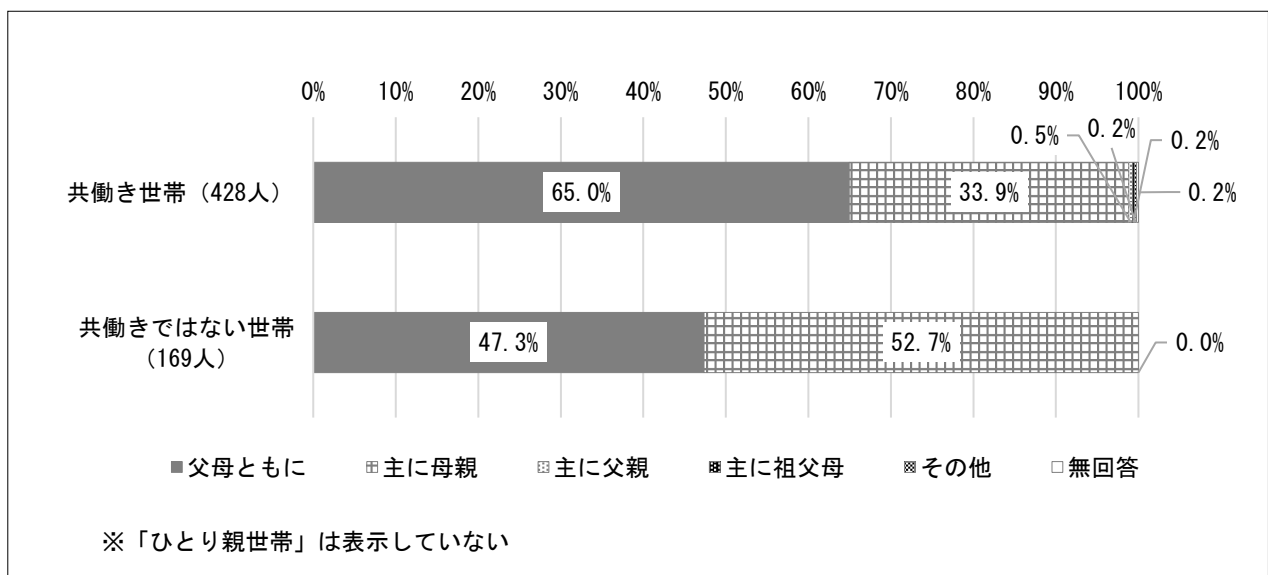
5) 家族内で子育てを担っている人

【就学前】



就学前児童世帯において、家族内で子育てを担っている人は「父母ともに」が57.3%と最も多く、次いで「主に母親」が41.6%となった。

【共働き世帯・共働きではない世帯】



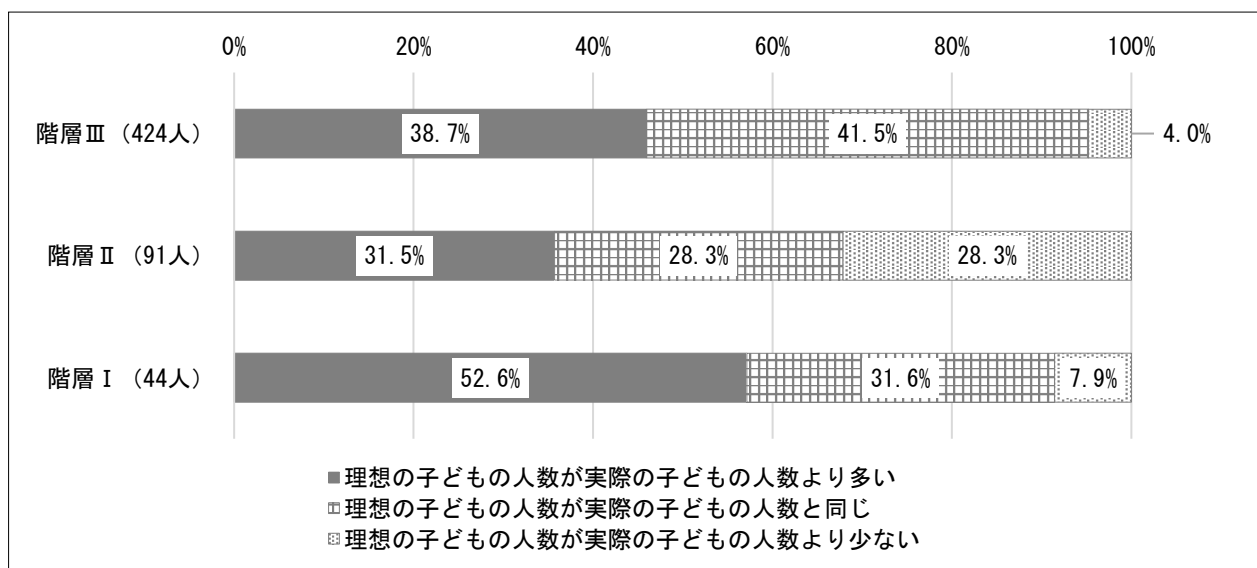
保護者の就労状況からみると、共働き世帯においても、家族内で子育てを担っている人は「父母ともに」が65.0%と最も多く、次いで「主に母親」が33.9%となっている。

共働きではない世帯においては、「主に母親」が52.7%と最も多くなっている。

(2) 理想の子どもの人数

1) 理想の子どもの人数について

【小学2年生～高校2年生】



理想の子どもの人数について実際の子どもの人数と比較した場合、階層別にみると、階層Ⅲでは、「理想の子どもの人数と実際の子どもの人数が同じ」が41.5%となった。

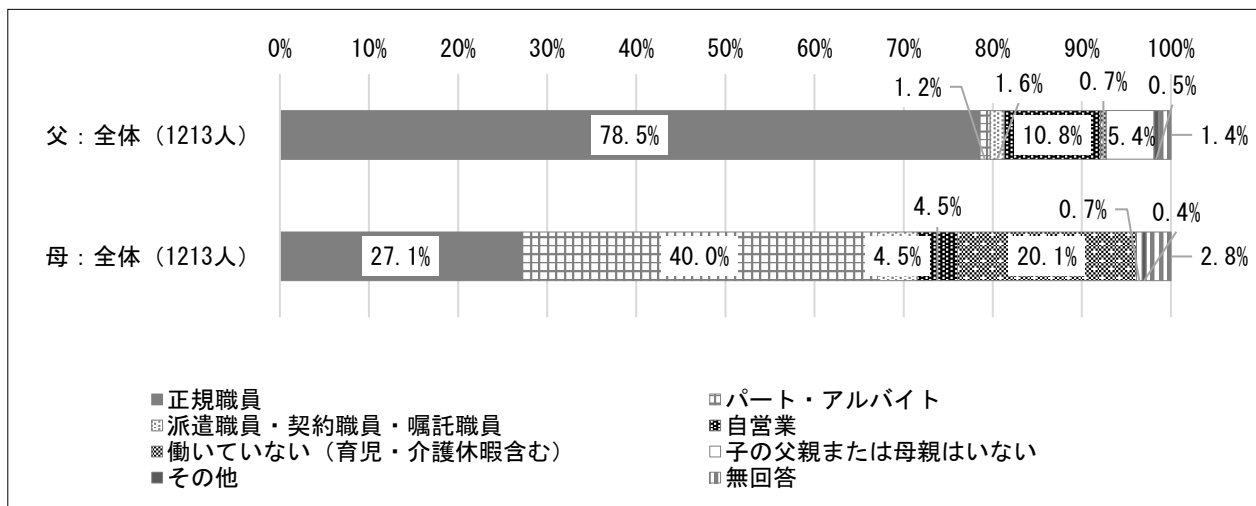
一方、階層Ⅱでは「理想の子どもの人数が実際の子どもの人数より多い」が約3割、階層Ⅰでは、「理想の子どもの人数が実際の子どもの人数より多い」が5割を超えている。

(3) 就労状況

1) 保護者の就労状況について

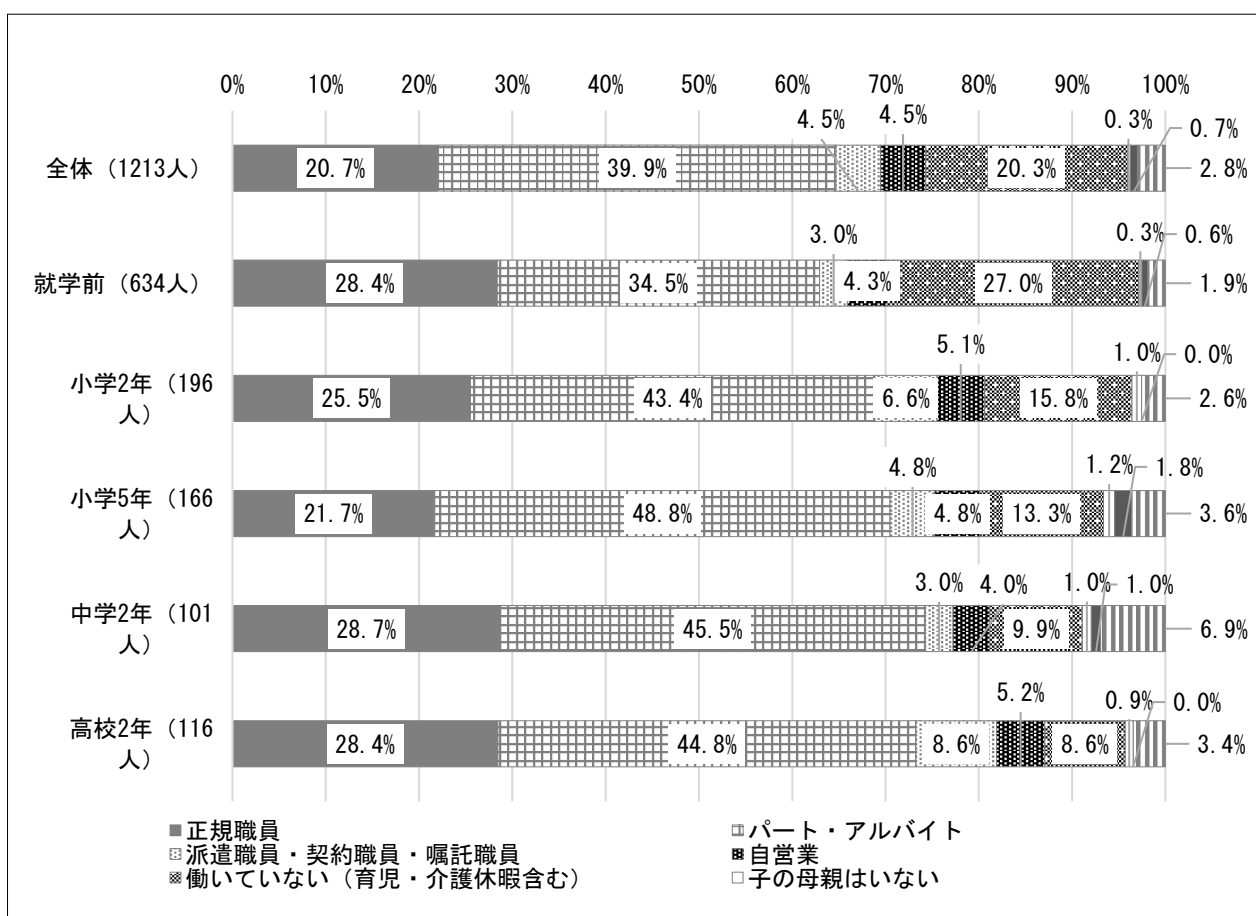
【全学年】

① 父親および母親の就労状況



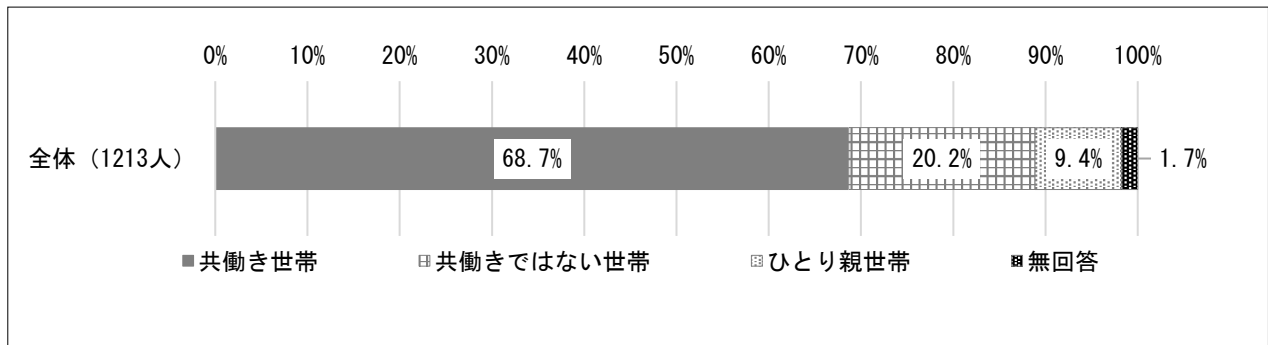
父親については、92.1%が就労状態にある。

② 子どもの学年別の母親の就労状況



母親の就労状況について、就学前児童世帯の就業率は70.2%、小学校2年生から高校2年生の就学児童世帯の就業率は8割を超えており、子どもの学年が上がるにつれて就業率が上昇する傾向がみられる。

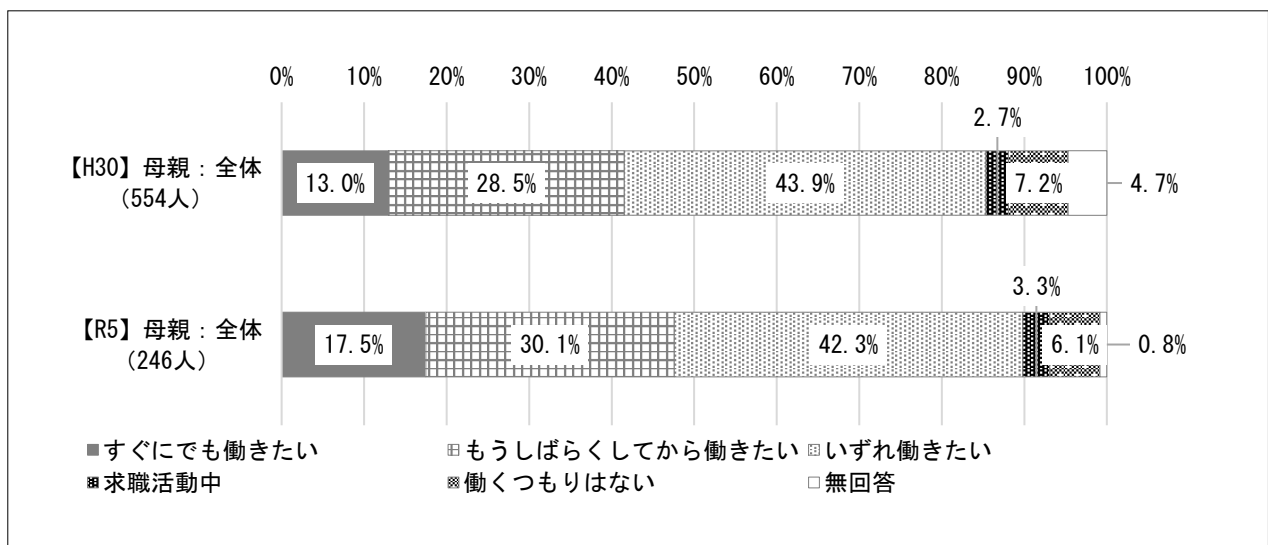
③ 共働きの状況



全世帯の68.7%が共働きをしており、共働きではない世帯は20.2%、ひとり親世帯は9.4%となっている。

2) 現在働いていない母親の就労希望

【全学年】



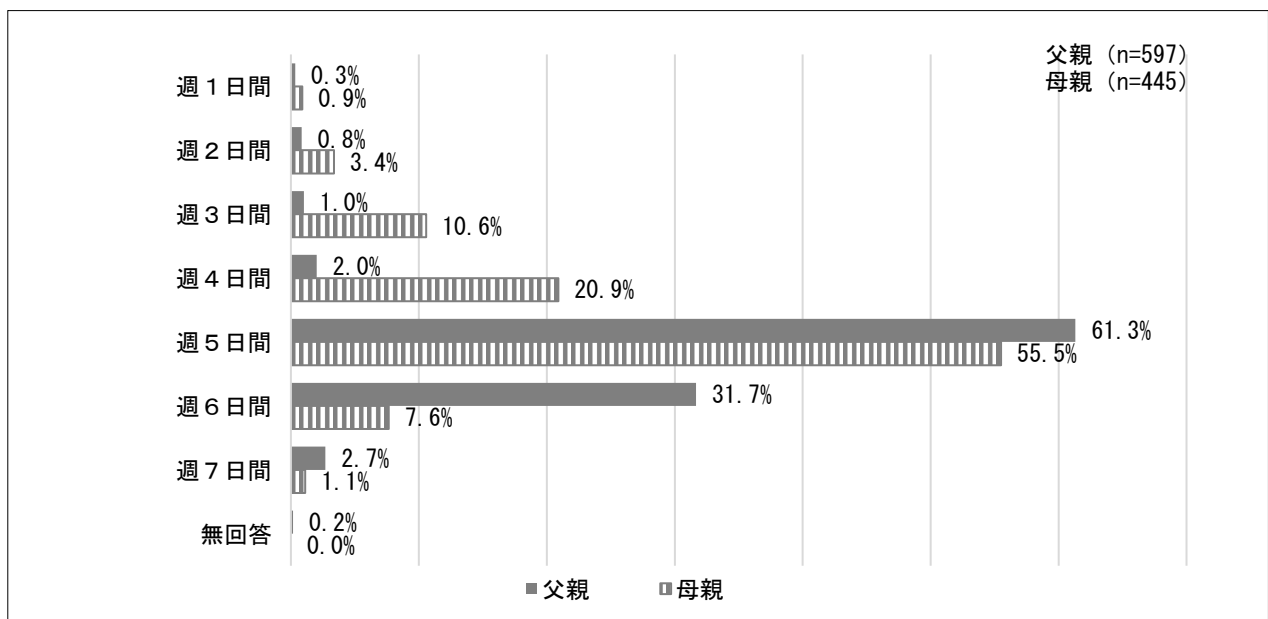
現在働いていない母親の93.2%が今後の就労を希望している（求職活動中を含む）。

平成30年度調査時点と比較すると、今後の就労を希望している母親の割合は増加傾向となっている。

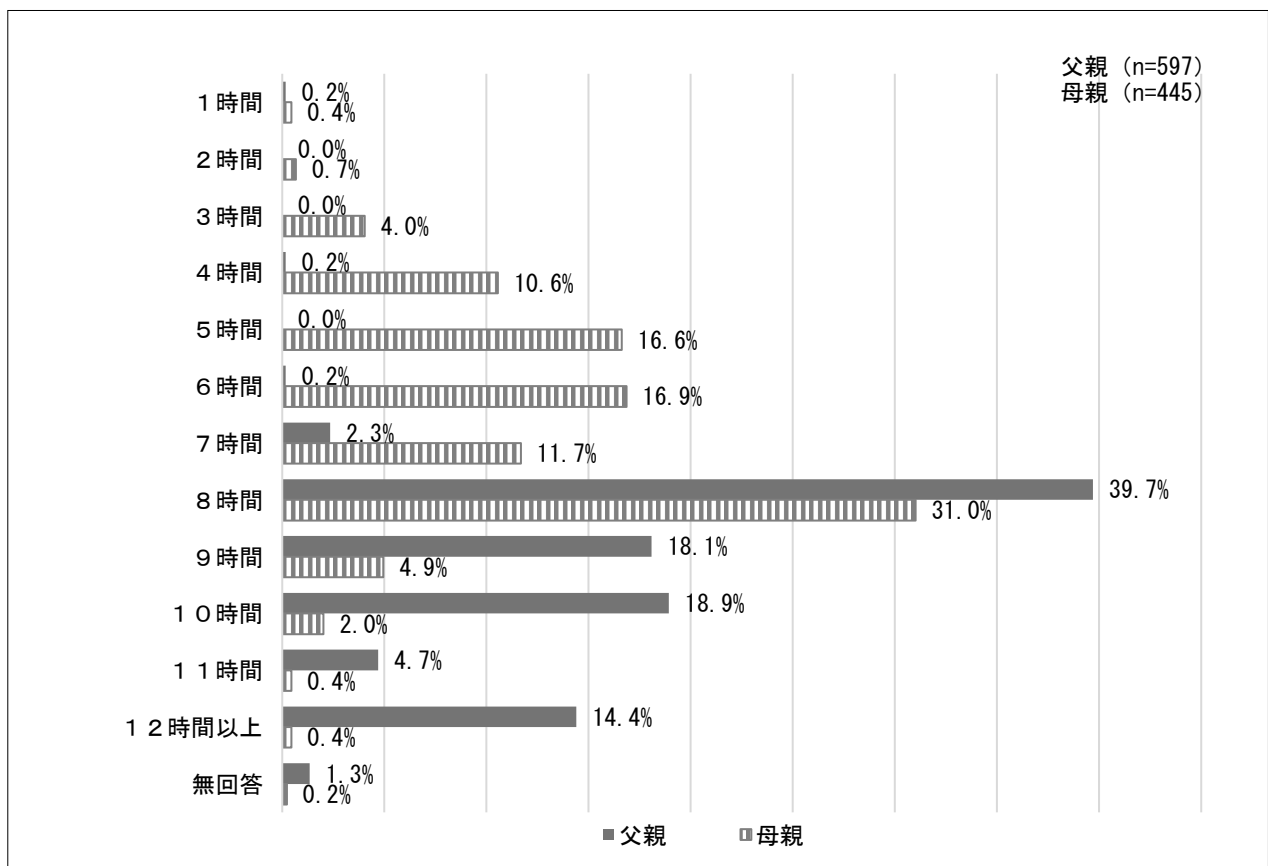
3) 1週間の就労日数、1日の勤務時間

【就学前】

①就労日数



②勤務時間



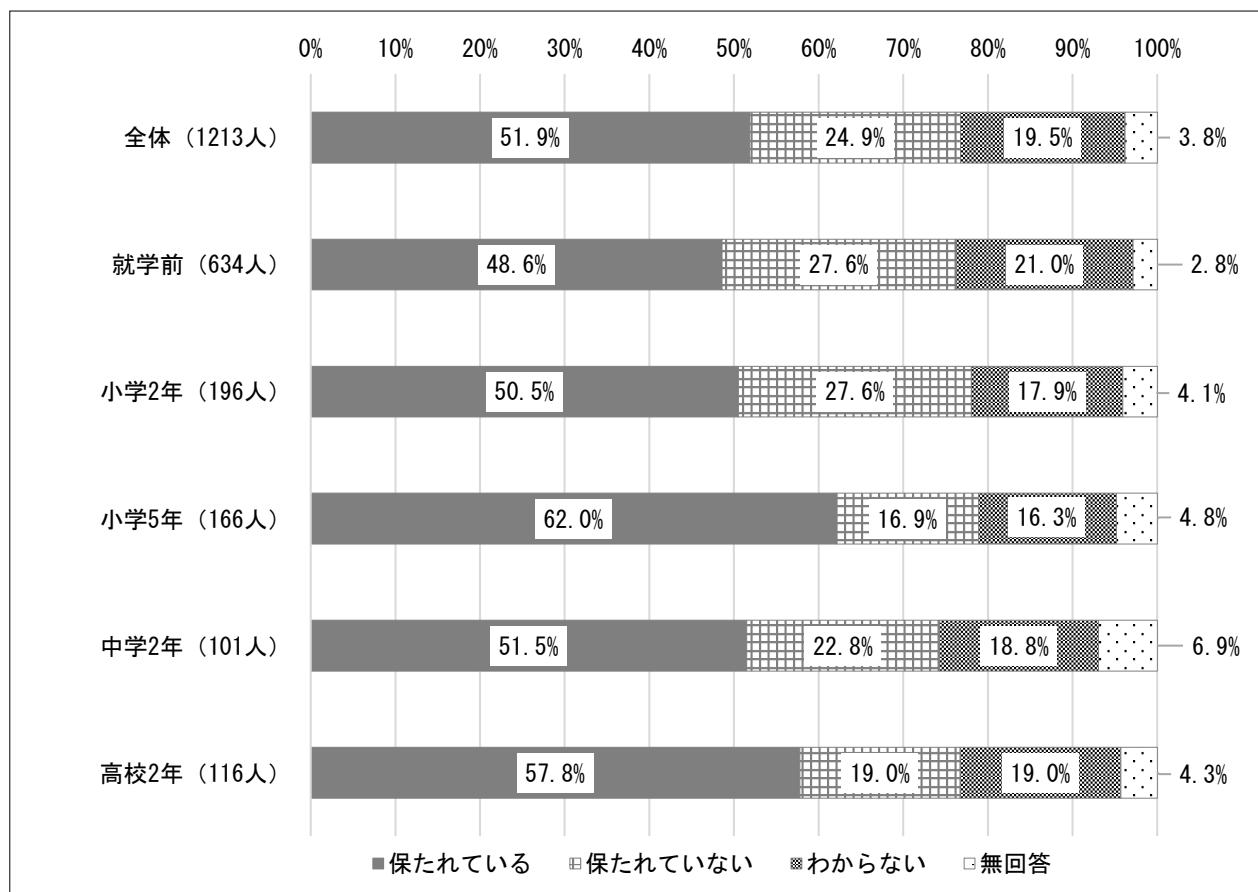
就学前児童世帯において、保護者の1週間の勤務日数及び勤務時間は、父親・母親ともに「週5日間」「1日8時間」が最も多い。次いで、母親は「週4日以下」「6時間以下」の割

合が高く、父親は「週6日間以上」「9時間以上」の割合が高くなっている。

母親よりも父親の方が勤務日数・勤務時間ともに多い傾向がみられる。

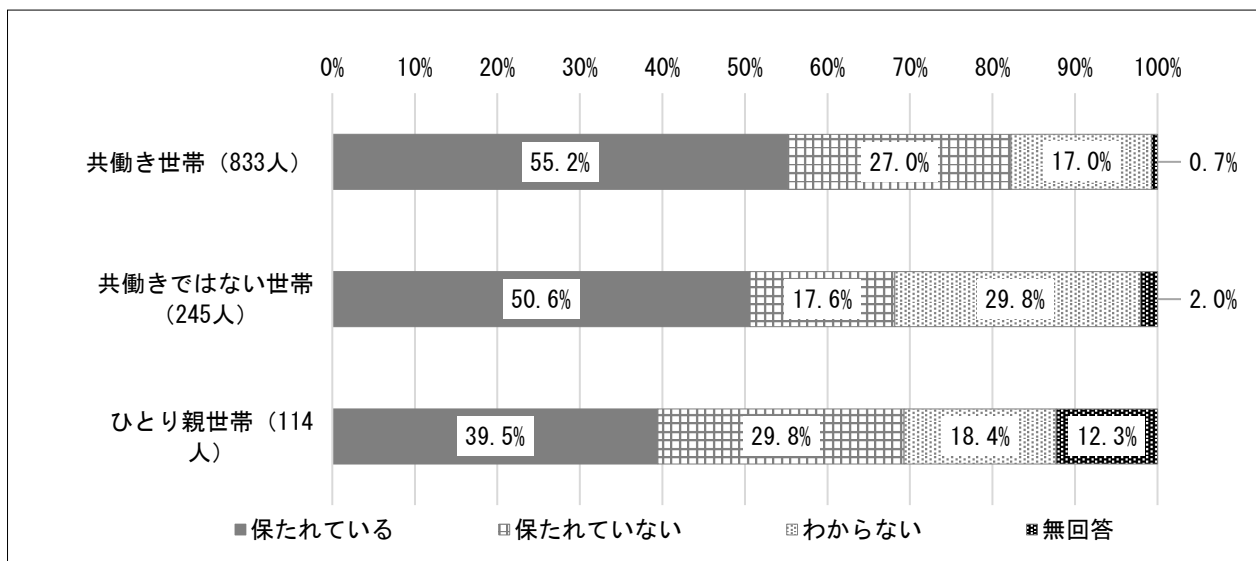
4) ワーク・ライフバランス

【全学年】



ワーク・ライフバランスが「保たれている」と回答した割合は 51.9%と半数を超える一方、「保たれていない」「わからない」と回答した割合も 44.4%を占めた。

就学前児童世帯では、ワーク・ライフバランスが「保たれている」と回答した割合は 48.6%と半数以下に留まった。



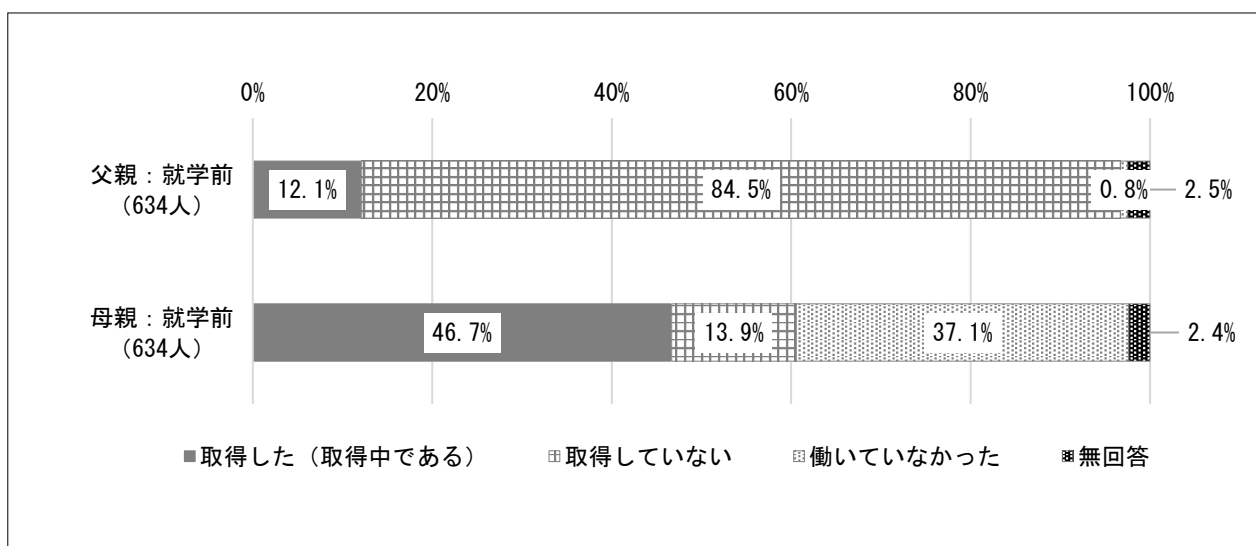
保護者の就労状況からみると、共働き世帯、共働きではない世帯でワーク・ライフバランスが「保たれている」割合は5割を超えている。

ひとり親世帯において、ワーク・ライフバランスが「保たれている」と回答した割合は39.5%と半数以下となった。

(4) 育児休業について

1) 育児休業の取得状況

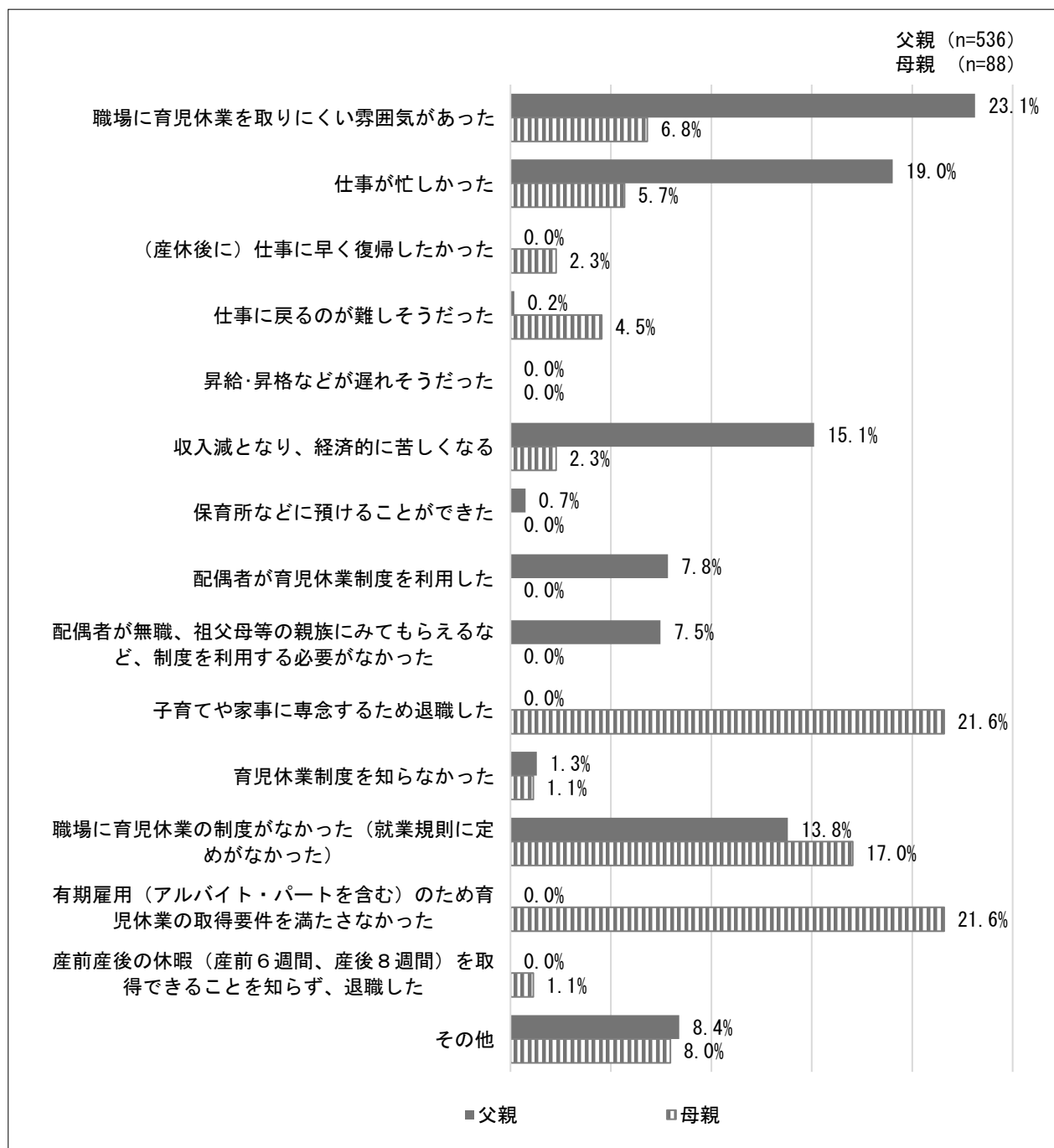
【就学前】



育児休業の取得状況について、母親は「取得した」が46.7%と最も多く、次いで「働いていなかった」が37.1%であった。父親は「取得した」は12.1%に留まり、「取得していない」が84.5%と最も多い。

2) 育児休業を取得しなかった理由

【就学前】



就学前児童世帯における、保護者が育児休業を取得しなかった理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」「有期雇用(アルバイト・パートを含む)のため育児休業の取得要件を満たさなかった」がそれぞれ21.6%と最も多い。

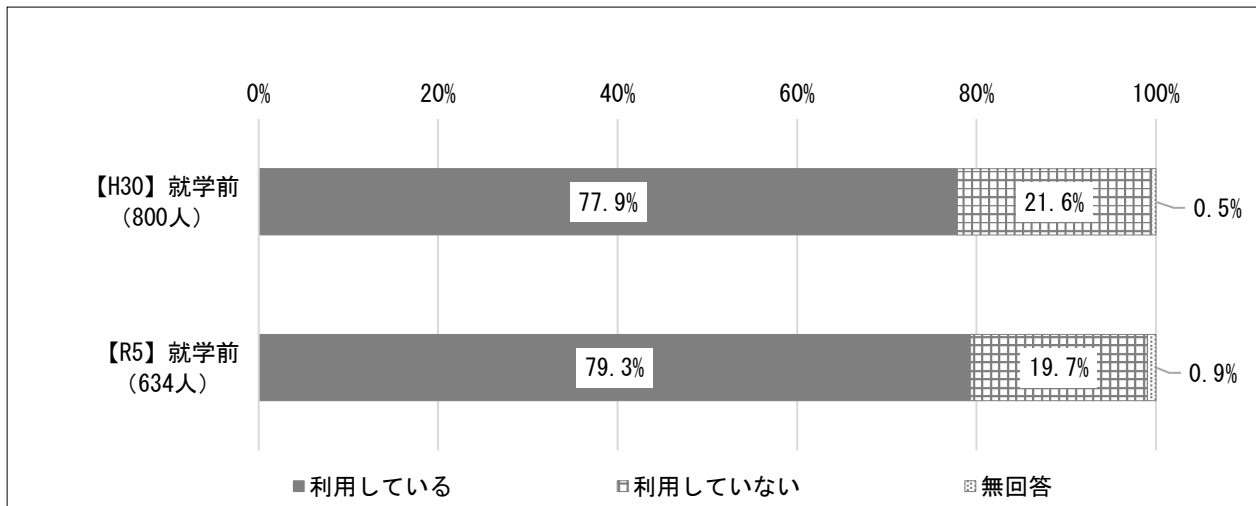
父親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が23.1%と最も多く、次いで「仕事が忙しかった」が19.0%となった。

(5) 保育サービス等について

1) 教育・保育の利用状況

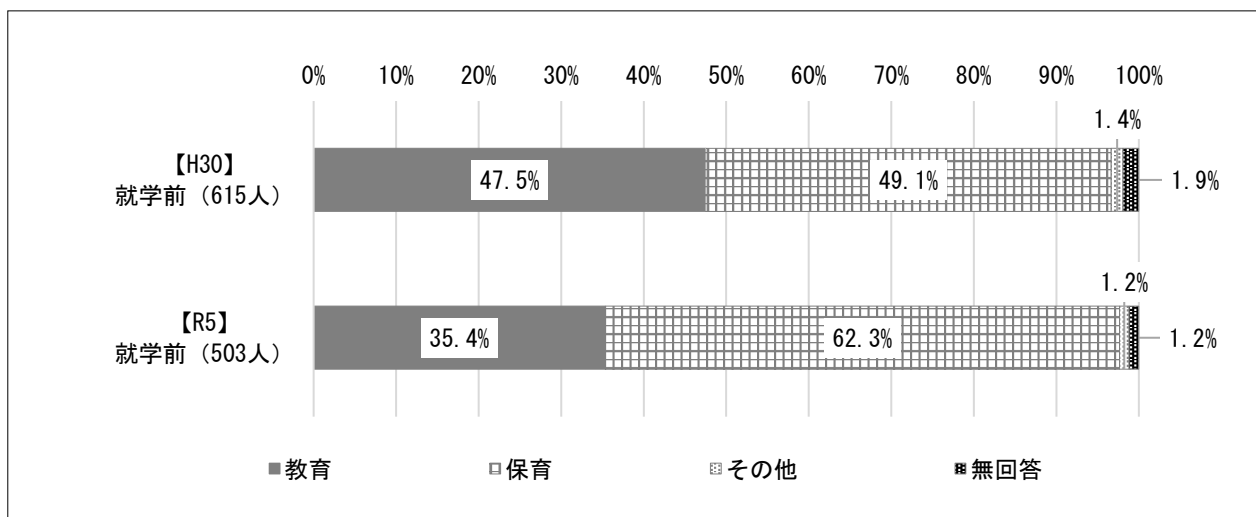
【就学前】

①利用状況



就学前児童世帯における教育・保育の利用状況については、「利用している」が79.3%と最も多く、平成30年度調査時点の77.9%と比較して1.4ポイント上昇している。

②利用状況の内訳

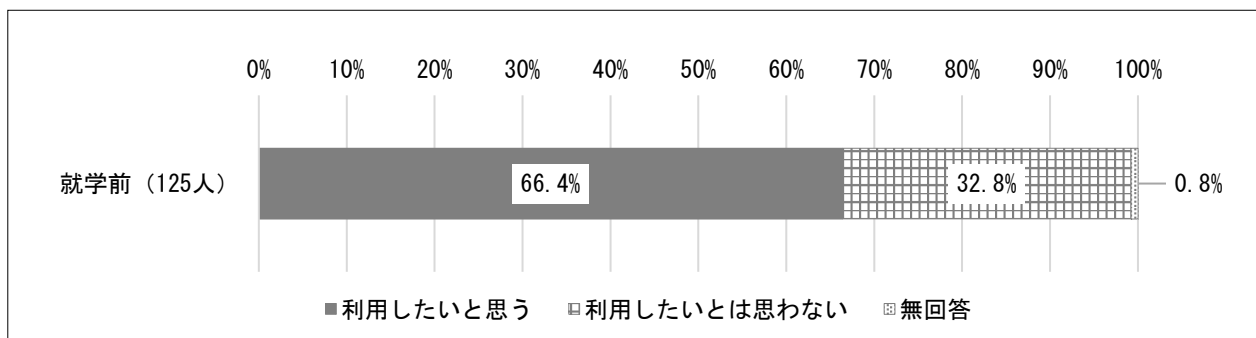


利用状況の内訳については、「保育」の利用率が62.3%と最も多く、平成30年度調査時点の49.1%と比較して13.2ポイント上昇している。

2) こども誰でも通園制度

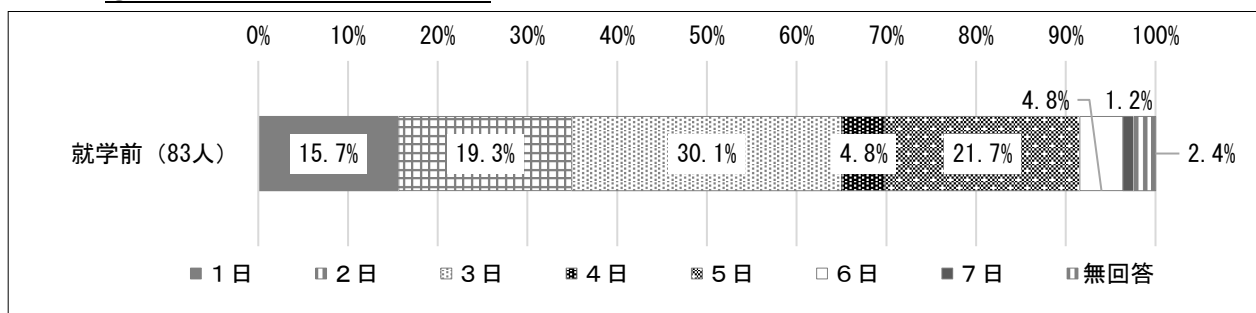
【就学前】

①こども誰でも通園制度の利用意向



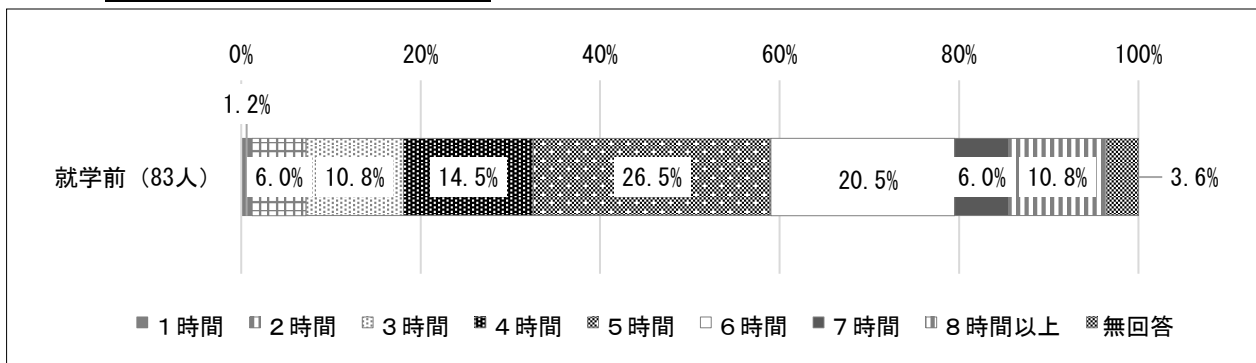
子どもを普段どこにも預けていない就学前児童世帯における、2026年度から法律に基づく新たな給付制度として実施が予定されている『こども誰でも通園制度』の利用意向について、「利用したいと思う」が66.4%と最も多い。

②利用希望日数（1週あたり）



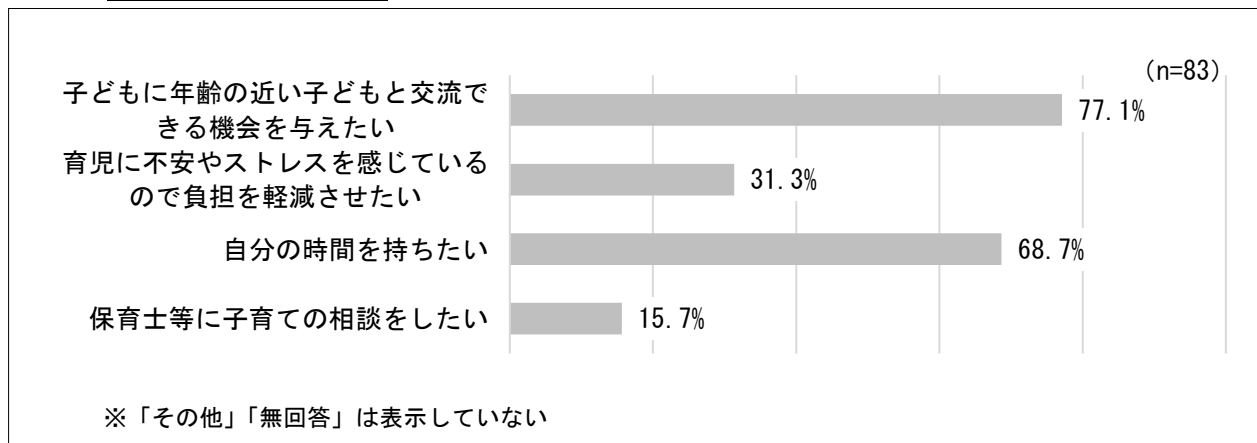
こども誰でも通園制度の1週あたりの利用希望日数について、「3日」が30.1%と最も多く、次いで「5日」が21.7%となっている。

③利用希望時間（1日あたり）



こども誰でも通園制度の1日あたりの利用希望時間について、「5時間」が26.5%と最も多く、次いで「6時間」が20.5%となっている。

④利用を希望する理由

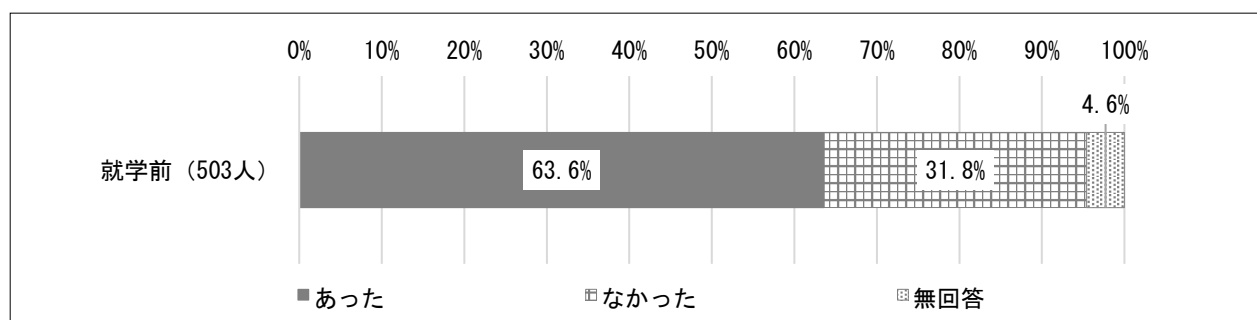


こども誰でも通園制度の利用を希望する理由について、「子どもに年齢の近い子どもと交流できる機会を与えたい」が77.1%と最も多く、次いで「自分の時間を持ちたい」が68.7%となっている。

3) 病児・病後児保育

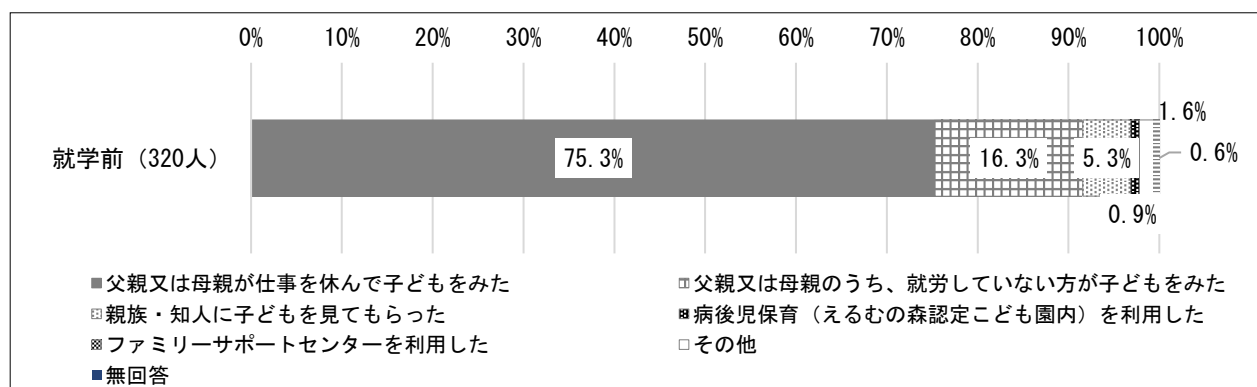
【就学前】

①子どもの病気やケガが理由で通常保育を利用できなかったことがあるか



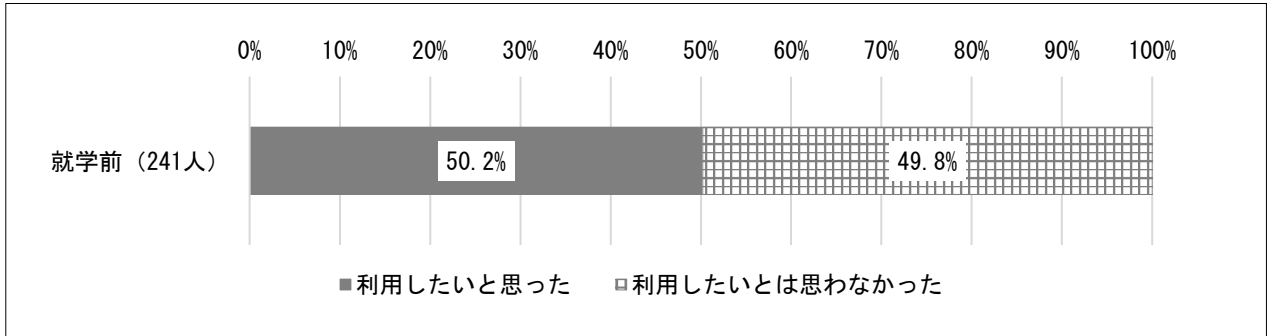
就学前児童世帯において、子どもの病気やケガが理由で通常保育を利用できなかったことがあるかについては、「あった」が63.6%と最も多くなっている。

②通常保育を利用できなかった際の対処方法



通常保育を利用できなかった際の対処方法については、「父親又は母親が仕事を休んで子どもをみた」が75.3%と最も多い。

③父親又は母親が仕事を休んで子どもをみた人のうち、病児・病後児のための保育施設等の利用意向

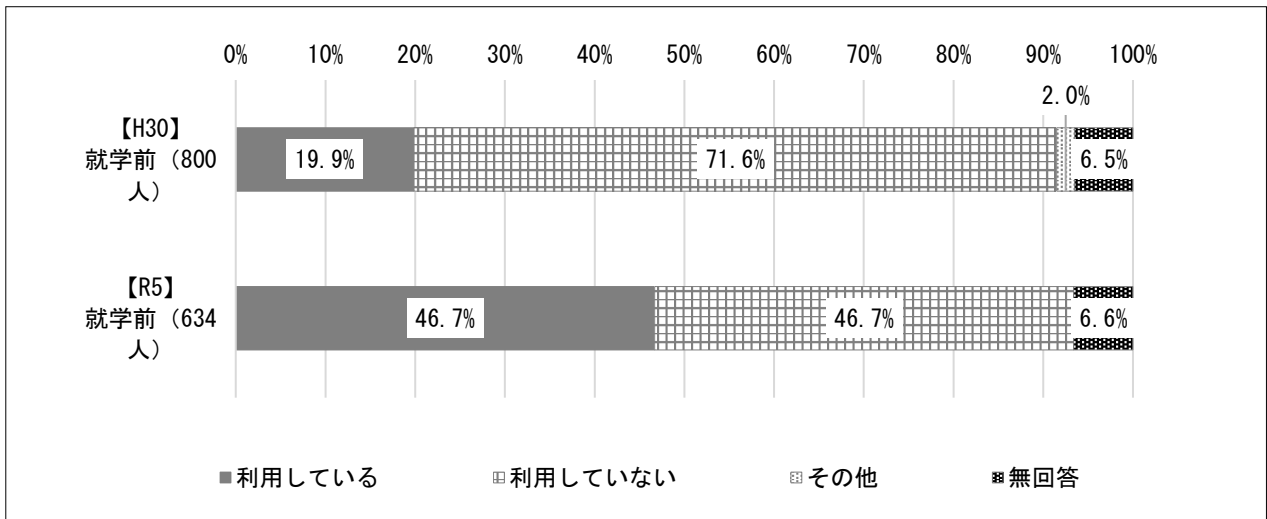


父親又は母親が仕事を休んで子どもをみた人のうち、病児・病後児のための保育施設等の利用意向については、「利用したいと思った」割合が50.2%となり、約半数が希望している。

(6) 子育て支援センター等について

1) 子育て支援センターの利用状況

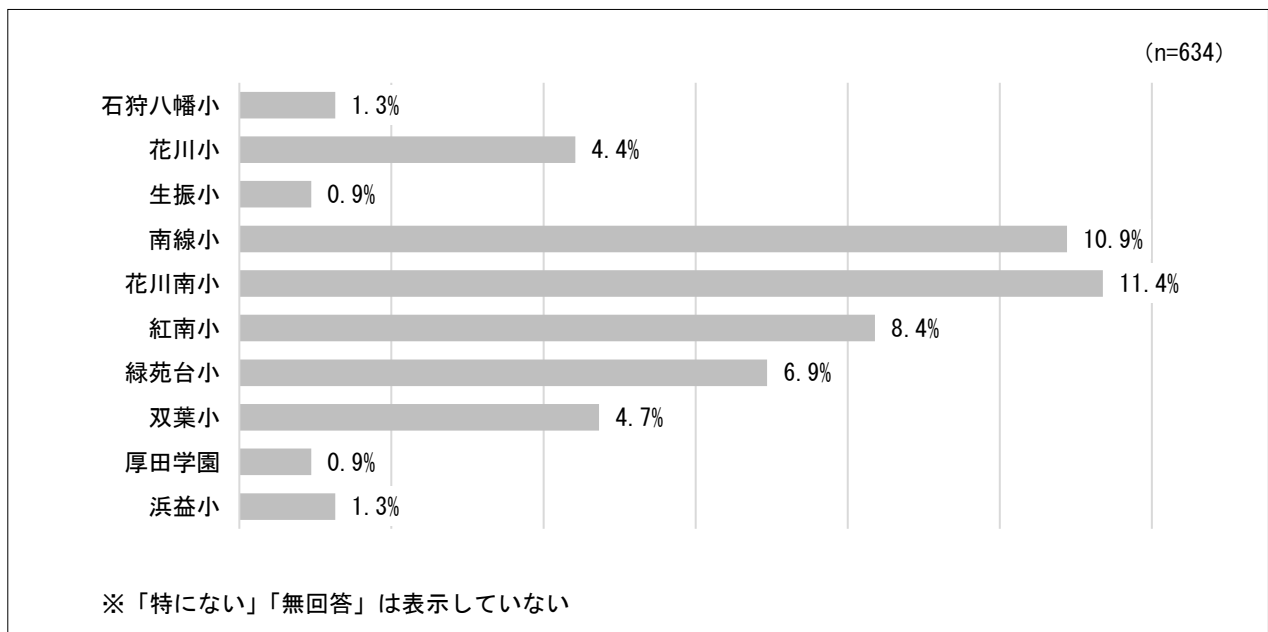
【就学前】



子育て支援センターの利用状況については、「利用している」が46.7%と約半数を占め、平成30年度調査時点の19.9%から26.8ポイント上昇した。

2) 今後増設を希望するエリア

【就学前】

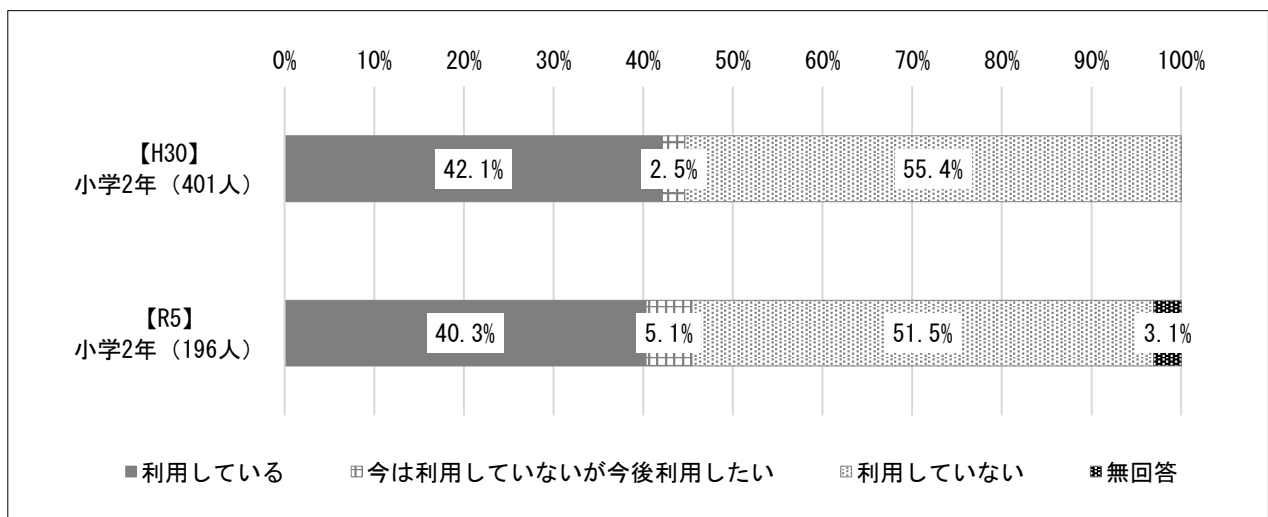


子育て支援センターについて、今後増設を希望するエリアは「花川南小」エリアが11.4%と最も多く、次いで「南線小」エリアが10.9%であり、住んでいるエリアへの増設希望が多い結果となった。

(7) 放課後児童クラブについて

1) 放課後児童クラブの利用状況

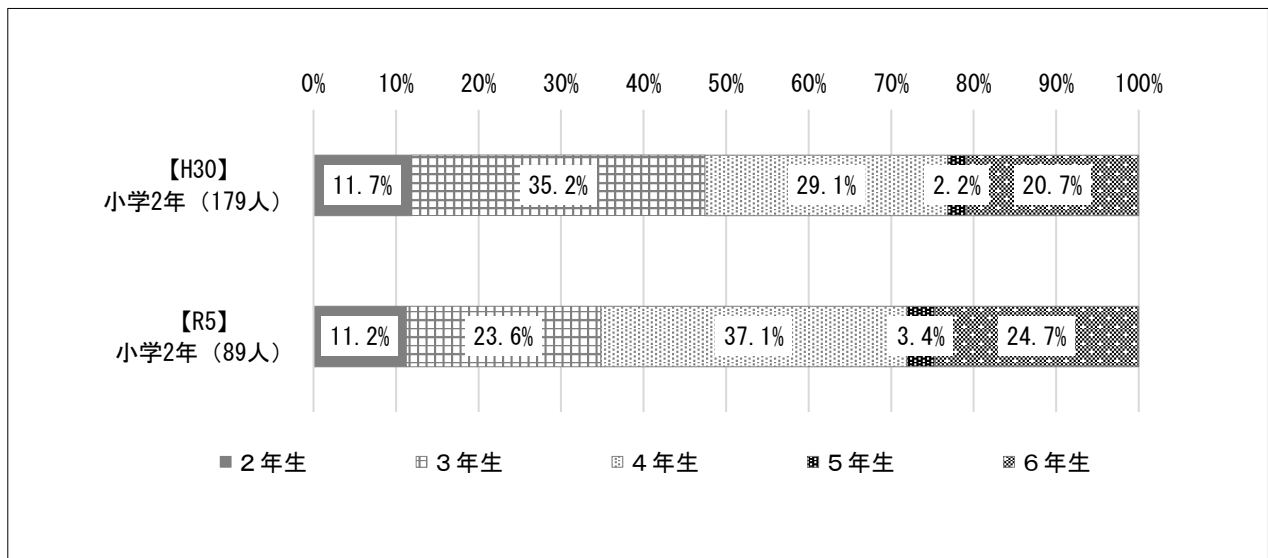
【小学2年生】



小学2年生における、放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が40.3%と、平成30年度調査時点の42.1%から1.8ポイント減少したものの、「今は利用していないが今後利用したい」の5.1%を含めると、半数弱に利用意向がみられる。

2) いつまで放課後児童クラブを利用したいか

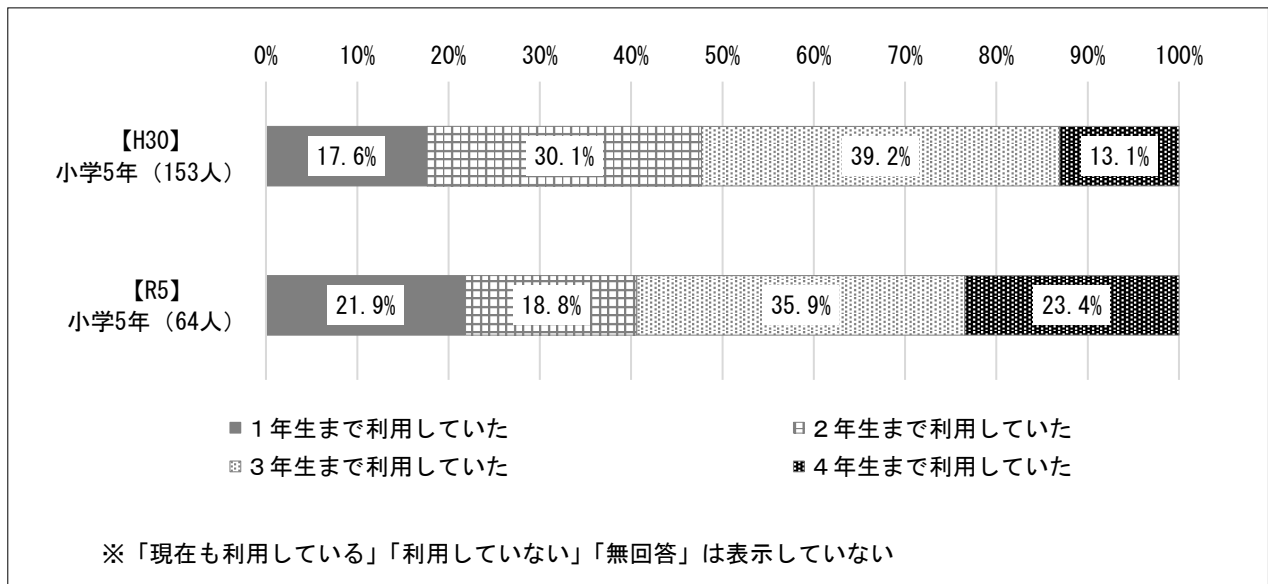
【小学2年生】



いつまで放課後児童クラブを利用したいかについては、「4年生まで」が37.1%と最も多く、次いで「6年生まで」が24.7%となった。平成30年度調査時点と比較すると、小学校高学年までの利用希望が増加している。

3) いつまで放課後児童クラブを利用していたか

【小学5年生】



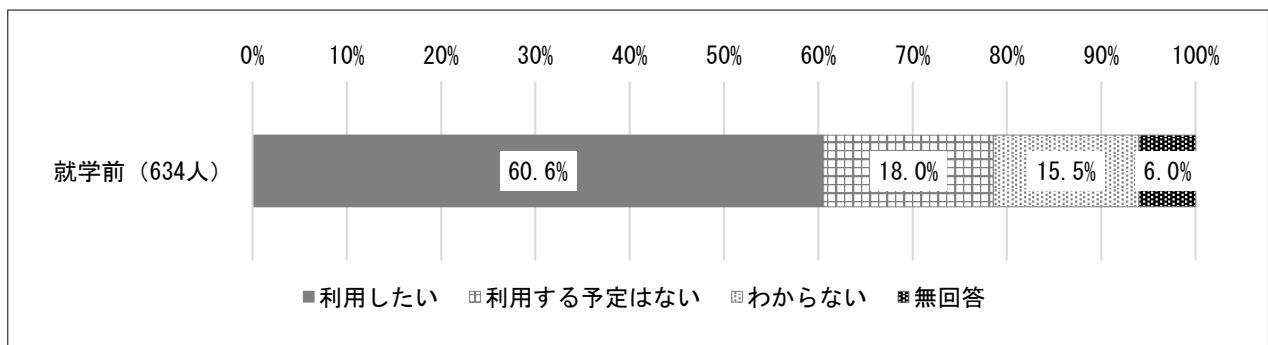
小学5年生における、いつまで放課後児童クラブを利用していたかについては、「3年生まで利用していた」が35.9%と最も多く、次いで「4年生まで利用していた」が23.4%となった。

平成30年度調査時点と比較して、「4年生まで利用していた」が10.3ポイント上昇した。

4) 就学前児童世帯の意向

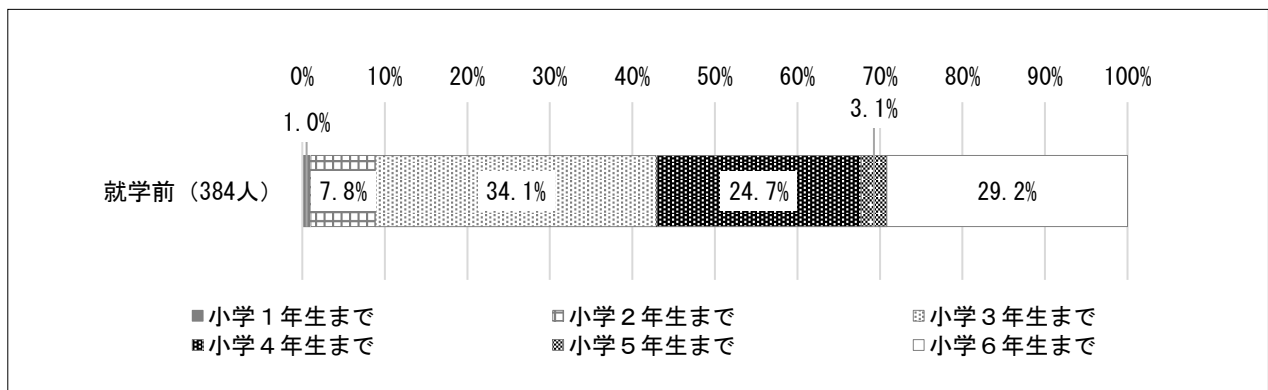
【就学前】

①放課後児童クラブの利用意向



就学前児童世帯における放課後児童クラブの利用意向は、「利用したい」が60.6%と最も多く、「わからない」を合わせると76.1%を占める。

②いつまで利用させたいか

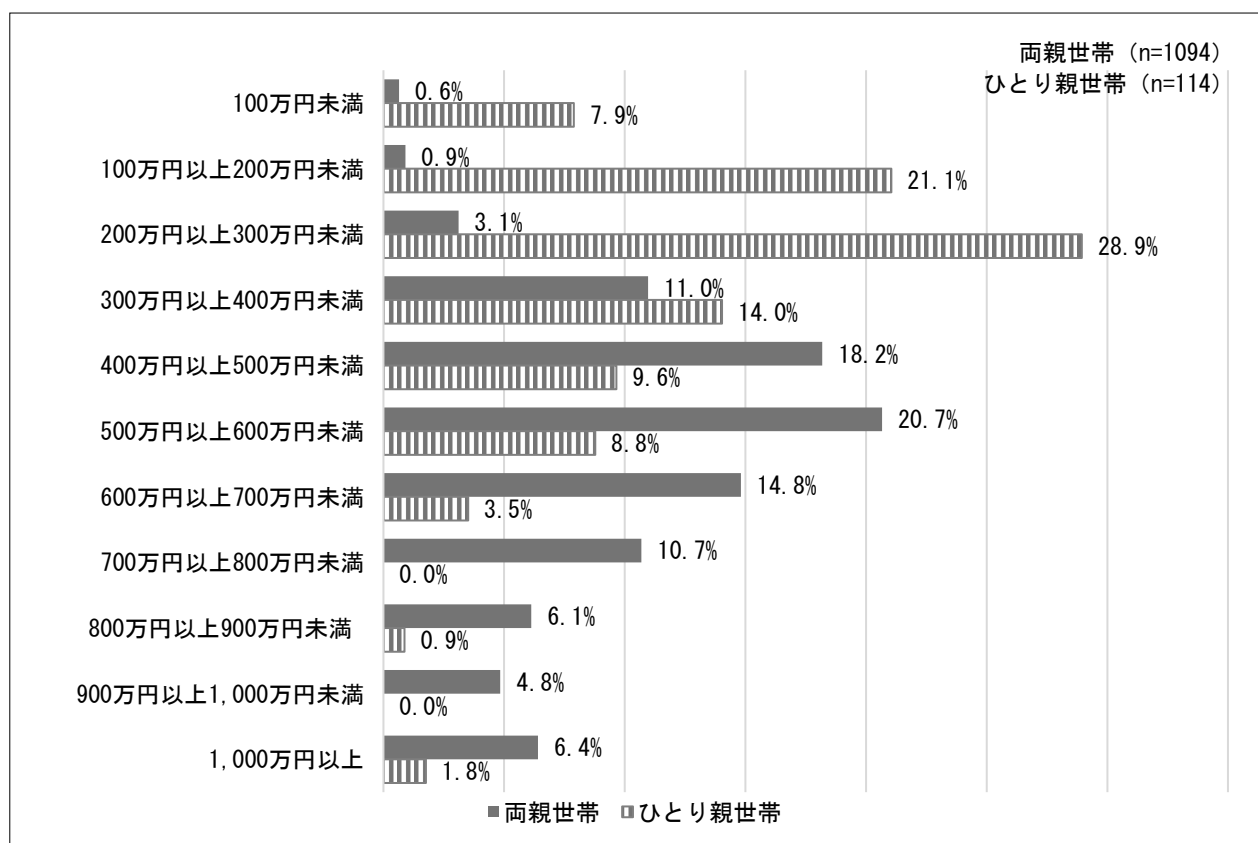
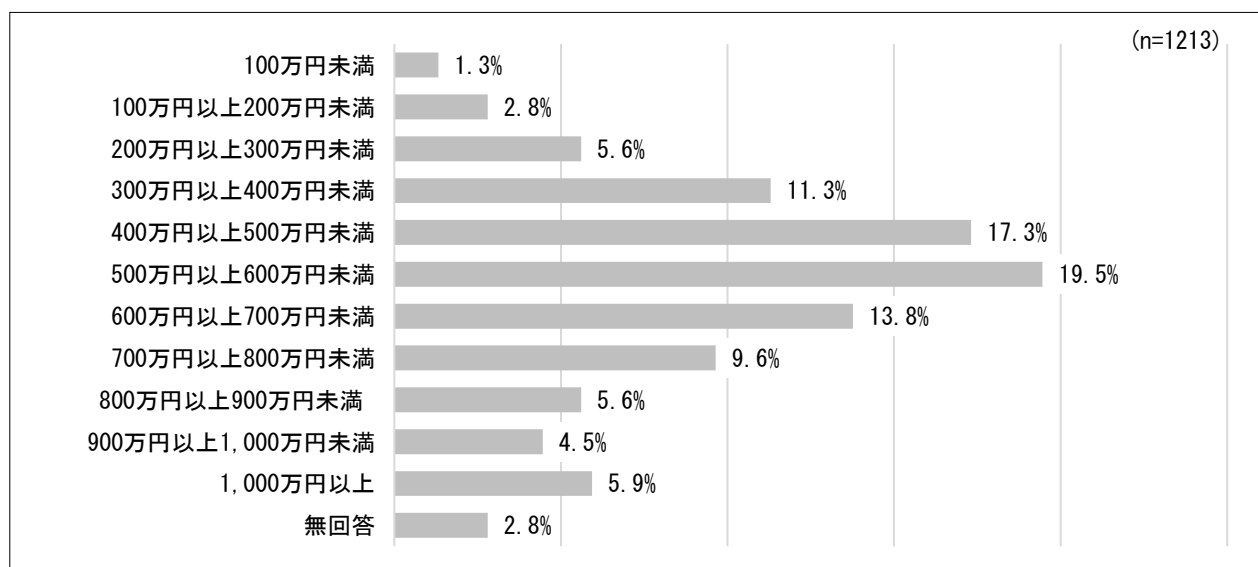


放課後児童クラブをいつまで利用させたいかについては、「小学校4年生まで」から「小学校6年生まで」を希望する割合が57.0%と多く、「小学校1年生まで」から「小学校3年生まで」が43.0%となった。

(8) 生活等の状況について

1) 年収

【全学年】

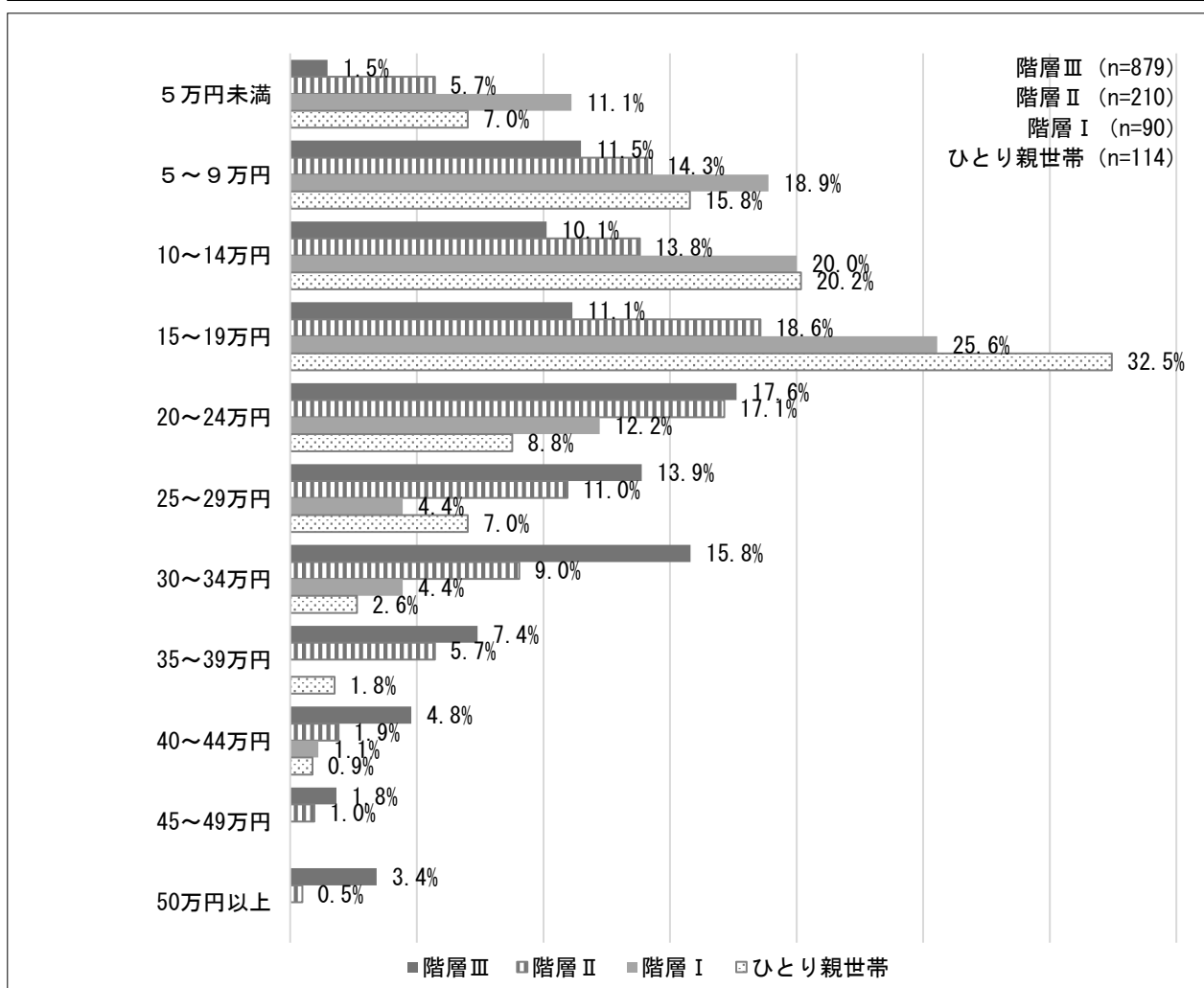
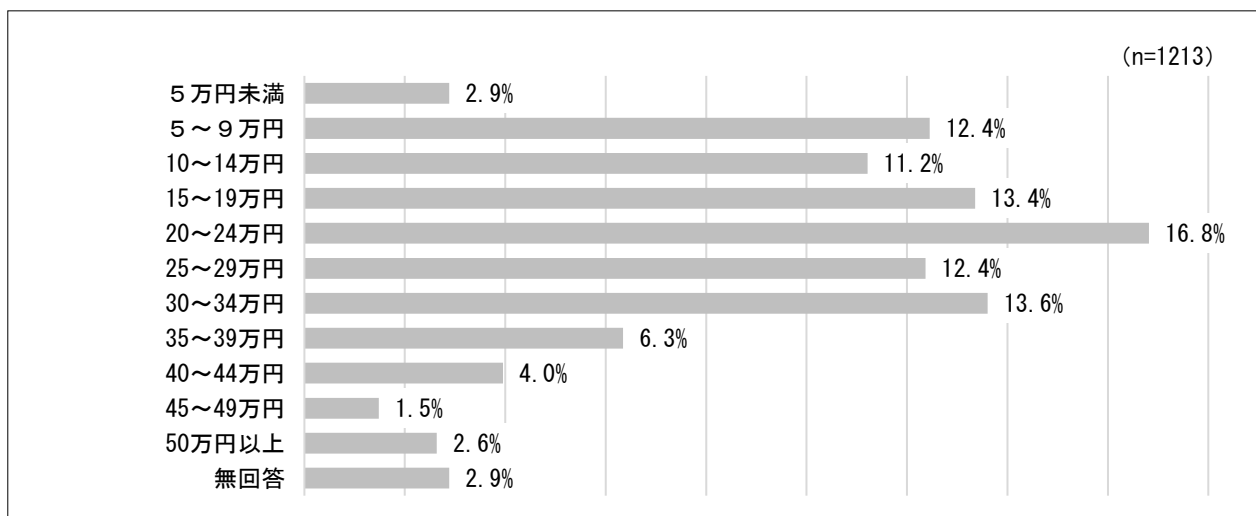


世帯の年収について、全体では「500万円以上600万円未満」が19.5%と最も多い。

両親世帯とひとり親世帯の比較では、ひとり親世帯の57.9%が困窮度がやや高い又は困窮度が高いと考えられる年収300万円未満となっている。

2) 1か月に支払う生活費

【全学年】



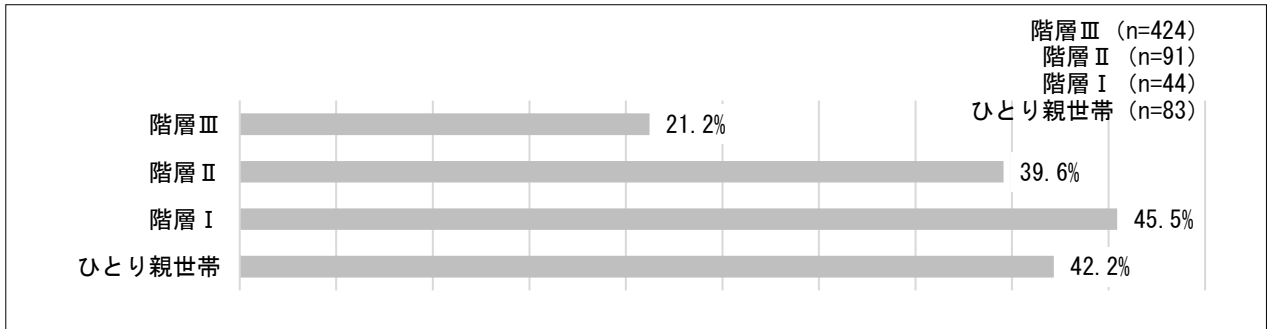
1か月に支払う生活費については、全体で「20～24万円」が16.8%と最も多く、次いで「30～34万円」が13.6%となった。

階層別にみると、困窮度の高い階層Ⅰやひとり親世帯においては、全体で最も多かった「20～24万円」よりも少ない「15～19万円」以下の割合が高い。

3) 塾や習い事にかかる金額

【小学2年生～高校2年生】

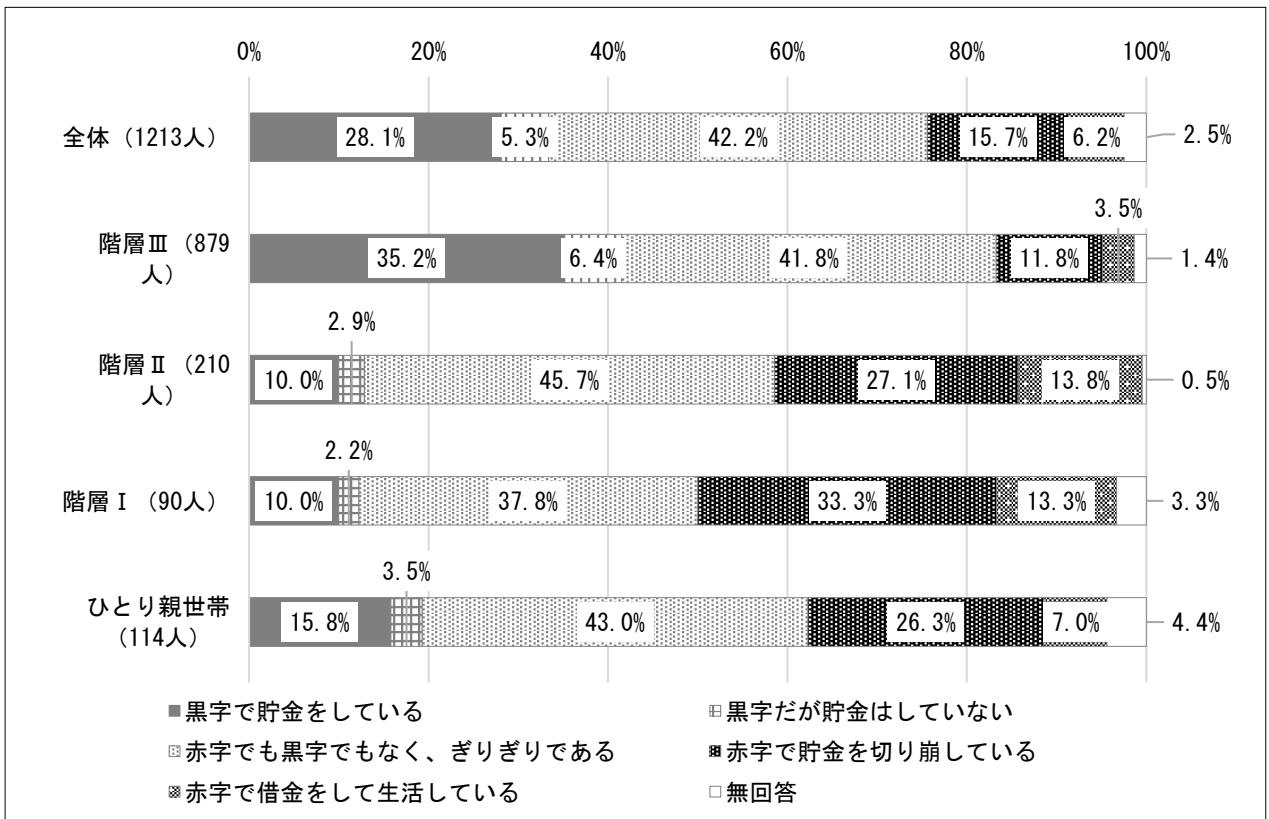
■ 塾や習い事にかかる金額が0円の割合



階層別にみると、就学児童世帯において1か月に支払う生活費のうち、塾や習い事にかかる金額が「0円(かかっていない)」である世帯の割合は、困窮度の高いと考えられる階層Ⅰやひとり親世帯において高くなっている。

4) 家計の状況

【全学年】

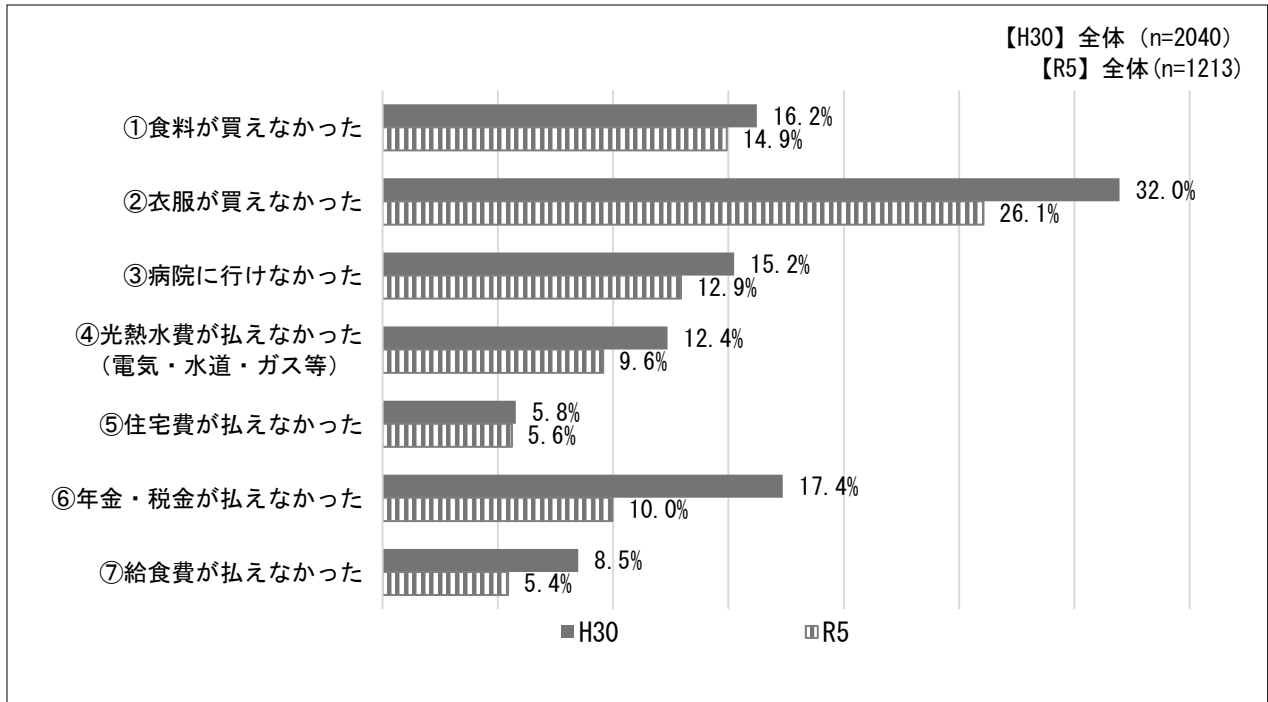


家計の状況については、全体・各階層とも、「赤字でもなく黒字でもなく、ぎりぎりである」が最も多い。

階層別にみると、階層Ⅱ・階層Ⅰで「赤字で貯金を切り崩している」「借金をして生活し

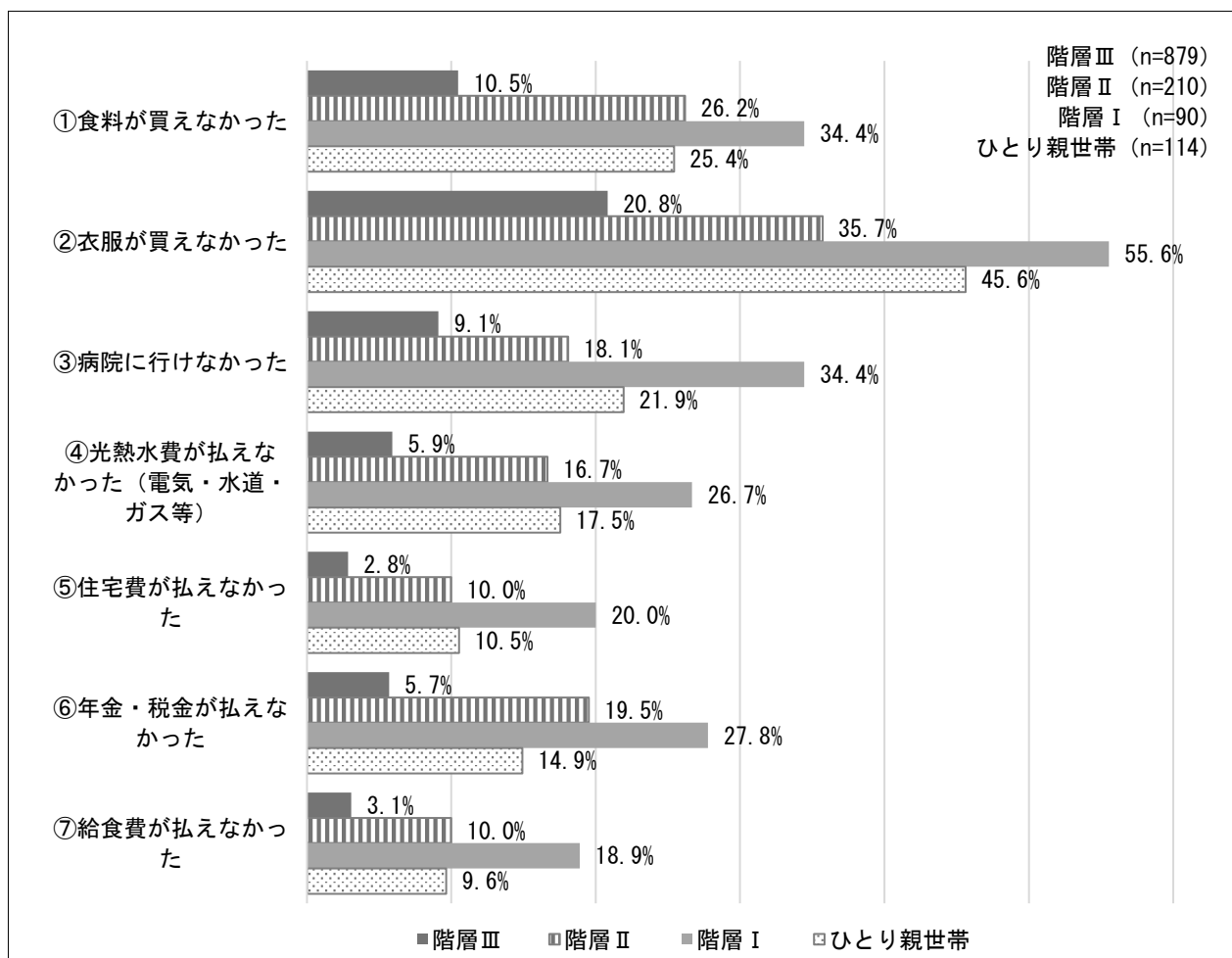
ている」の合計がそれぞれ4割を超えている。

5) 日常生活でできなかったことが「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」割合【全学年】



日常生活でできなかつたことが「あった」割合は、「衣服が買えなかつた」割合が26.1%と最も多い。

平成30年度調査時と比較すると、すべての項目においてできなかつたことがあつた割合は減少している。

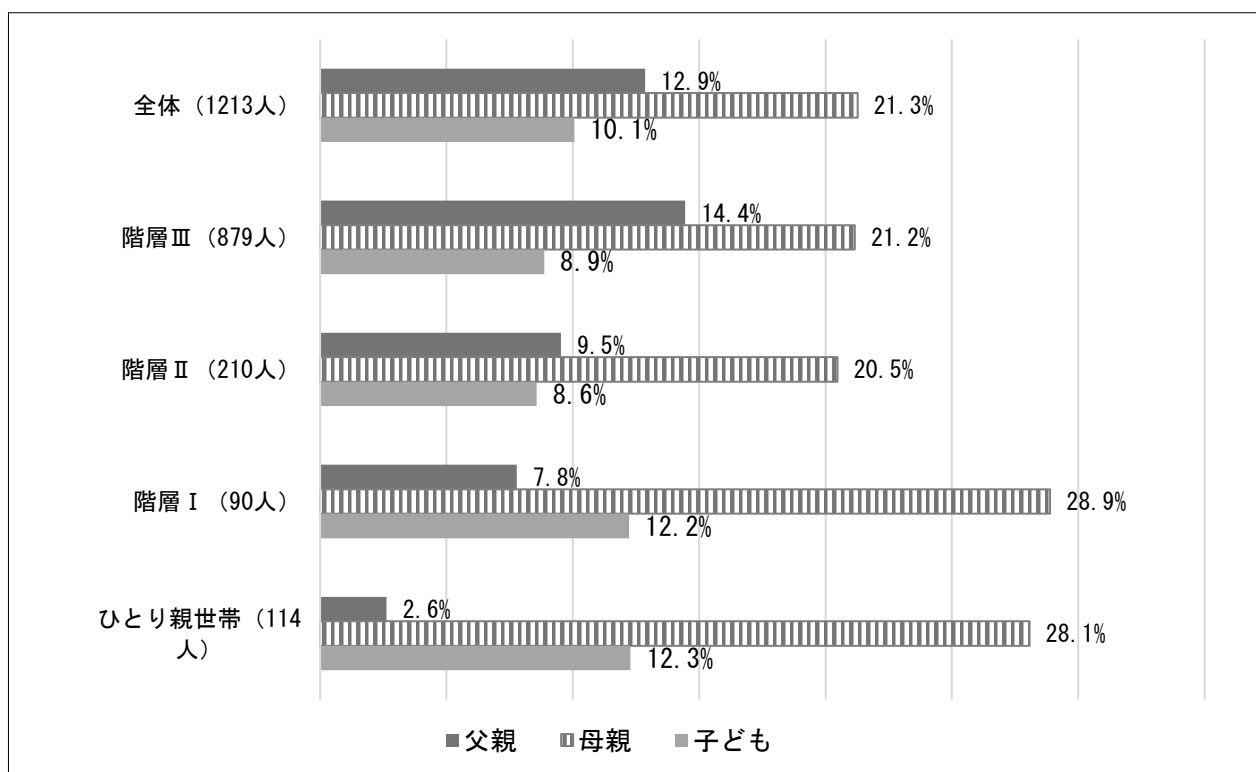


階層別にみると、各項目において、困窮度が高いと考えられる世帯ほど「できなかったことがあった」と回答する割合が高い。また、ひとり世帯の45.6%が「衣類が買えなかった」、21.9%が「病院に行けなかった」と回答している。

(9) 健康・食生活の状況

1) 定期的に通院または入院している割合

【全学年】



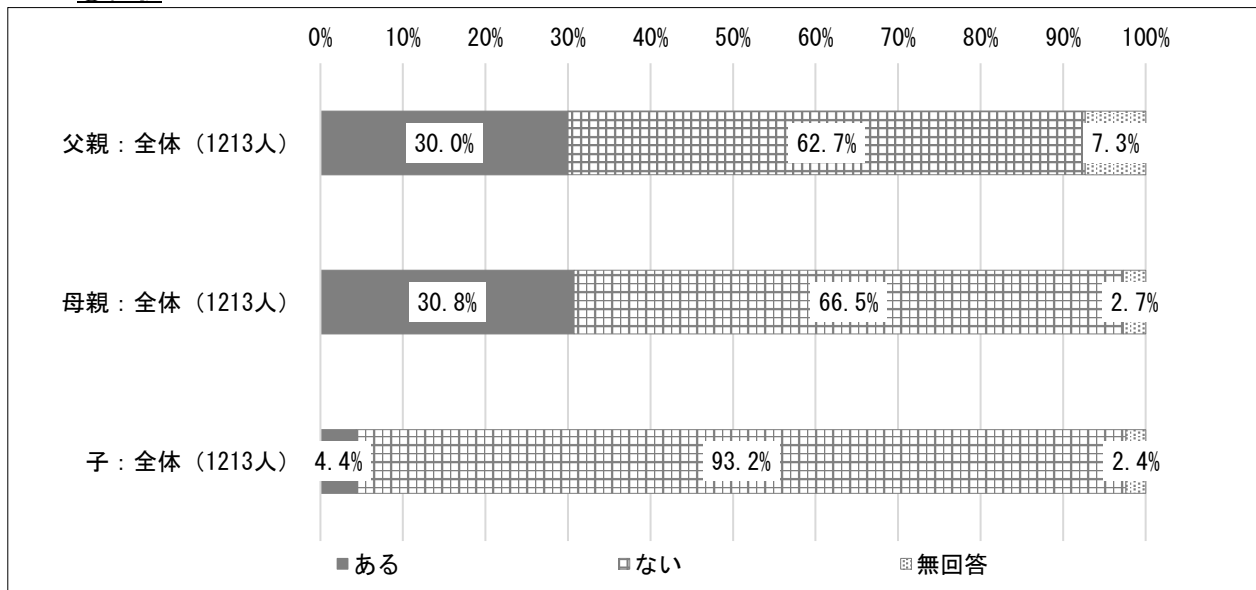
定期的に通院または入院している割合は、子どもは全体の約1割、母親は約2割、父親は約1割となっている。

階層別にみると、困窮度が高いと考えられる階層Ⅰ・ひとり親世帯では、母親が通院または入院している割合が多い。

2) 病院を受診しなかった経験・理由

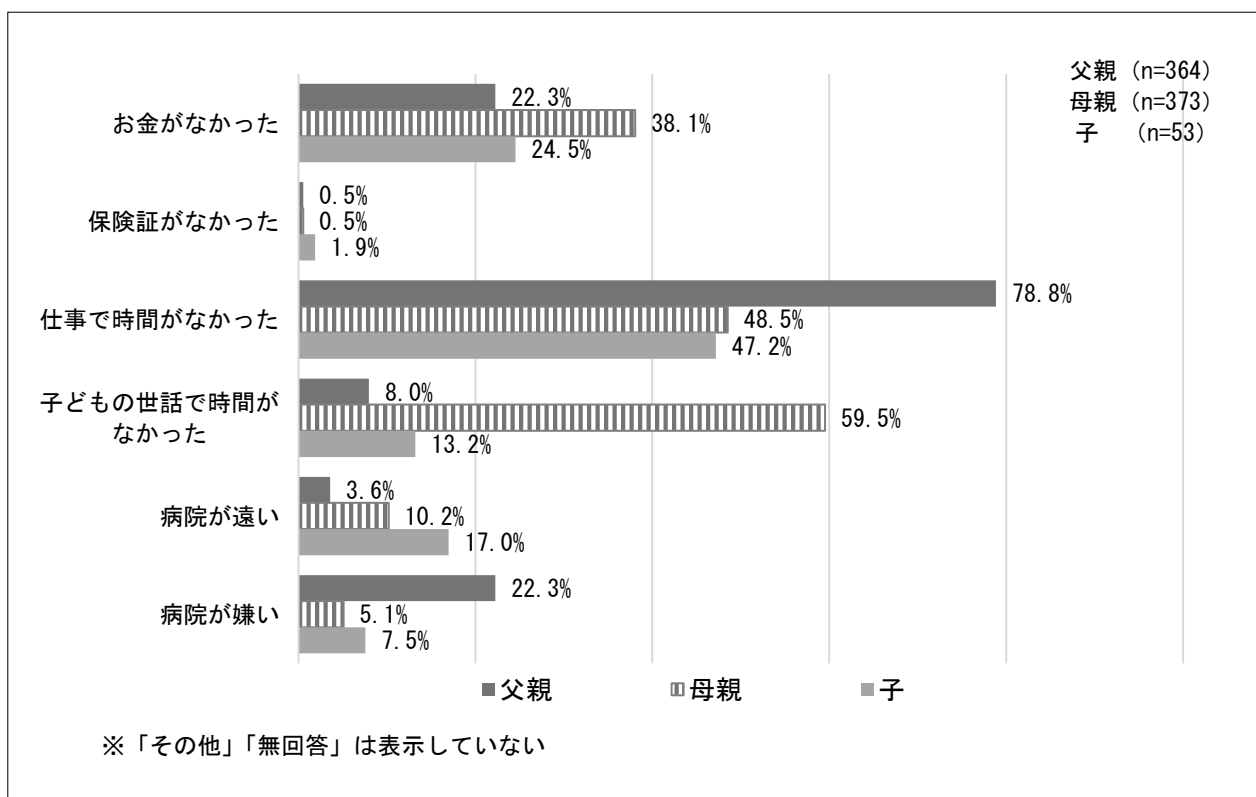
【全学年】

①経験



病院を受診しなかった（させなかった）経験については、母親が30.8%と最も多い。

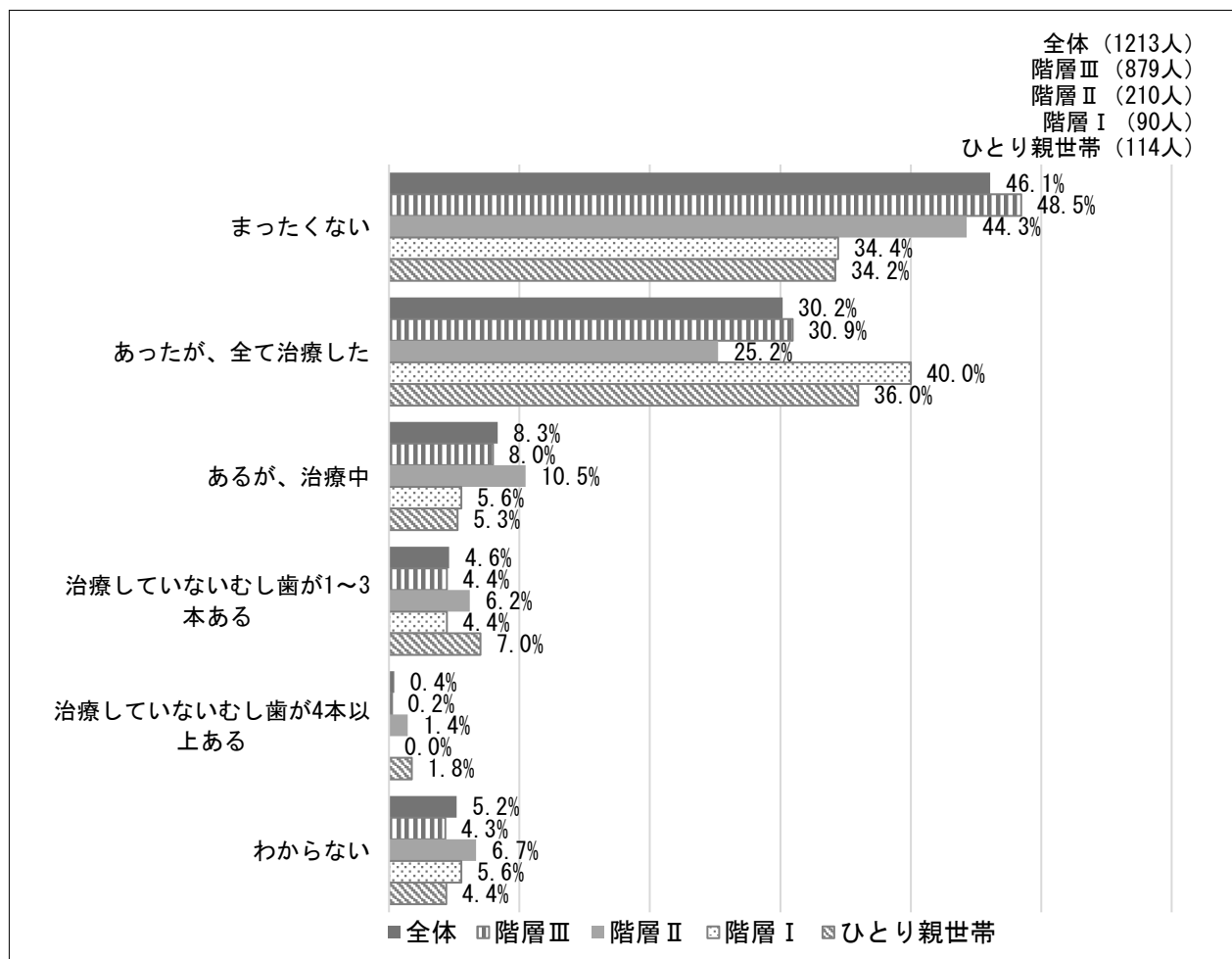
②理由



病院を受診しなかった（させなかった）理由については、「仕事で時間がなかった」が父親・子どもで多く、母親は「子どもの世話で時間がなかった」が最も多い。

3) 子どものむし歯の状況

【全学年】

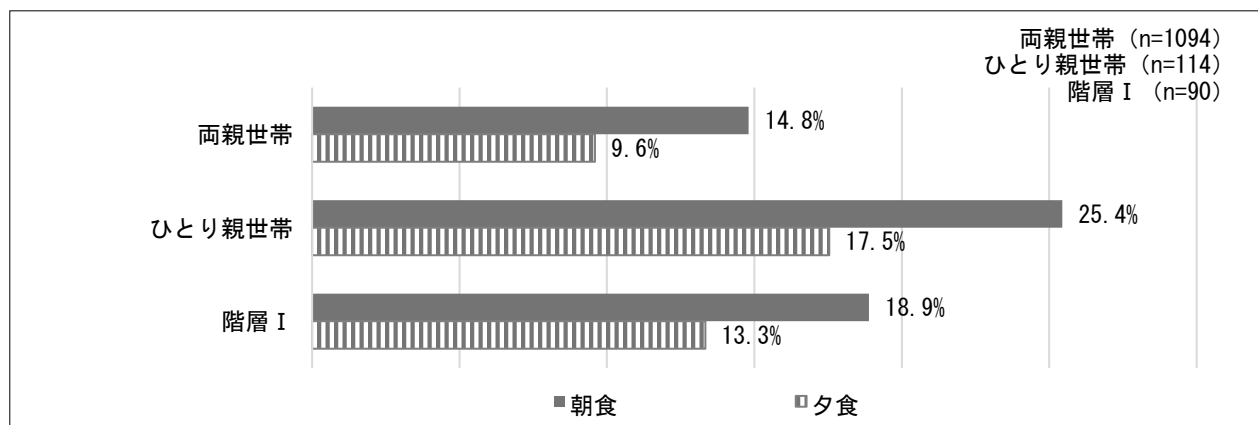


治療していないむし歯のある子どもは全体で5%となっており、ひとり親世帯で比較的高い傾向がみられる。

4) 子どもの孤食の状況

【全学年】

■週2日以上子どもがひとりで食事をとっている割合



子どもが1人で朝食をとる頻度が週に2日以上ある割合は、両親世帯では14.8%、ひとり親世帯では25.4%、困窮度が高いと考えられる階層Iでは18.9%である。

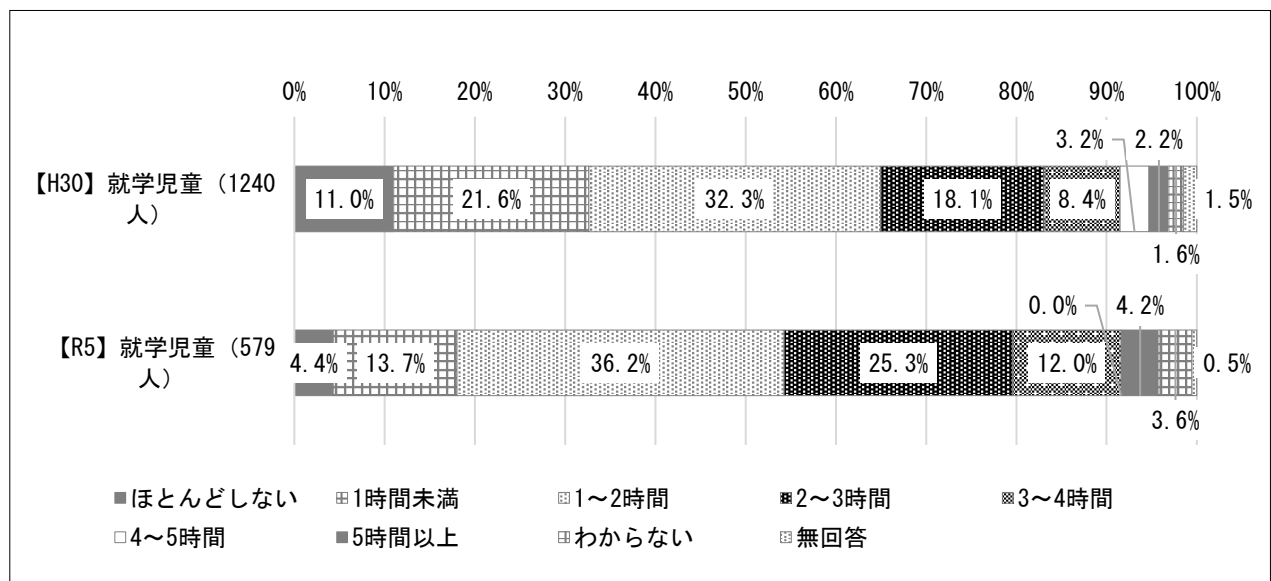
子どもが1人で夕食をとる頻度が週に2日以上ある割合は、両親世帯では9.6%、ひとり親世帯では17.5%、階層Iでは13.3%である。

ひとり親世帯においては、子どもが1人で食事をとる頻度が朝食・夕食ともに高い傾向にある。

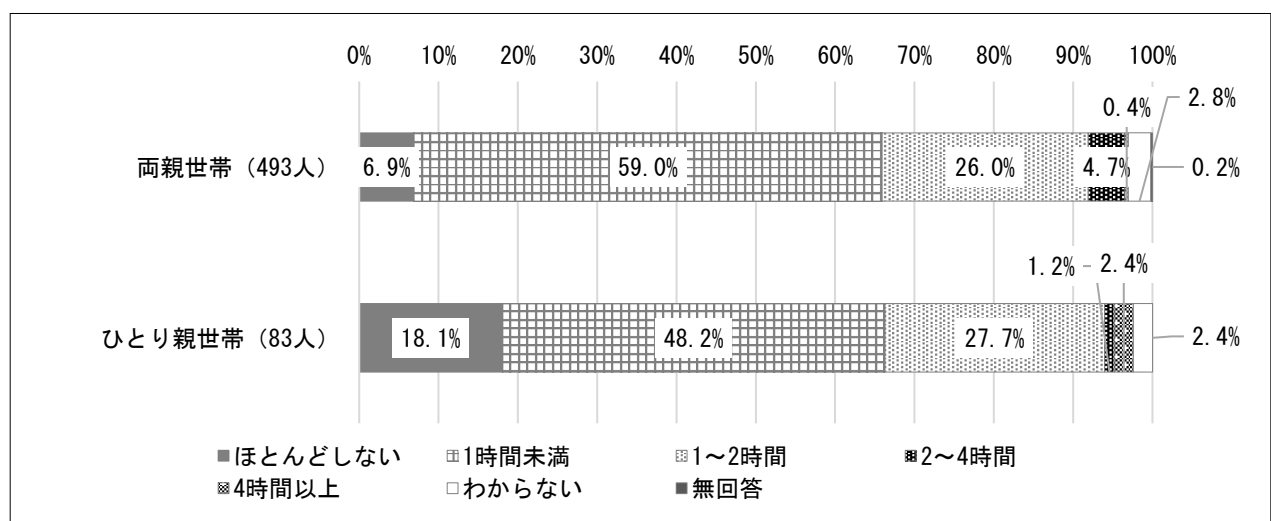
(10) 学習・進学について

1) 1日の家庭での学習時間

【小学2年生～高校2年生】



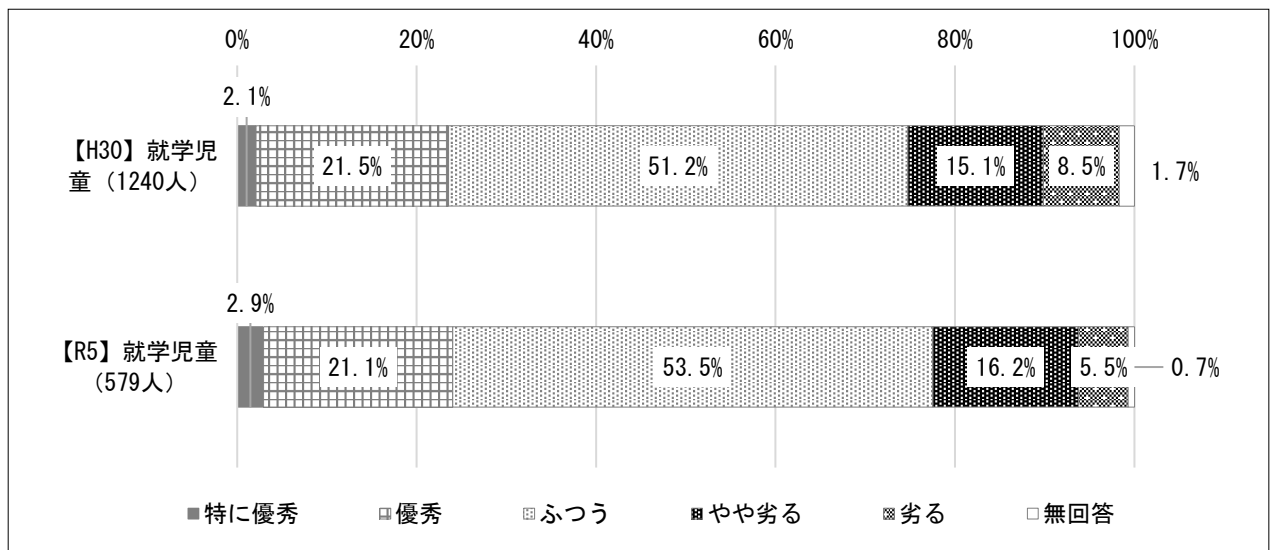
子どもの1日の家庭での学習時間については、「1～2時間」が36.2%と最も多い。また、「ほとんどしない」が4.4%と、平成30年度調査時点から6.6ポイント減少している。



両親世帯とひとり親世帯を比較すると、両親世帯では「ほとんどしない」が6.9%であるのに対し、ひとり親世帯では18.1%と多い。

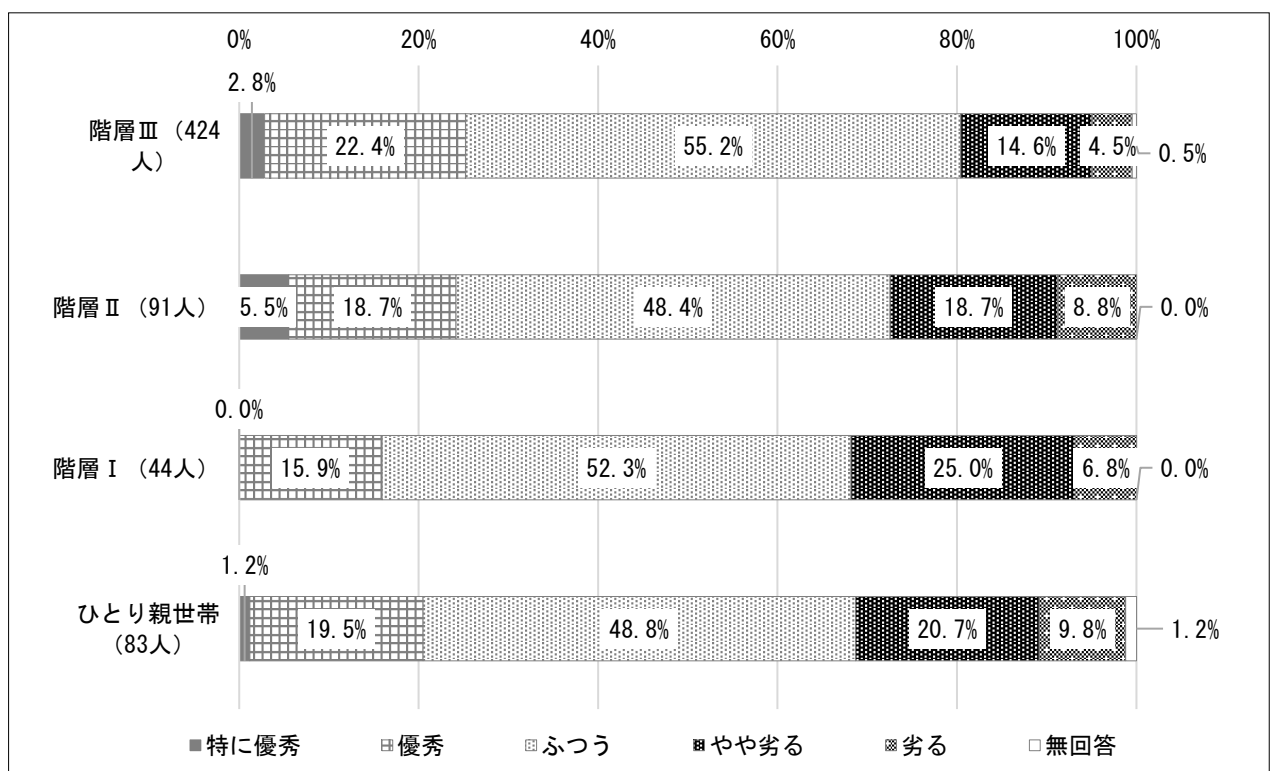
2) 子どもの成績について

【小学2年生～高校2年生】



子どもの成績については、「ふつう」が53.5%と最も多く、次いで「優秀」が21.1%となっている。

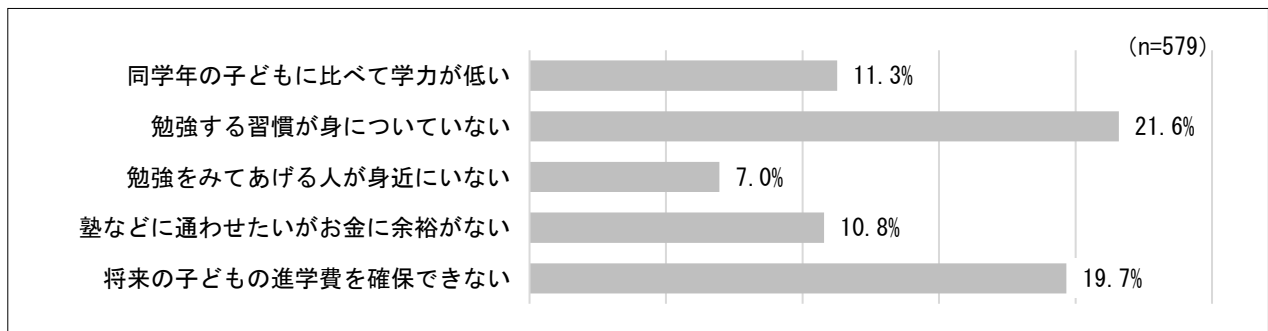
「やや劣る」「劣る」の合計が21.7%と、平成30年度調査時点と比較すると、1.9ポイント減少している。



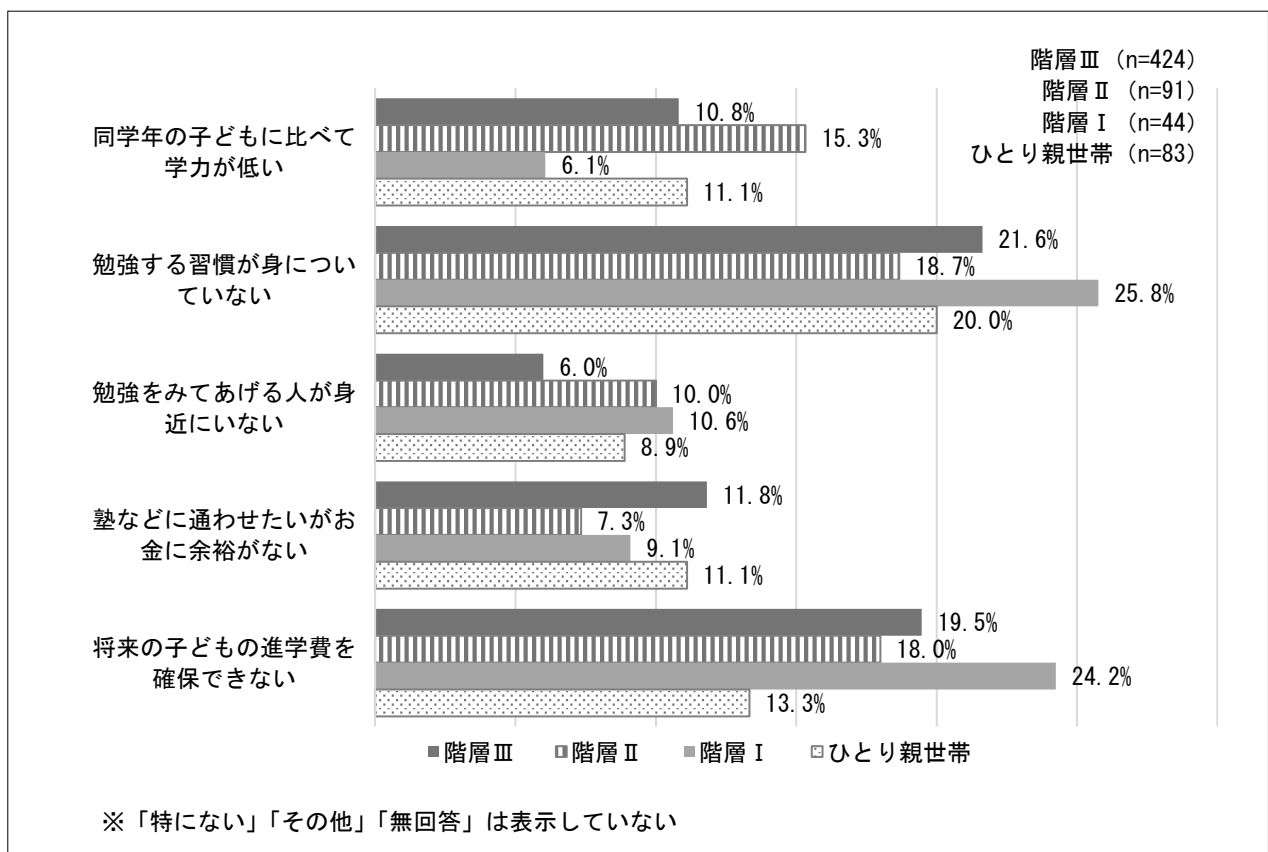
階層別にみると、困窮度が高いと考えられる階層Ⅰやひとり親世帯では、「やや劣る」「劣る」の割合が高い傾向がみられる。

3) 教育に関する困りごと

【小学2年生～高校2年生】



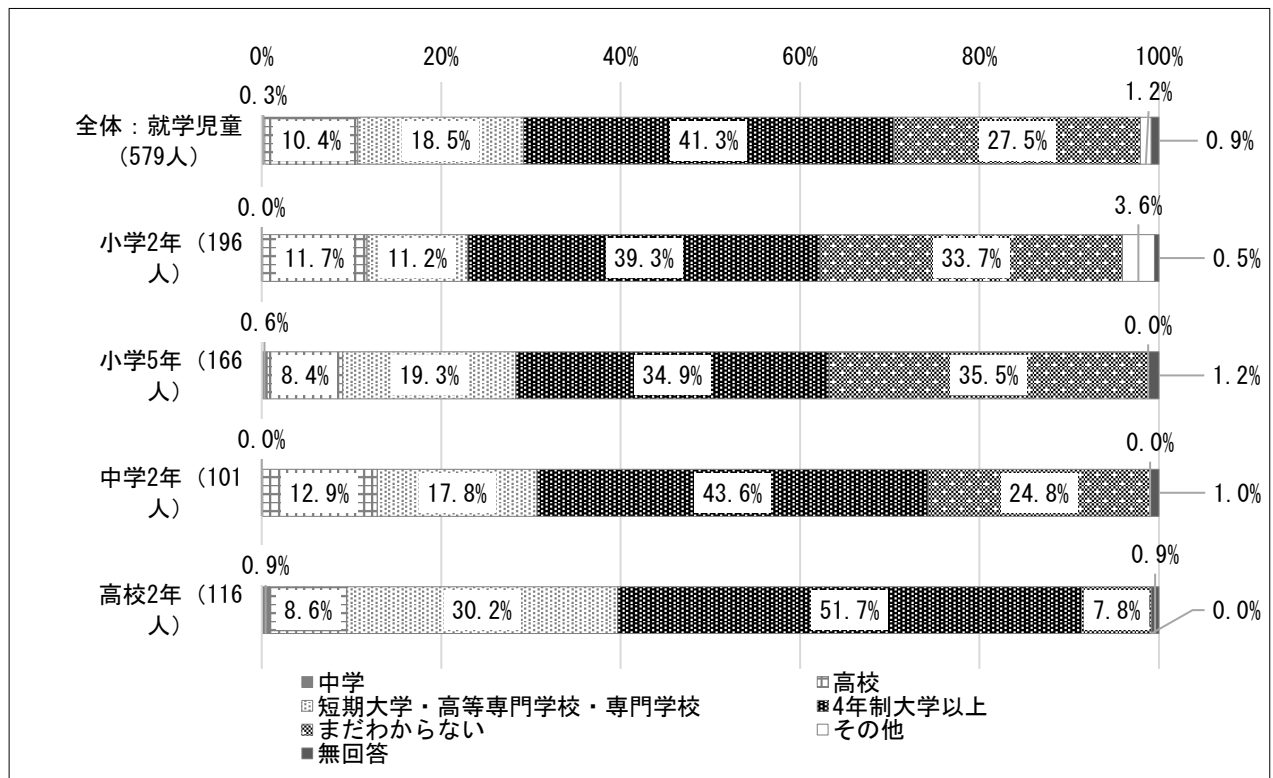
子どもの教育に関する困りごとについては、「勉強する習慣が身につけていない」が21.6%と最も多く、次いで「将来の子どもの進学費を確保できない」が19.7%となっている。



階層別にみると、困窮度が高いと考えられる階層Ⅰでは、「将来の進学費を確保できない」割合が他の階層と比べて高い。

4) 子どもにどの段階まで教育を受けさせるか

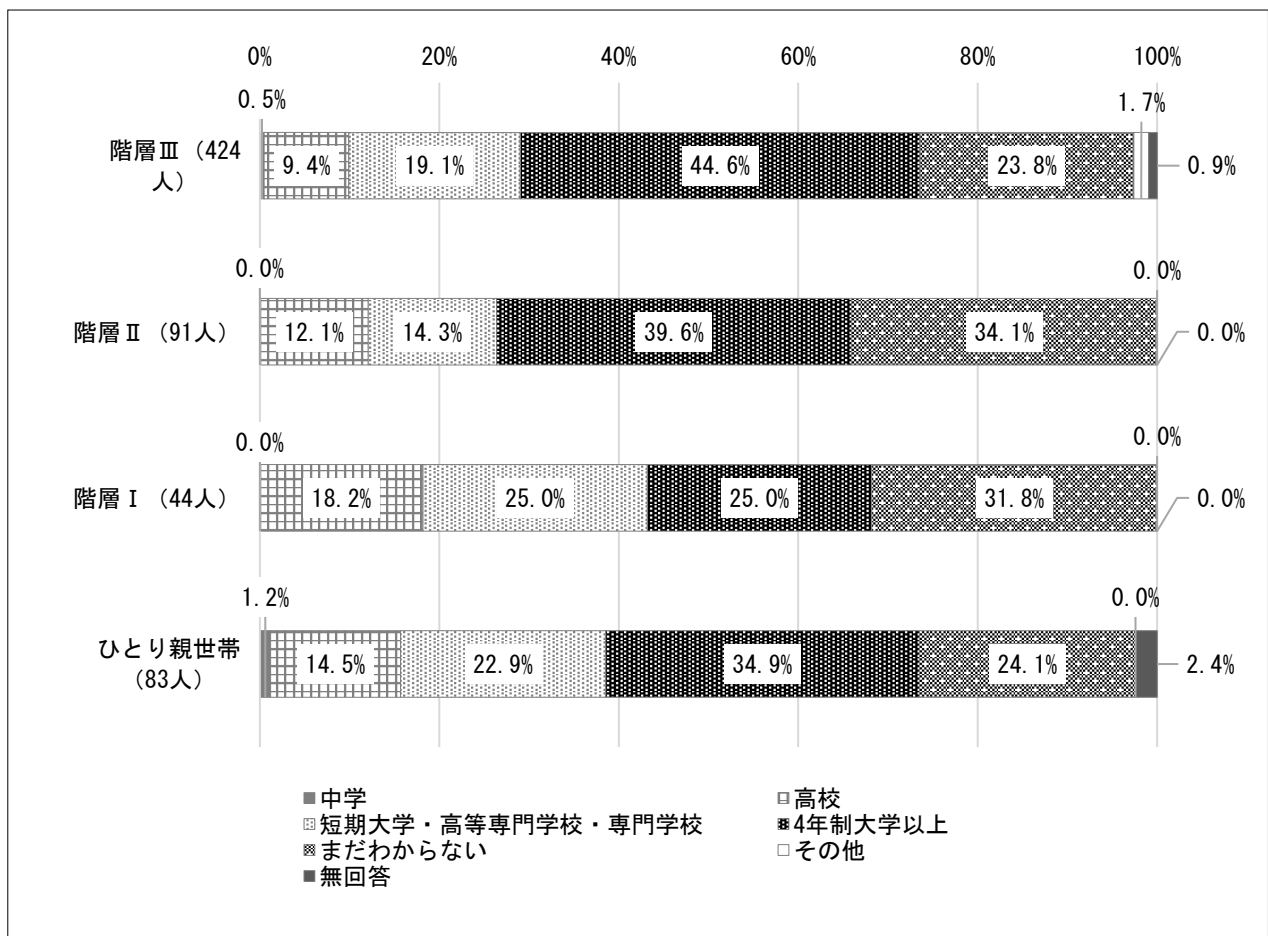
【小学2年生～高校2年生】



子どもにどの段階まで教育を受けさせるかについては、「4年制大学以上」が41.3%と最も多く、次いで「まだわからない」が27.5%となっている。

学年別で見ると、小学2年生、小学5年生の保護者では「まだわからない」割合が3割以上となった。

高校生2年の保護者においては「短期大学・高等専門学校・専門学校」が約3割、「4年制大学以上」が5割を超えている。

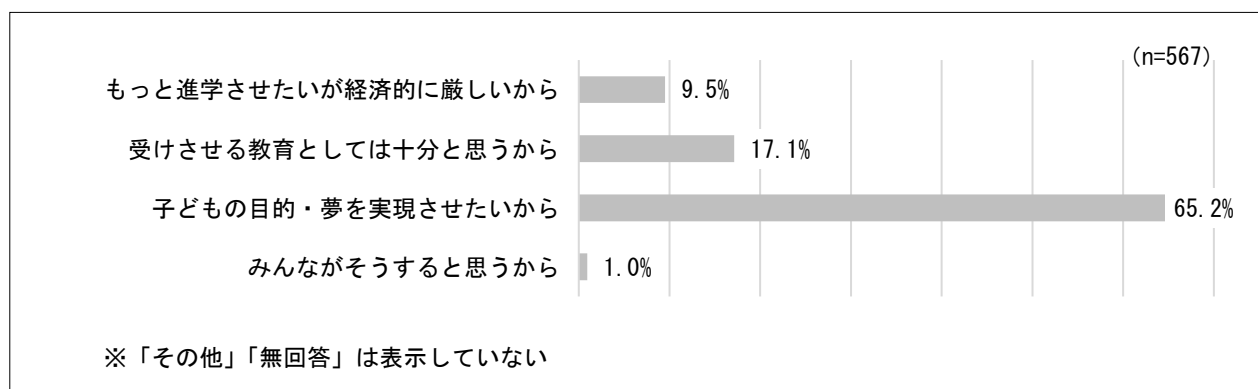


階層別にみると、困窮度が高いと考えられる階層Ⅰやひとり親世帯では、「中学」「高校」「短期大学・高等専門学校・専門学校」の割合が高い。

5) 4) の子どもにどの段階まで教育を受けさせるかの理由

【全学年】

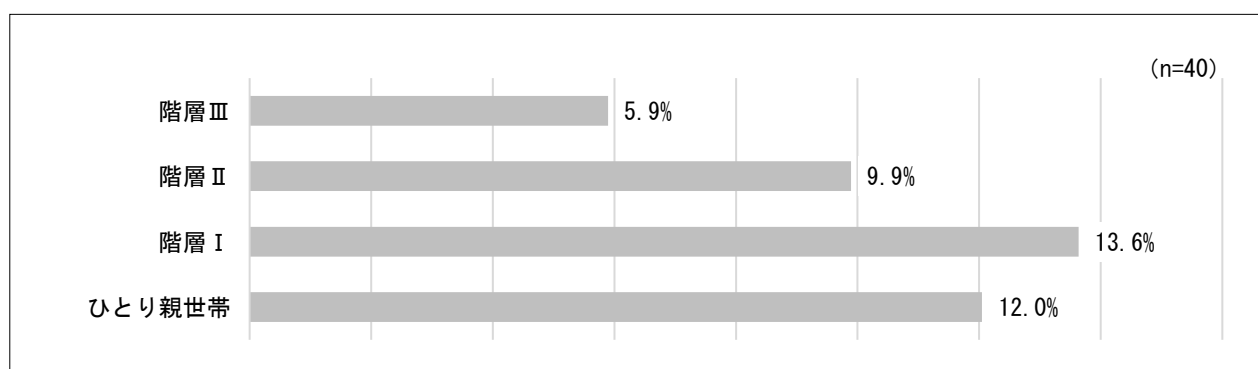
①理由



子どもにどの段階まで教育を受けさせるかの理由について、「子どもの目的・夢を実現させたいから」が65.2%と最も多い。

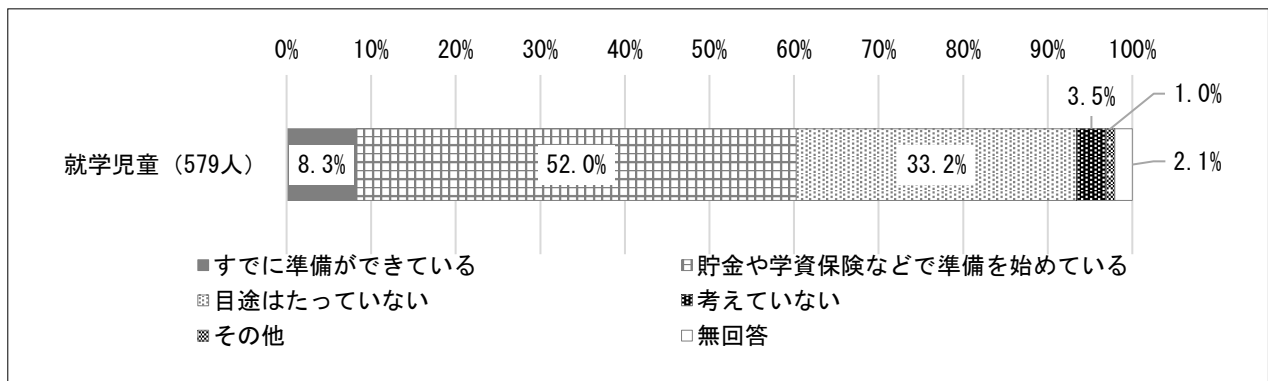
「もっと進学させたいが経済的に厳しいから」と回答した割合は、全体では9.5%となった。

②「もっと進学させたいが経済的に厳しいから」と回答した割合

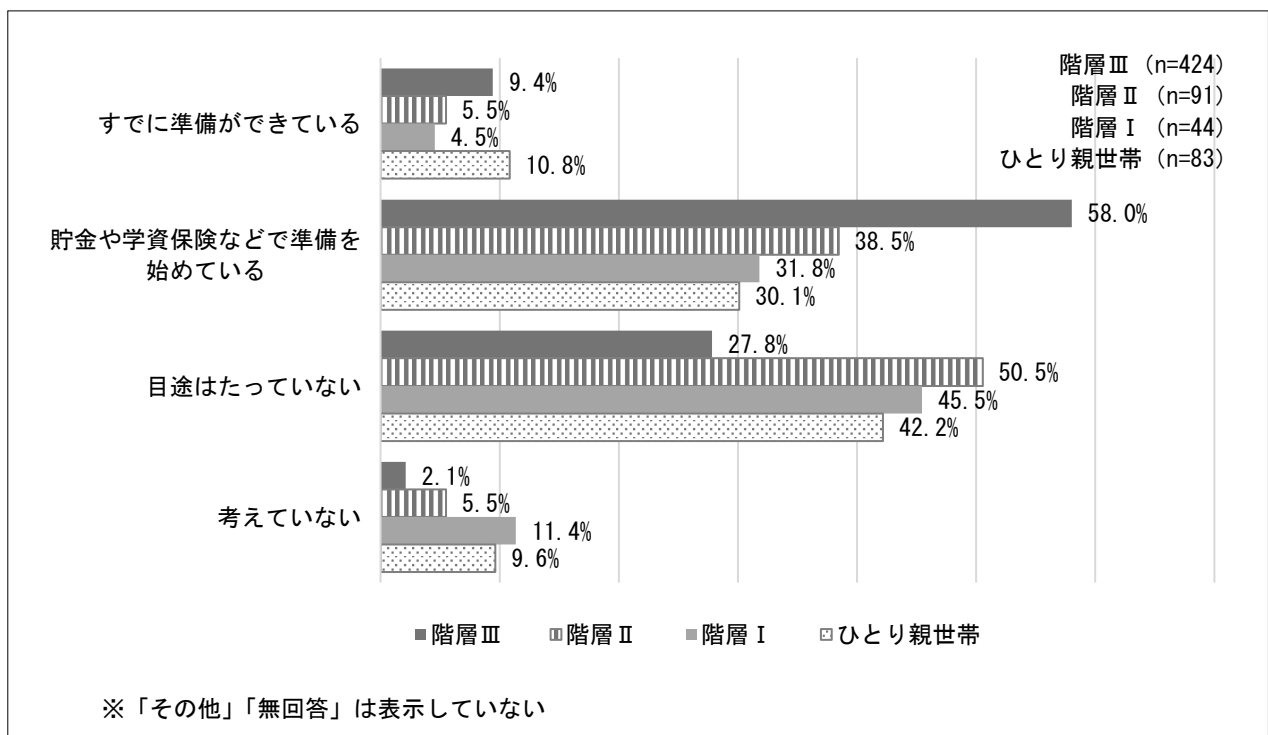


階層別にみると、「もっと進学させたいが経済的に厳しいから」と回答した割合は、困窮度がやや高いと考えられる階層Ⅱや困窮度が高いと考えられる階層Ⅰ、ひとり親世帯では、占める割合が高い。

5) 子どもの将来の教育費用
【小学2年生～高校2年生】



子どもの将来の教育費用について、「すでに準備が出来ている」「貯金や学資保険などで準備を始めている」の合計 60.3%に対し、「目途はたっていない」が 33.2%となった。



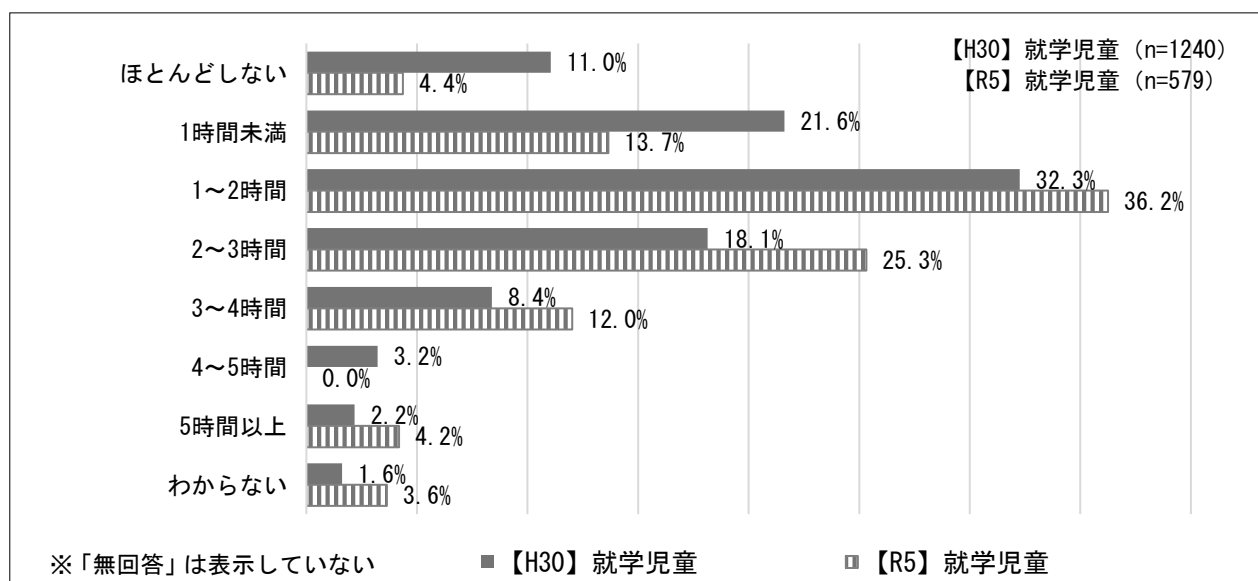
階層別にみると、階層Ⅲでは「すでに準備ができている」「貯金や学資保険などで準備を始めている」と回答した割合が高いのに対し、困窮度がやや高いと考えられる階層Ⅱや困窮度が高いと考えられる階層Ⅰ、ひとり親世帯においては、階層Ⅲと比較するとその割合は低くなっている。

また、困窮度がやや高いと考えられる階層Ⅱや困窮度が高いと考えられる階層Ⅰ、ひとり親世帯においては「目途はたっていない」「考えていない」割合が高い傾向にある。

(11) ゲーム・インターネットについて

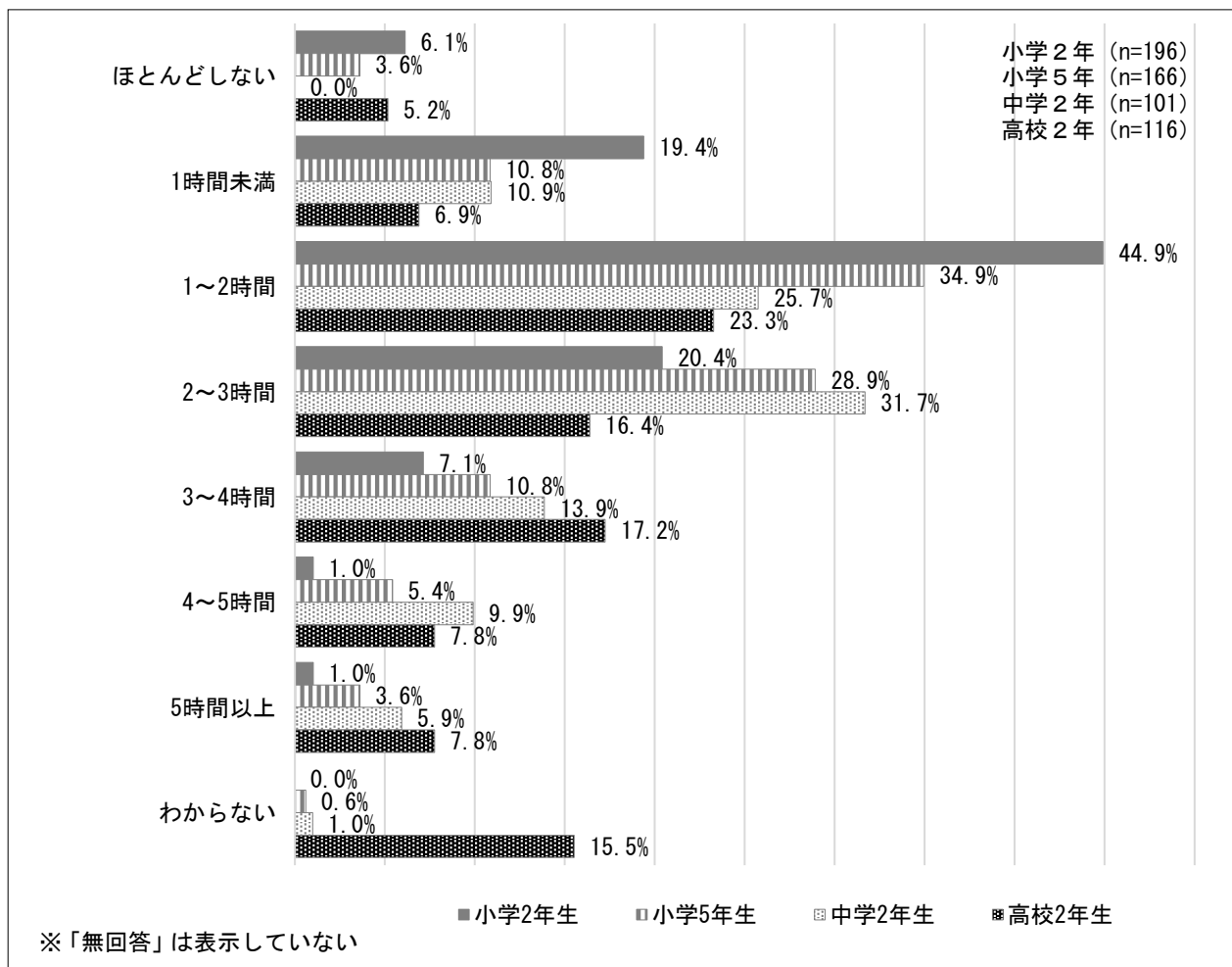
1) ゲームやインターネットの利用時間について

【小学2年生～高校2年生】



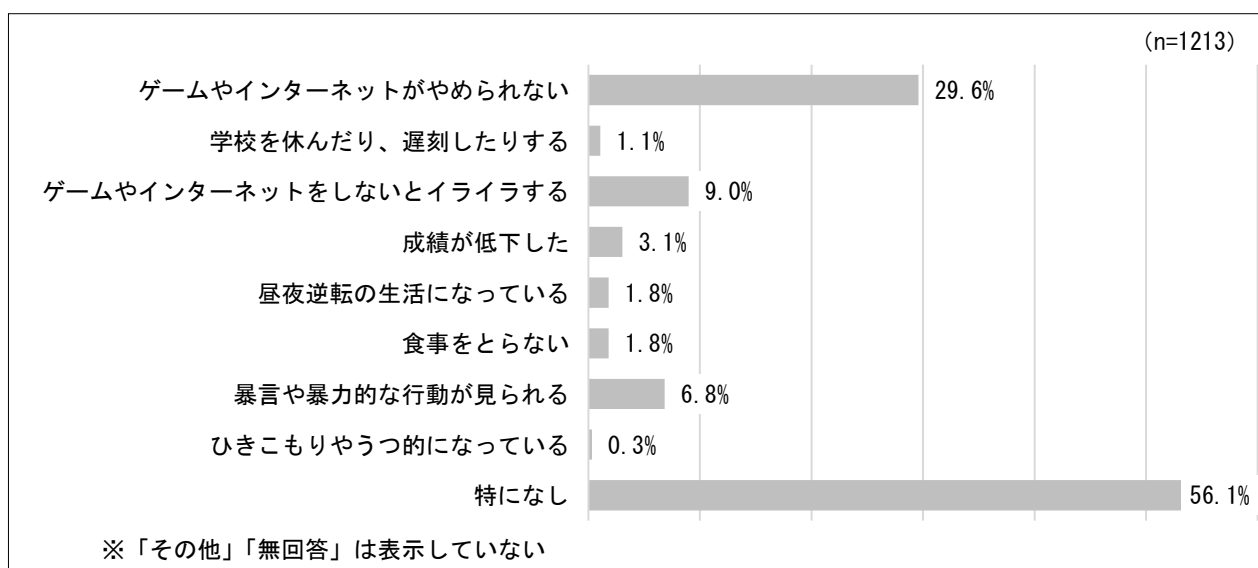
ゲームやインターネットの利用時間について、「1時間～2時間」が36.2%と最も多く、次いで「2～3時間」が25.3%となっている。

ゲームやインターネットの利用時間について、「ほとんどしない」「1時間未満」の割合が平成30年度調査時点と比べて低くなり、全体的に利用時間が長くなった傾向がみられる。



学年別に見ると、学年が上がるほど利用時間が長くなる傾向がみられる。

2) ゲームやインターネットの依存リスクの兆候 【全学年】



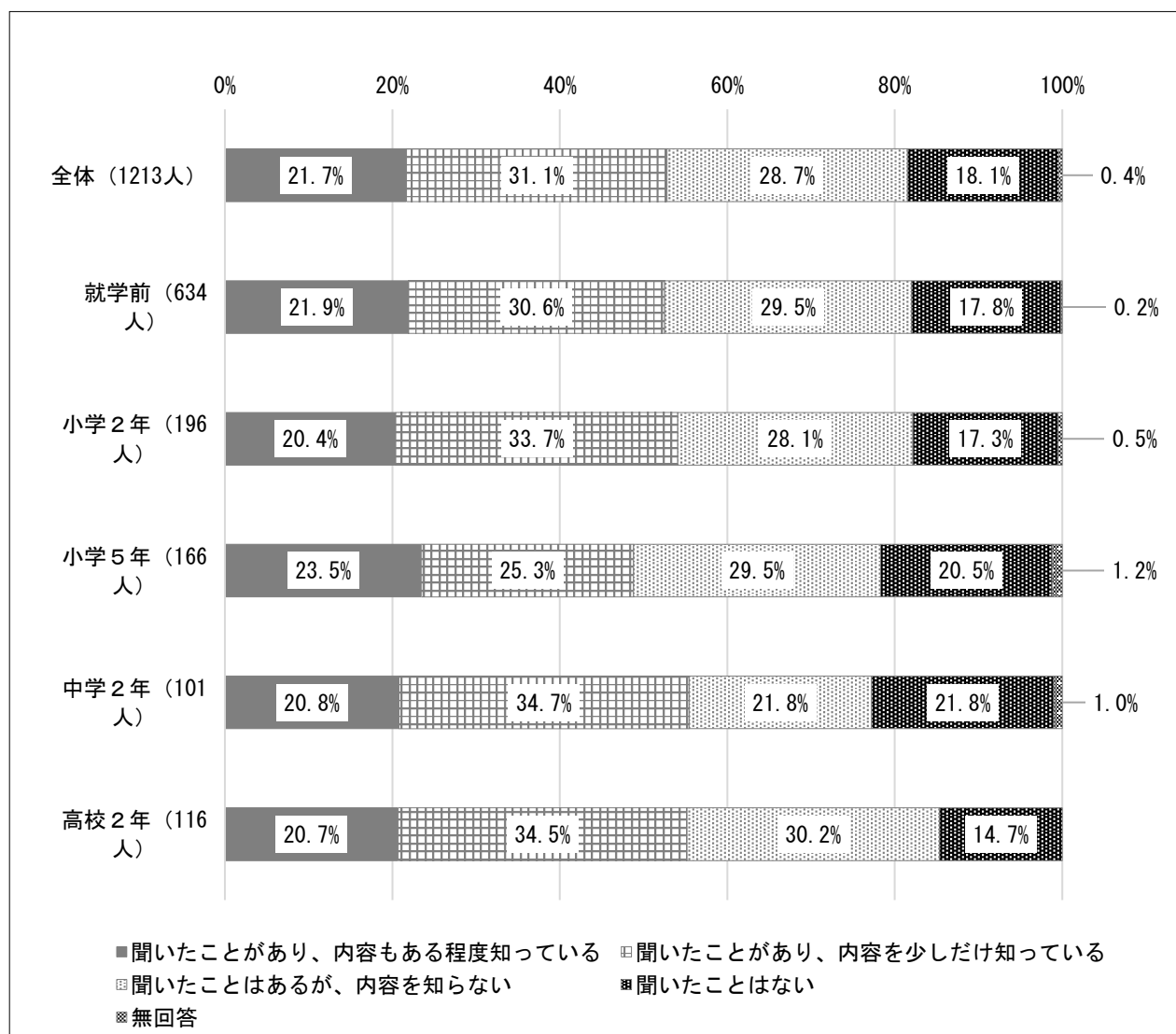
ゲームやインターネットの依存リスクの兆候については、「特になし」が56.1%と最も多い。一方、次いで「ゲームやインターネットがやめられない」が29.6%と比較的多く、「ゲームやインターネットをしないとイライラする」が9.0%、「暴言や暴力的な行動が見られる」が6.8%となった。

「学校を休んだり、遅刻したりする」「昼夜逆転の生活になっている」「食事をとらない」「ひきこもりやうつ的になっている」といった深刻なケースが疑われる状況もみられる。

(12) 子どもの権利について

1) 子どもの権利の認知度

【全学年】

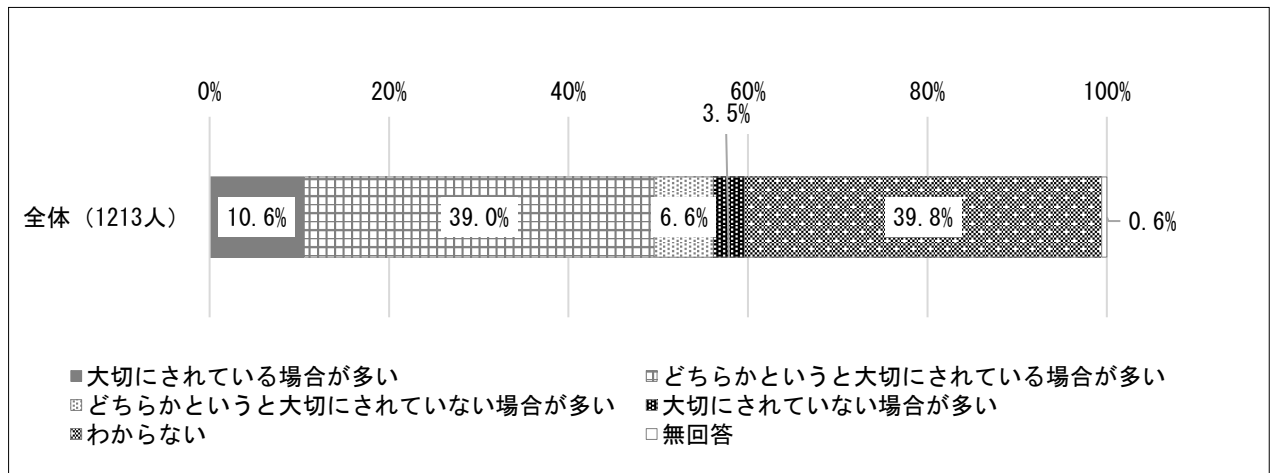


子どもの権利の認知度について、「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」の合計は52.8%と半数を上回った。

一方で、「聞いたことはあるが、内容を知らない」は28.7%、「聞いたことはない」は18.1%となっている。

学年別で見ると、子どもの権利について、「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」「聞いたことはあるが、内容を知らない」を合計した「聞いたことがある」割合は高校2年生の保護者が最も多い。

2) 子どもの権利が大切にされていると感じている割合

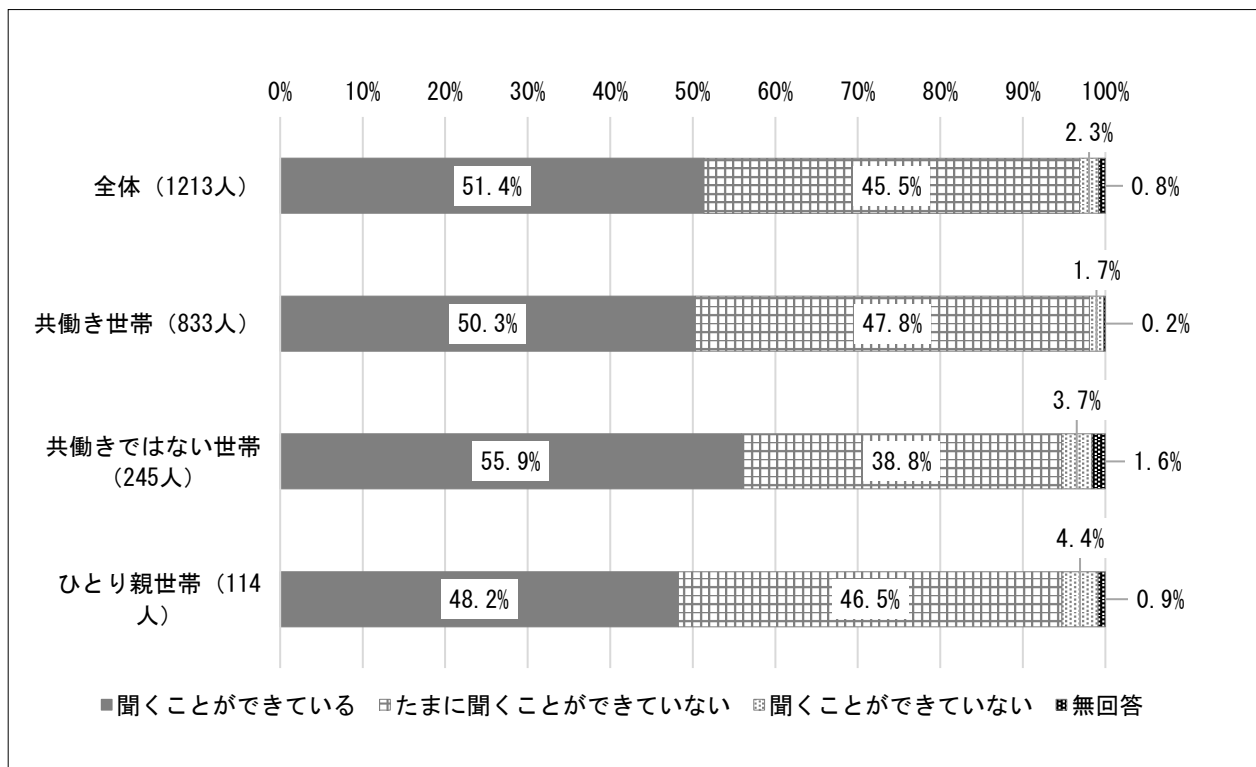


子どもの権利が大切にされていると感じている割合については、「わからない」が39.8%と最も高く、次いで「どちらかという大切にされている場合が多い」が39.0%となった。

「大切にされている場合が多い」と「どちらかという大切にされている場合が多い」を合計すると49.6%となった。

2) 家庭で子どもの意見や考えを聞く機会

【全学年】



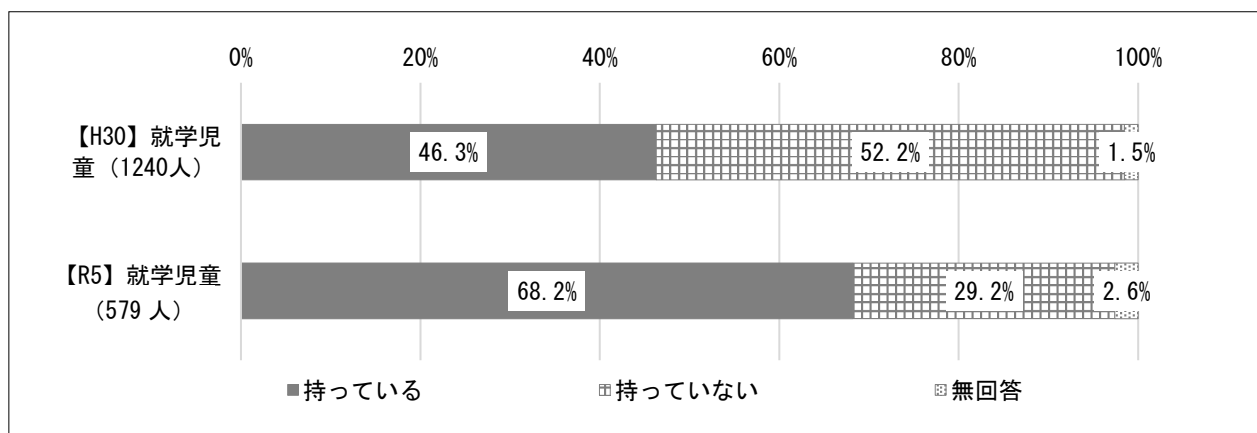
家庭で子どもの意見や考えを聞く機会については、「聞くことができる」が51.4%と半数を上回り、「たまに聞くことができていない」「聞くことができていない」の合計が47.8%となった。

保護者の就労状況からみると、共働き世帯、共働きではない世帯においては、ともに半数以上が家庭で子どもの意見や考えを聞くことができるが、ひとり親世帯においては、「聞くことができる」割合が48.2%と5割を下回った。

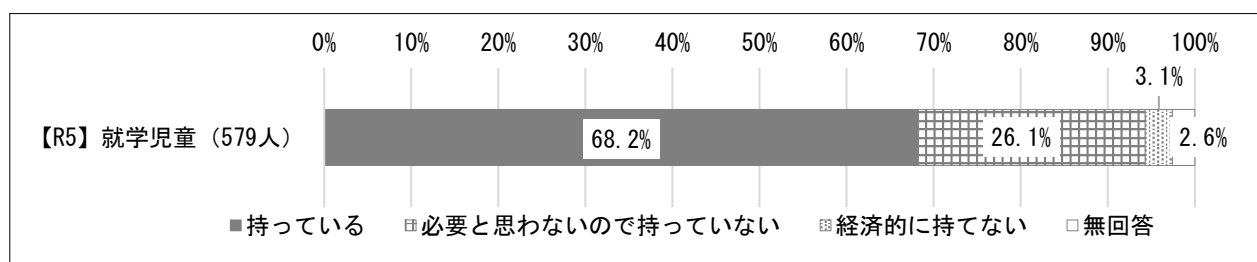
(13) その他

1) 子ども自身のスマートフォン・携帯電話の所有状況

【小学2年生～高校2年生】



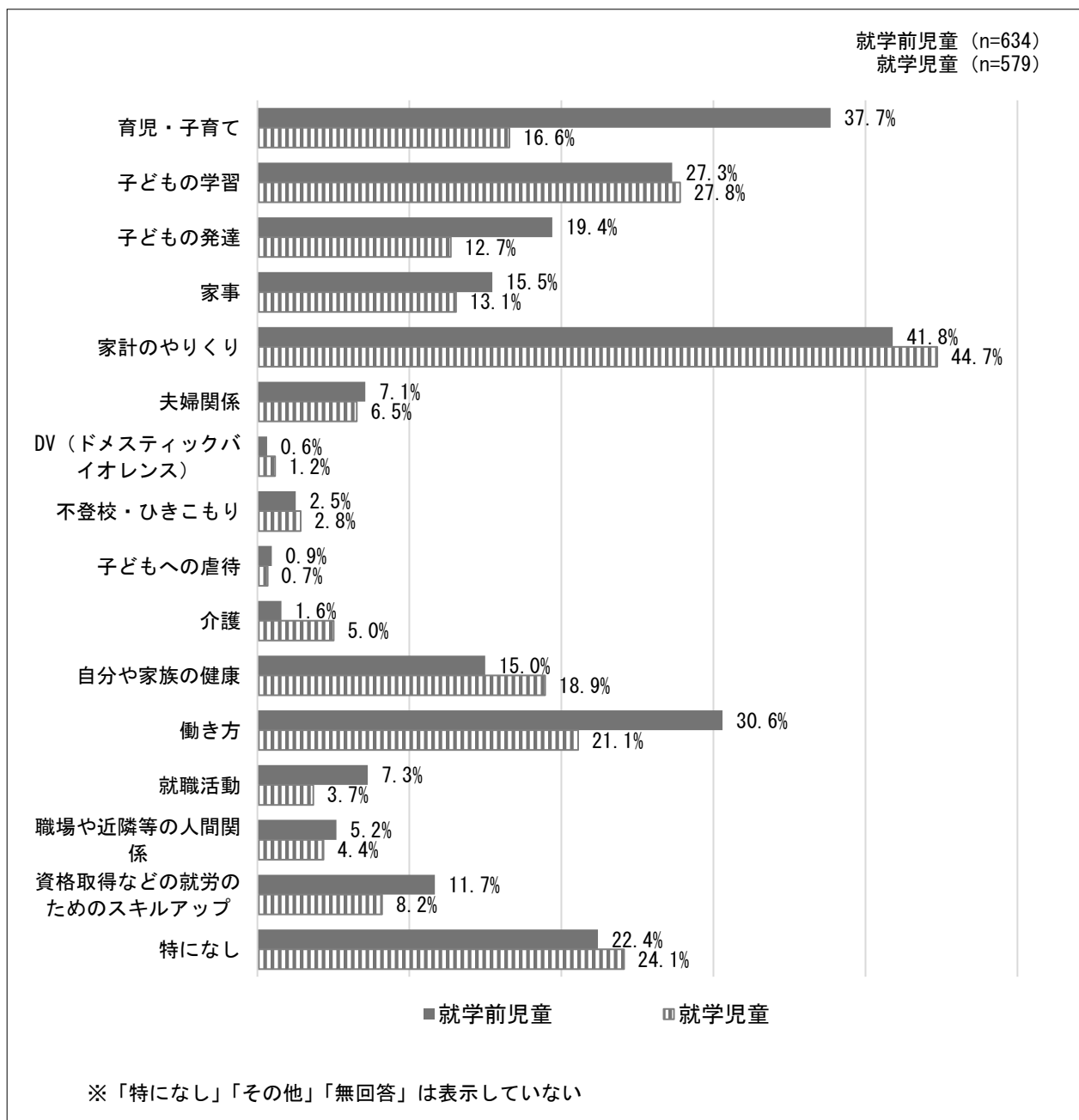
子ども自身のスマートフォン・携帯電話の所有状況について、「持っている」が68.2%と最も多く、平成30年度調査時点と比較して21.9ポイント上昇した。



令和5年度調査では「必要だと思わないので持っていない」は26.1%、「経済的に持てない」が3.1%となった。

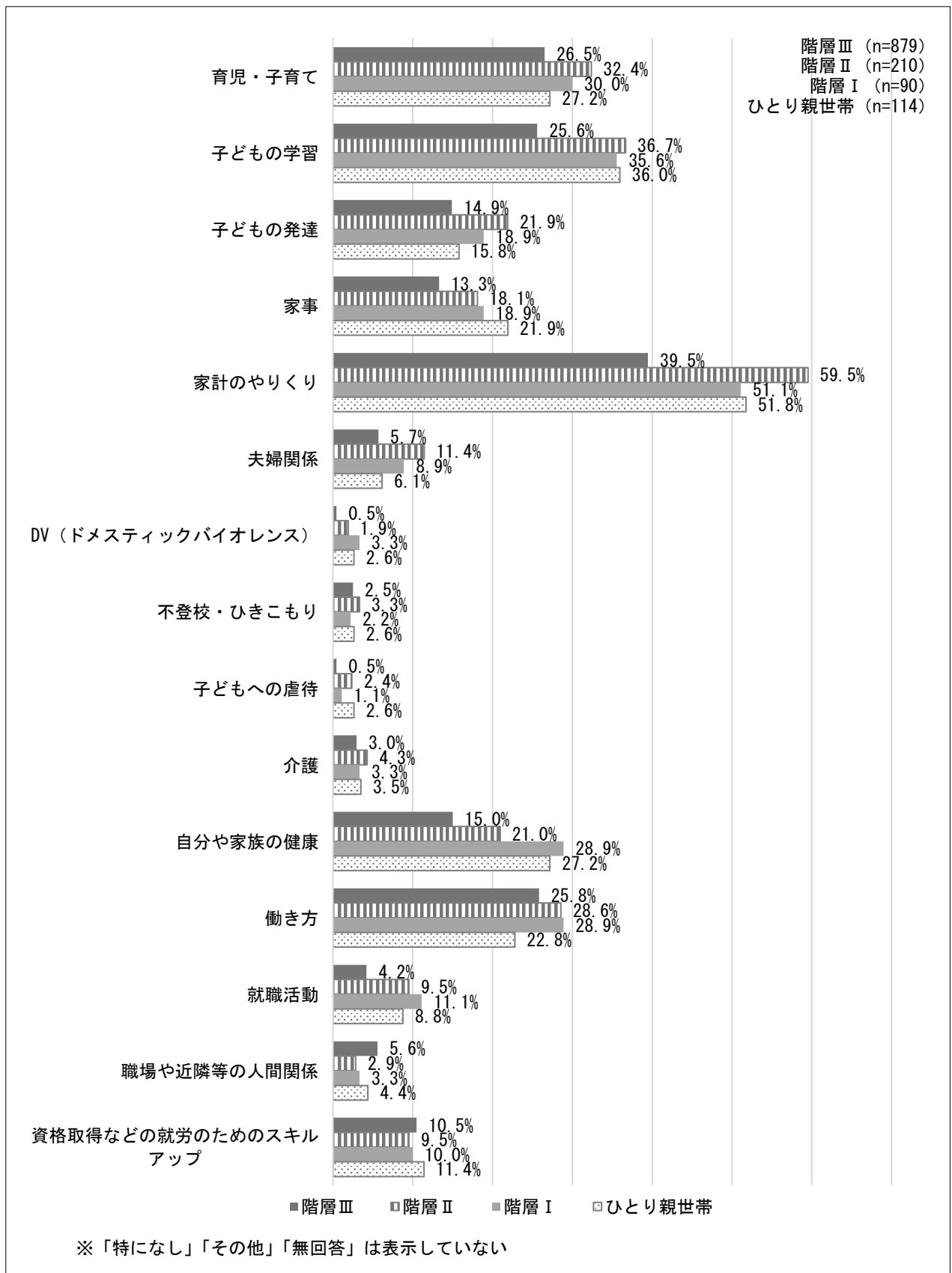
2) 家庭での困りごと

【全学年】



家庭での困りごとについては、就学前児童世帯および就学児童世帯ともに、「家計のやりくり」が最も多く、それぞれ4割以上の世帯が困りごととして挙げている。

次いで、就学前児童世帯においては、「育児・子育て」が37.7%、「働き方」が30.6%となった。就学児童世帯においては「子どもの学習」が27.8%となった。

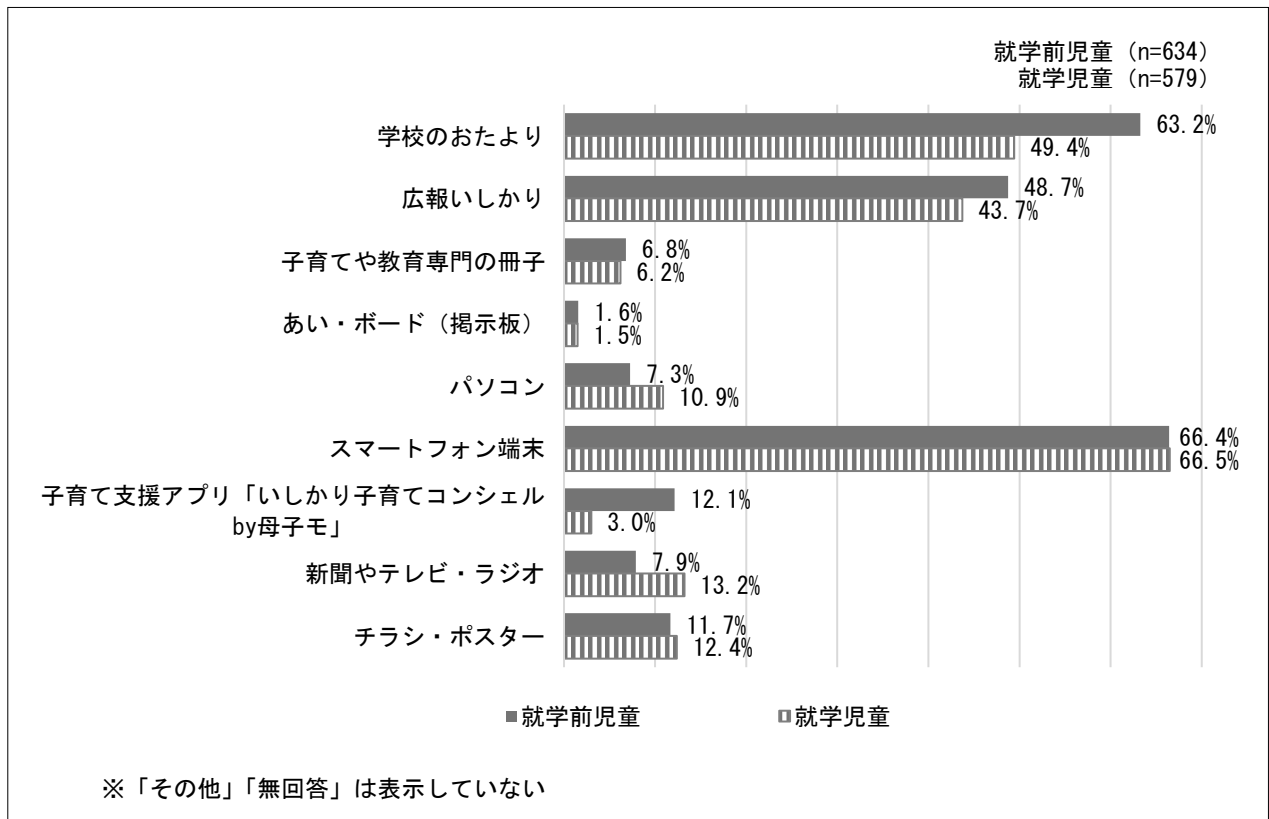


階層別にみると、どの階層においても「家計のやりくり」が最も多く、困窮度がやや高いと考えられる階層Ⅱ、困窮度が高いと考えられる階層Ⅰ、ひとり親世帯においては、それぞれ5割を上回っている。

また、「育児・子育て」「子どもの学習」「自分や家族の健康」についても、階層Ⅱ、階層Ⅰ、ひとり親世帯においては、階層Ⅲよりも割合が高くなっている。

3) 子育てに関する情報を取得する手段

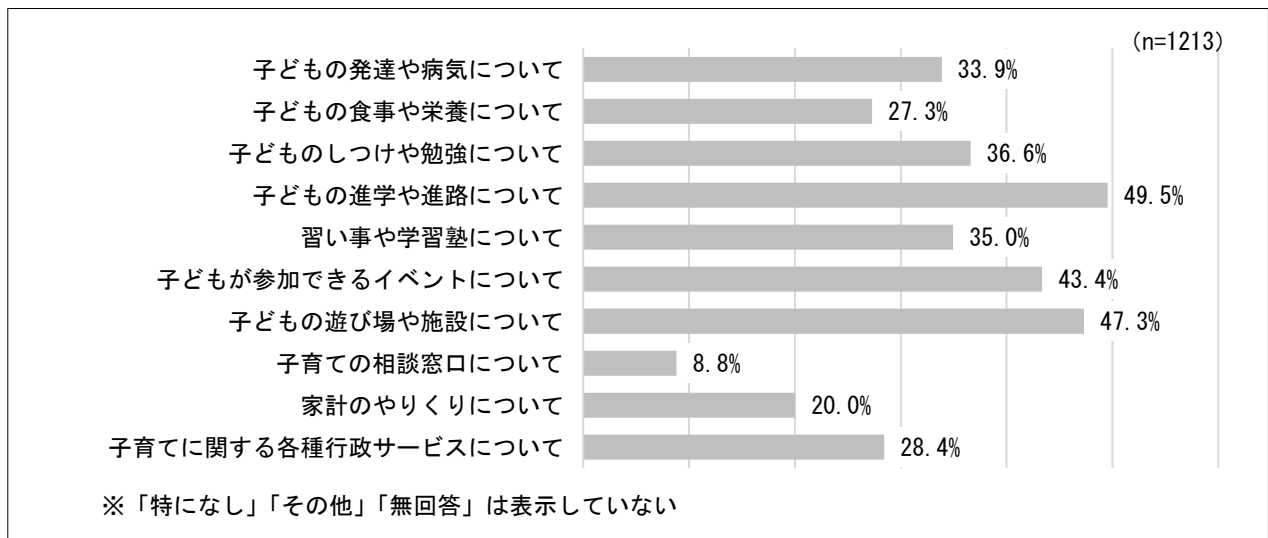
【全学年】



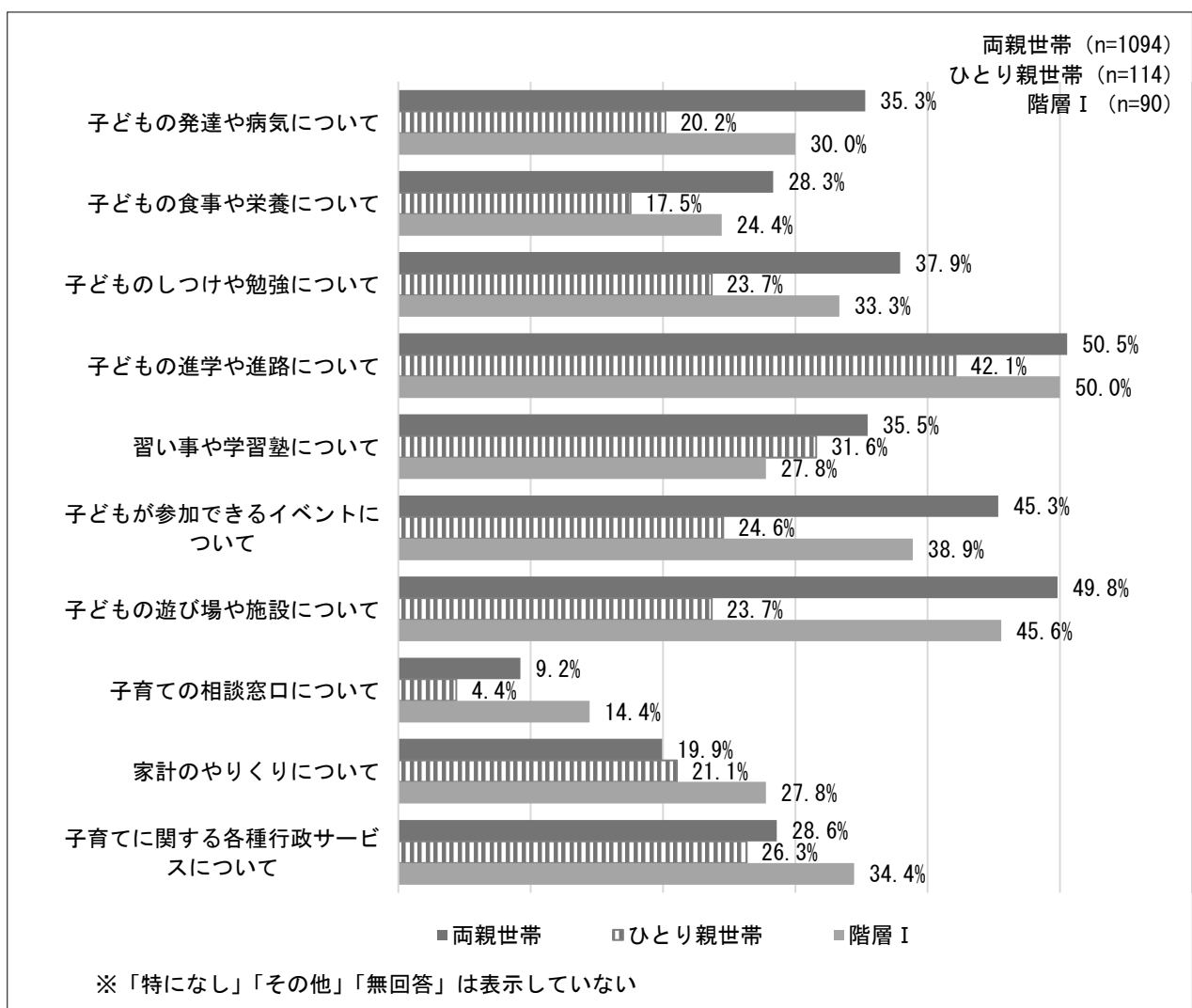
子育てに関する情報を取得する手段について、就学前児童世帯および就学児童世帯ともに、「スマートフォン端末」が最も多く、次いで「学校（保育園や教育施設等）のおたより」となっている。

4) 子育てについて得たいと思う情報

【全学年】



子育てについて得たいと思う情報について、「子どもの進学や進路について」が49.5%と最も多く、次いで「子どもの遊び場や施設について」が47.3%となった。

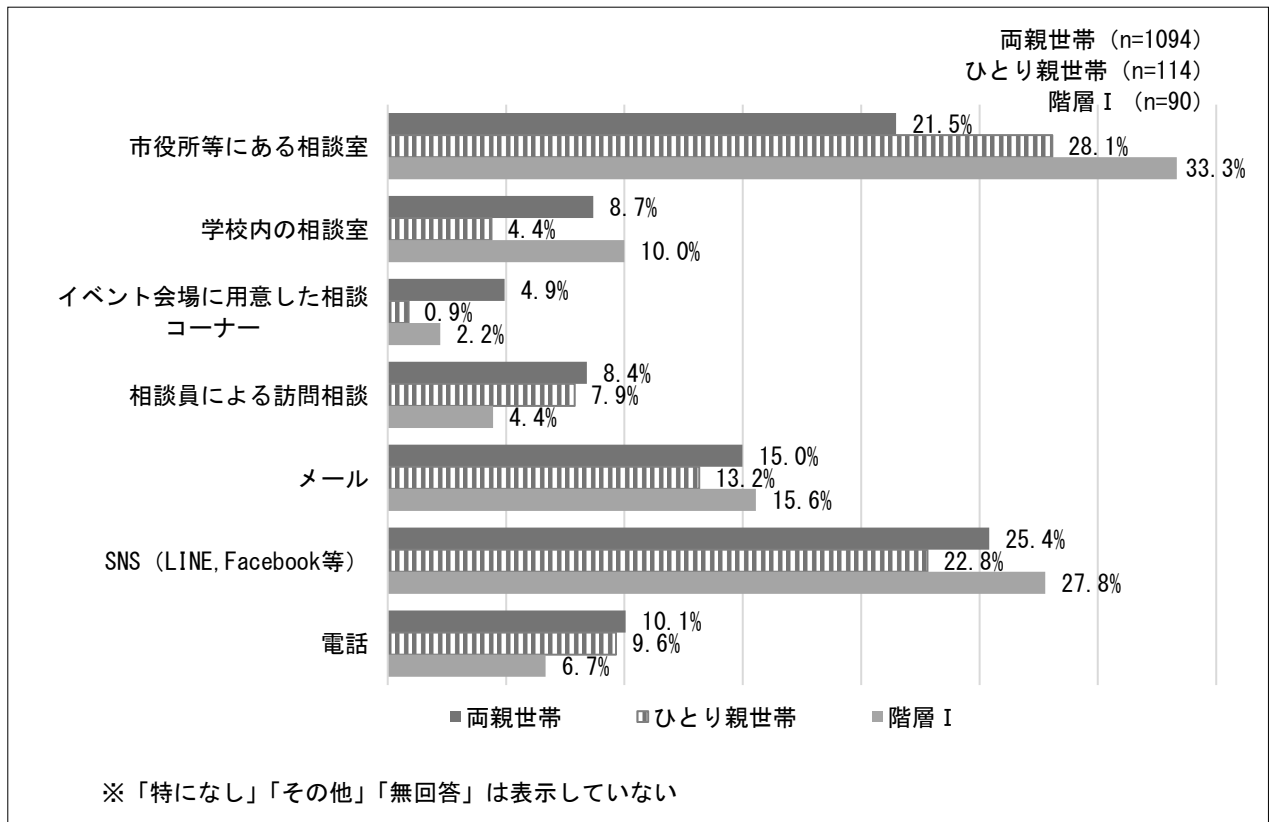


世帯の属性別に見ると、ひとり親世帯では「家計のやりくりについて」が両親世帯を上回っている。また、ひとり親世帯では、両親世帯と比べて、得たいと思う情報の割合が全体的に低い傾向がみられる。

困窮度が高いと考えられる階層Ⅰでは、「子育ての相談窓口について」「家計のやりくりについて」「子育てに関する各種行政サービスについて」の割合が、両親世帯やひとり親世帯と比較して高い。

5) 家族以外に悩みごとを相談しやすい場所

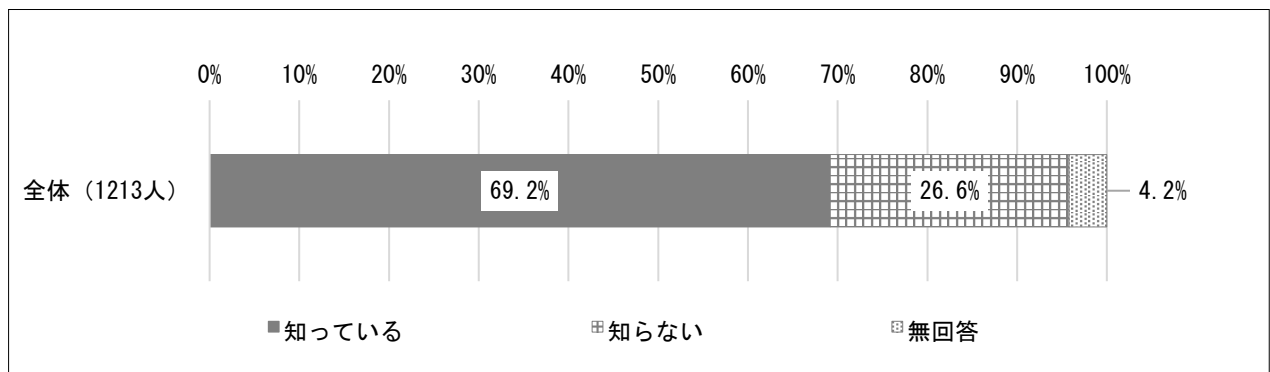
【全学年】



家族以外に悩みごとを相談しやすい場所については、「市役所等にある相談室」や「SNS (LINE、Facebook 等)」が多い結果となった。

6) 児童虐待の通告義務の認知度

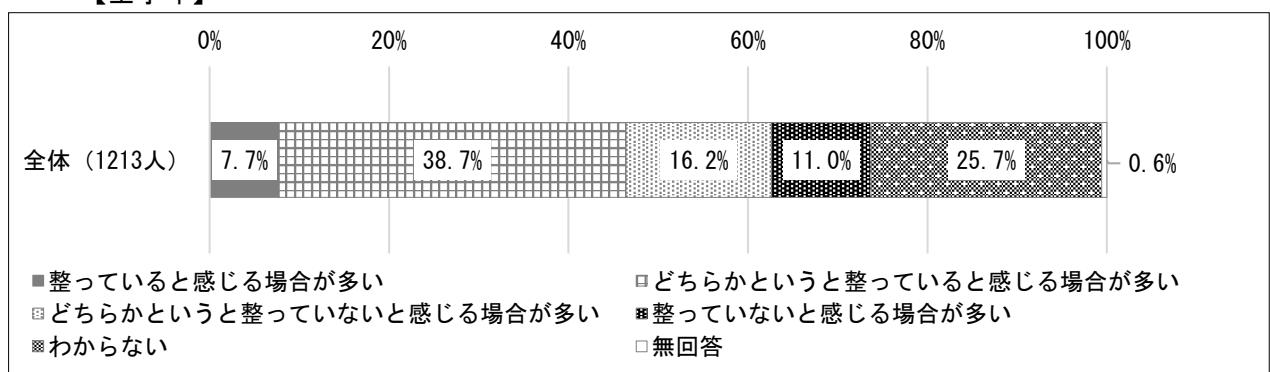
【全学年】



児童虐待の通告義務の認知度については「知っている」が69.2%、「知らない」が26.6%となった。

7) 石狩市は障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちが安心して暮らせる環境が整っていると感じるか

【全学年】



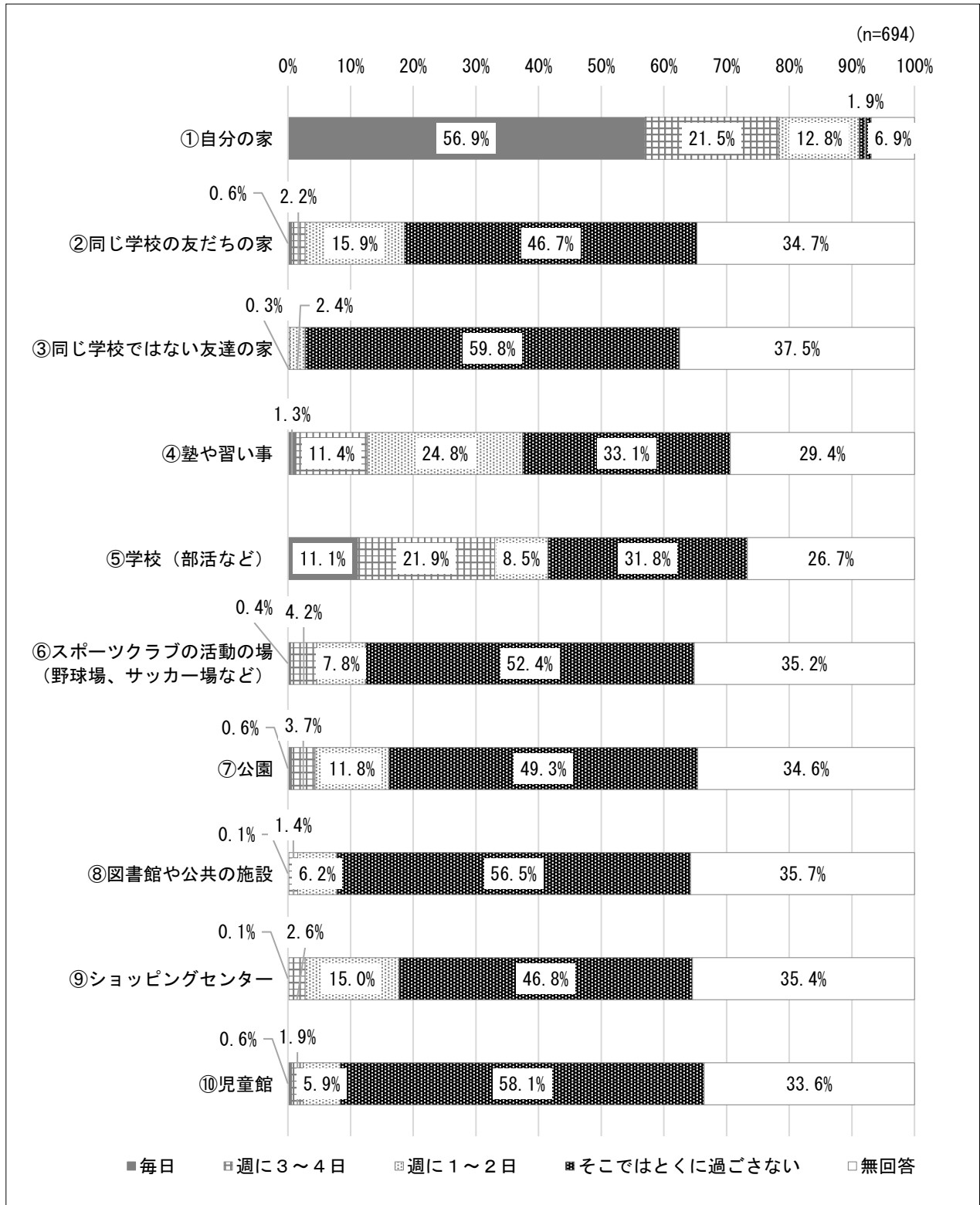
石狩市は障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちが安心して暮らせる環境が整っていると感じるかについては、「どちらかというと整っていると感じる場合が多い」が38.7%と最も多く、次いで「整っていないと感じる場合が多い」が25.7%となった。

2. 子どもアンケート結果

(1) 子どもの居場所

1) 子どもが放課後過ごす場所

【全学年】

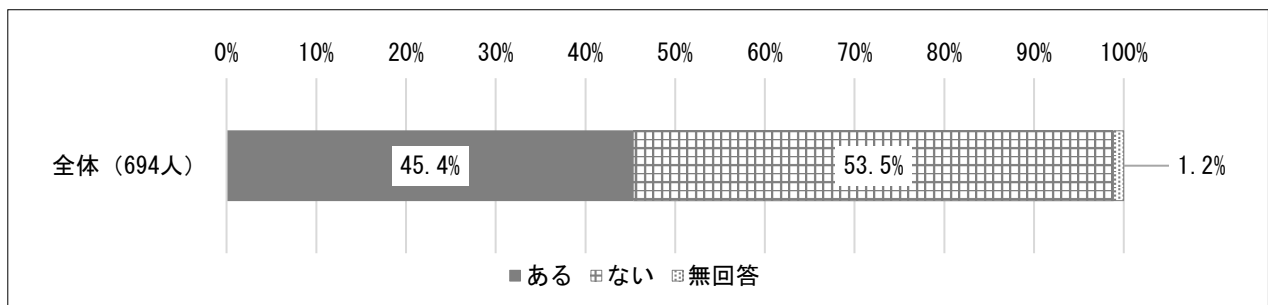


- ① “自分の家” で過ごす割合は「毎日」(56.9%) が最も多く、次いで「週に3～4日」(21.5%) である。
- ② “同じ学校の友達の家” で過ごす割合は「そこではとくに過ごさない」(46.7%) が最も多い。
- ③ “同じ学校ではない友達の家” で過ごす割合は「そこではとくに過ごさない」(59.8%) が最も多い。
- ④ “塾や習い事” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(33.1%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(24.8%)、「週に3～4日」(11.4%) となった。
- ⑤ “学校(部活など)” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(31.8%) が最も多く、次いで「週に3～4日」(21.9%)、「週に1～2日」(8.5%) となった。
- ⑥ “スポーツクラブの活動の場” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(52.4%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(7.8%)「週に3～4日」(4.2%) となった。
- ⑦ “公園” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(49.3%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(11.8%) となった。
- ⑧ “図書館や公共の施設” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(56.5%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(6.2%) となった。
- ⑨ “ショッピングセンター” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(46.8%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(15.0%) となった。
- ⑩ “児童館” で過ごす割合は、「そこではとくに過ごさない」(58.1%) が最も多く、次いで「週に1～2日」(5.9%) となった。

2) 自宅以外でここに居たいと感じる居場所

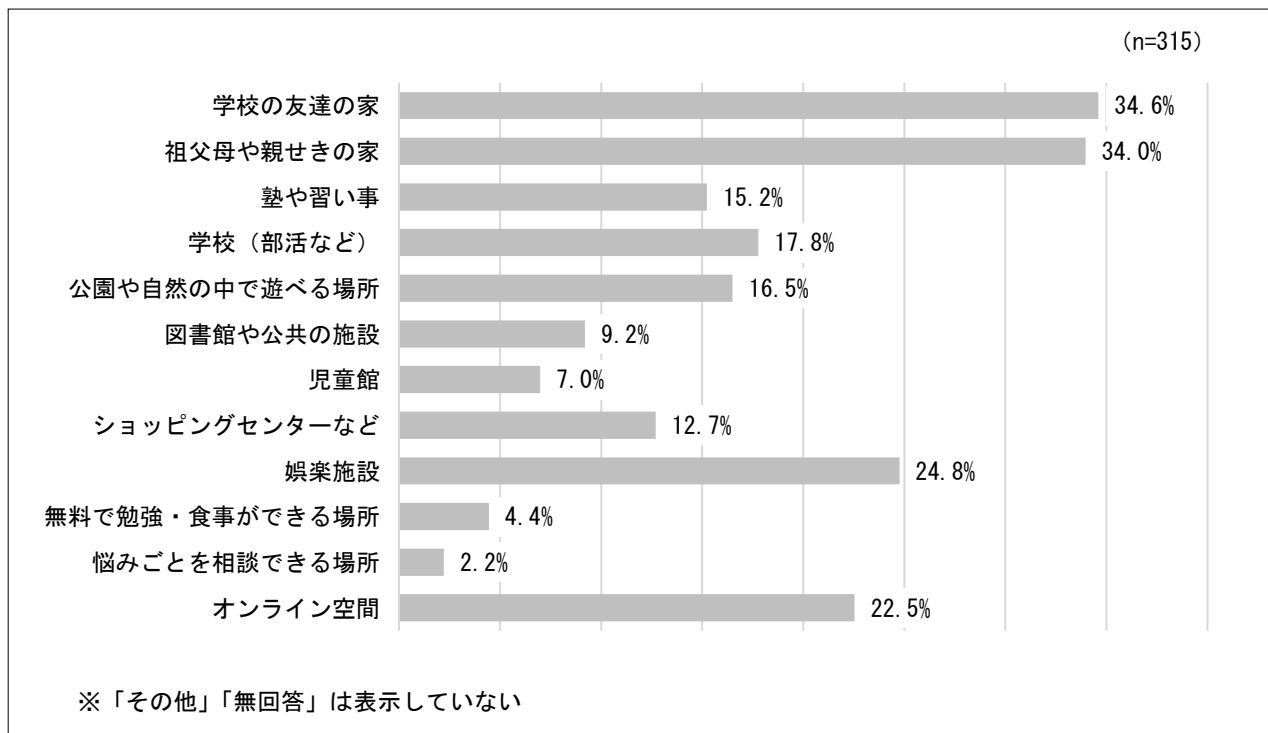
【全学年】

①自宅以外でここに居たいと感じる居場所の有無

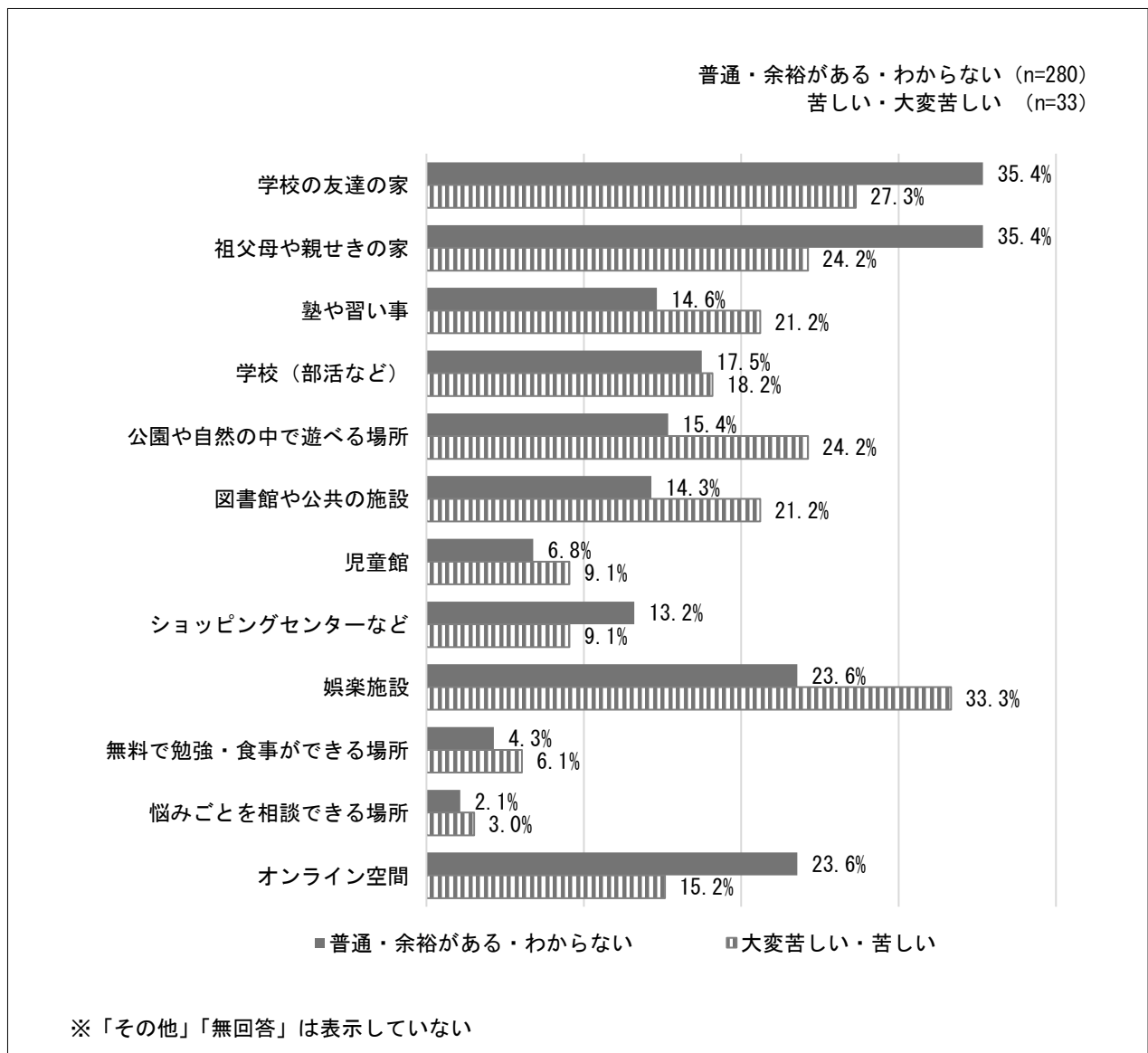


自宅以外でここに居たいと感じる居場所について、「ない」が53.5%、「ある」が45.4%となっている。

②具体的な場所

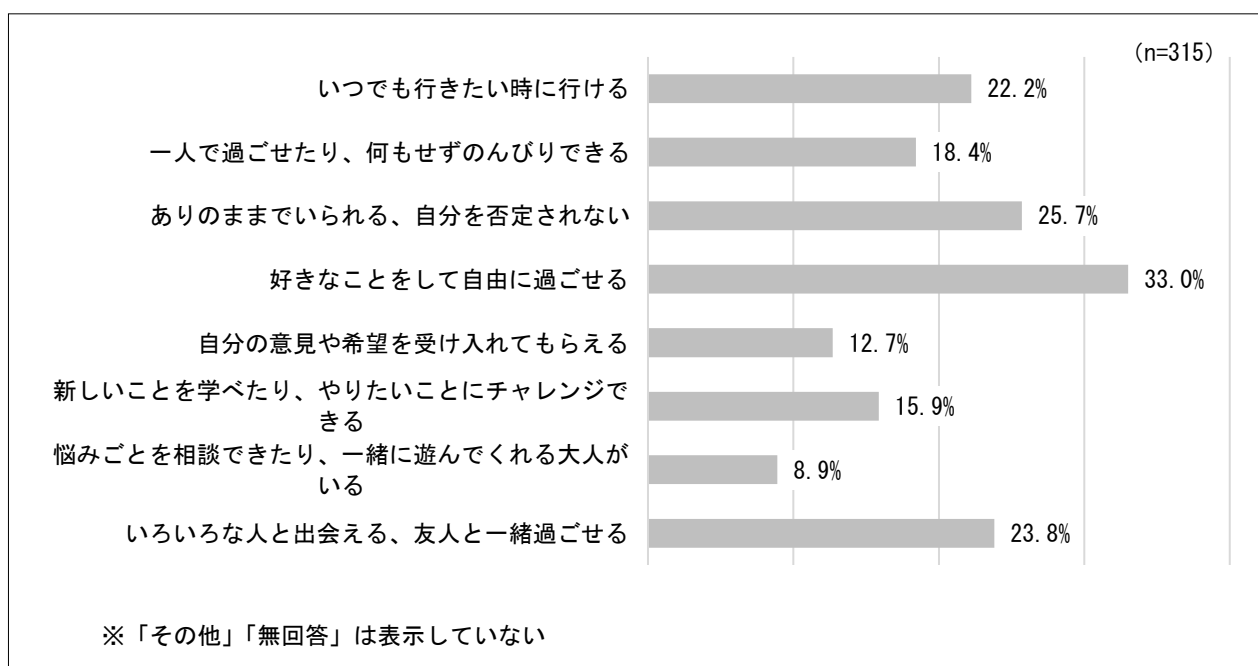


居場所が「ある」子どもの具体的な居場所については、「学校の友達の家」が34.6%と最も多く、次いで「祖父母や親せきの家」が34.0%、「娯楽施設」が24.8%、「オンライン空間」が22.5%となった。



子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯においては、「学校の友達の家」「祖父母や親せきの家」がそれぞれ **35.4%**と最も多く、「苦しい・大変苦しい」の世帯においては、「娯楽施設」が **33.3%**と最も多い。

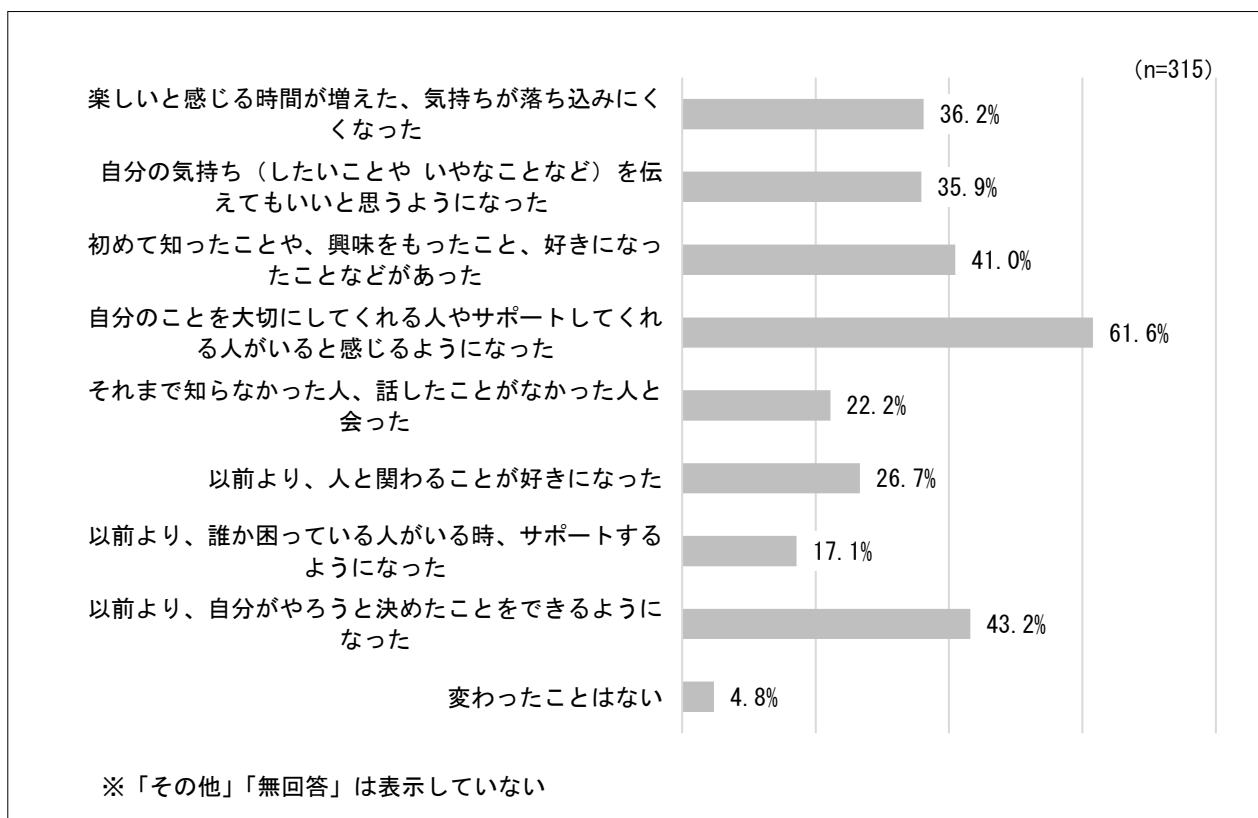
③どのような居場所か



居場所が「ある」子どもの居場所においては、「好きなことをして自由に過ごせる」が33.0%と最も多く、次いで「ありのままでいられる、自分を否定されない」が25.7%となった。

3) 居場所に行くことで変わったこと

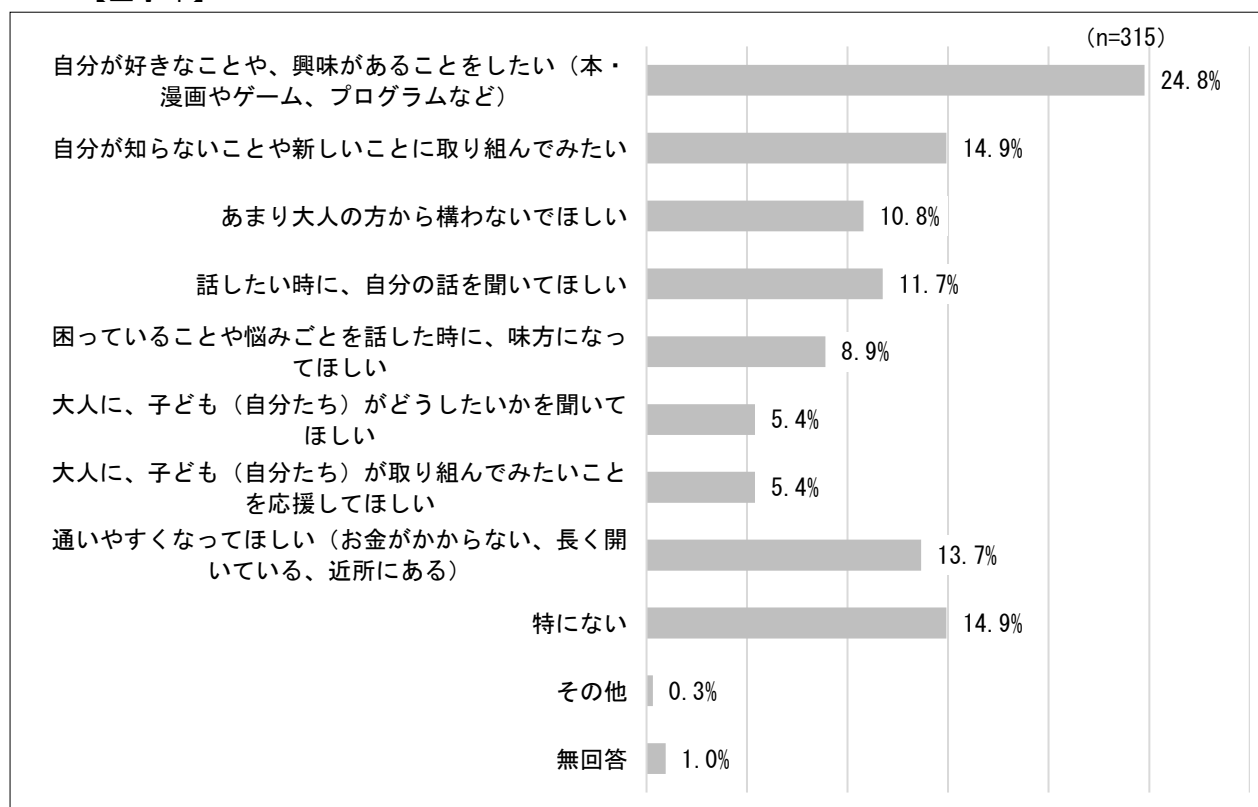
【全学年】



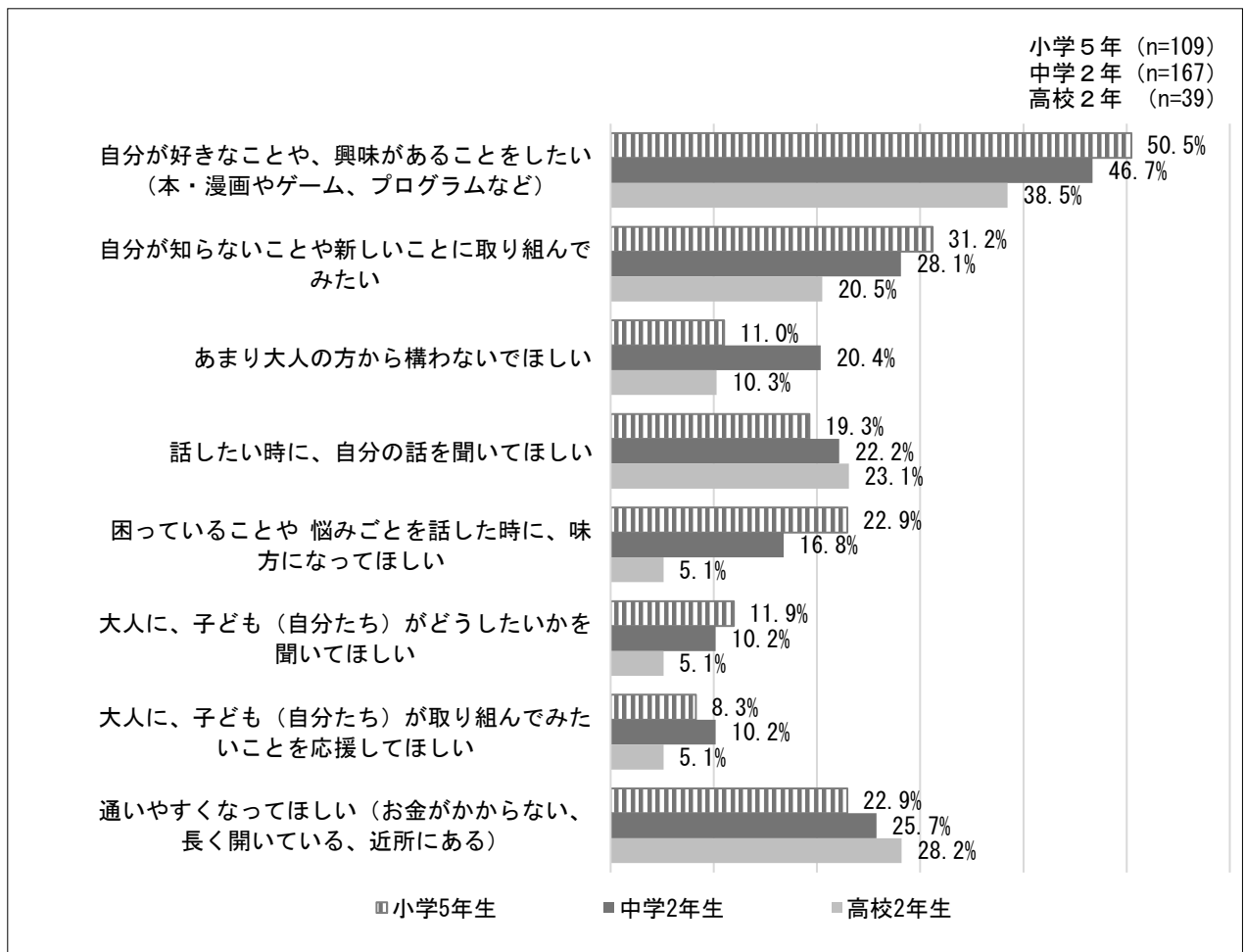
居場所が「ある」子どもが居場所に行くことで変わったことについて、「自分のことを大切にしてくれる人やサポートしてくれる人がいると感じるようになった」が 61.6%と最も多く、次いで「以前より、自分がやろうと決めたことをできるようになった」が 43.2%となった。

4) 子どもが居場所に求めていること

【全学年】

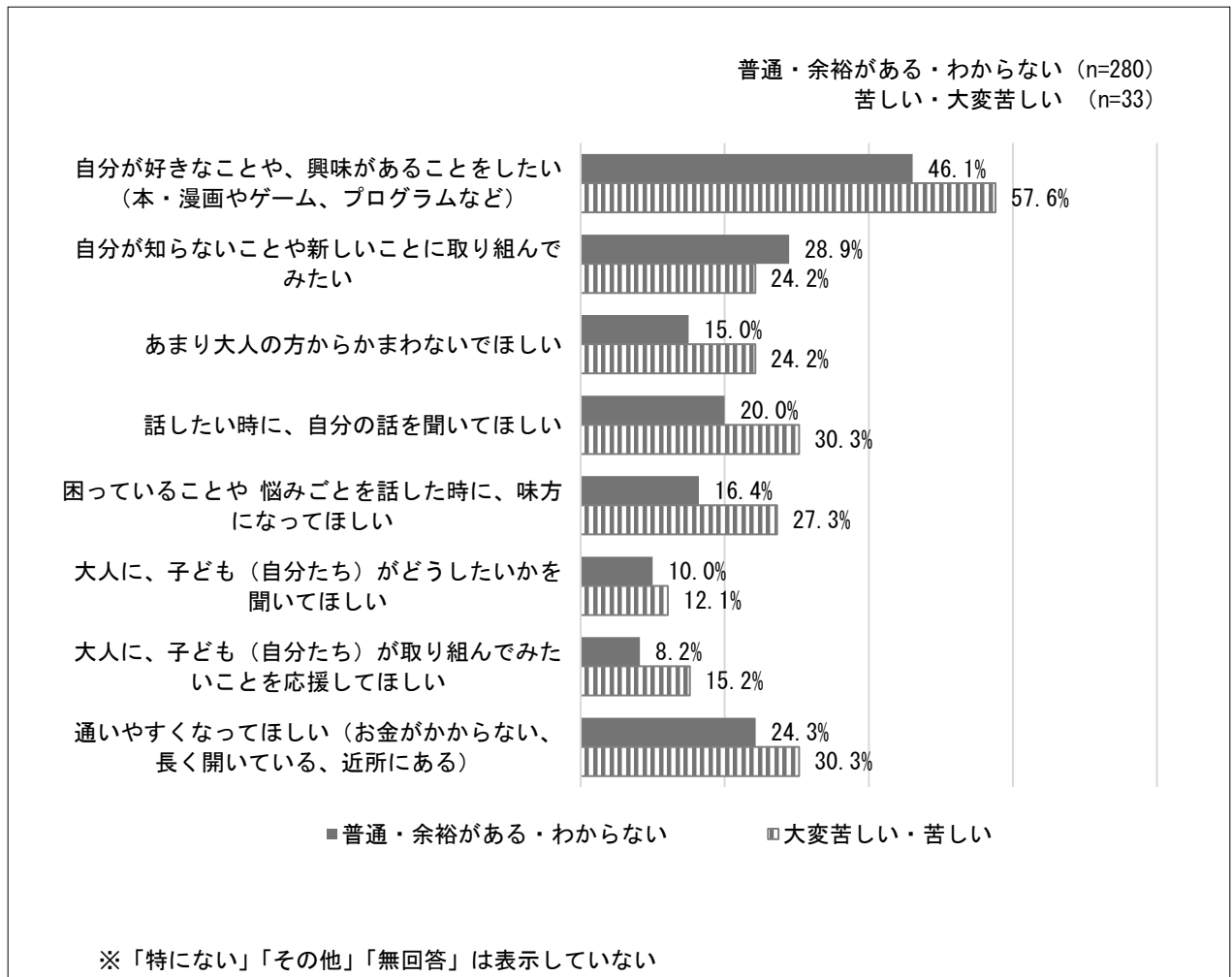


子どもが居場所に求めていることは「自分が好きなことや、興味があることをしたい（本・漫画やゲーム、プログラムなど）」が 24.8%と最も多く、次いで「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が 14.9%となった。



学年別で見ると、中学2年生において「あまり大人の方から構わないでほしい」が20.4%と、小学5年生や高校2年生と比較して多い。

中学2年生や高校2年生においては、「話したい時に、自分の話を聞いてほしい」「通いやすくなってほしい(お金がかからない、長く開いている、近所にある)」の割合が小学5年生と比較して高い。

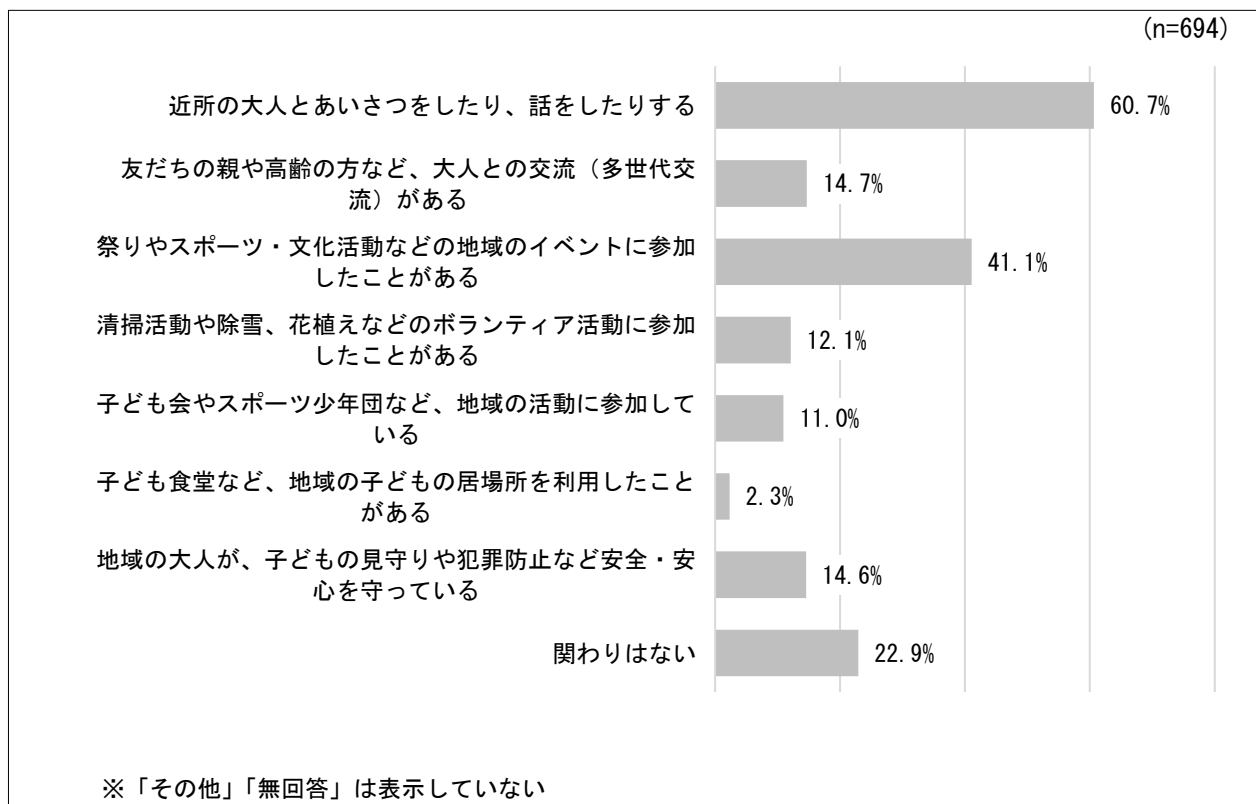


子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、いずれも「自分が好きなことや、興味があることをしたい」が最も多く、次いで「普通・余裕がある・わからない」の世帯においては、「自分が知らないことや新しいことに取り組んでみたい」が28.9%、「苦しい・大変苦しい」の世帯においては、「話したい時に、自分の話を聞いてほしい」「通いやすくなってほしい (お金がかからない、長く開いている、近所にある)」が30.3%となっている。

(2) 地域との関わり

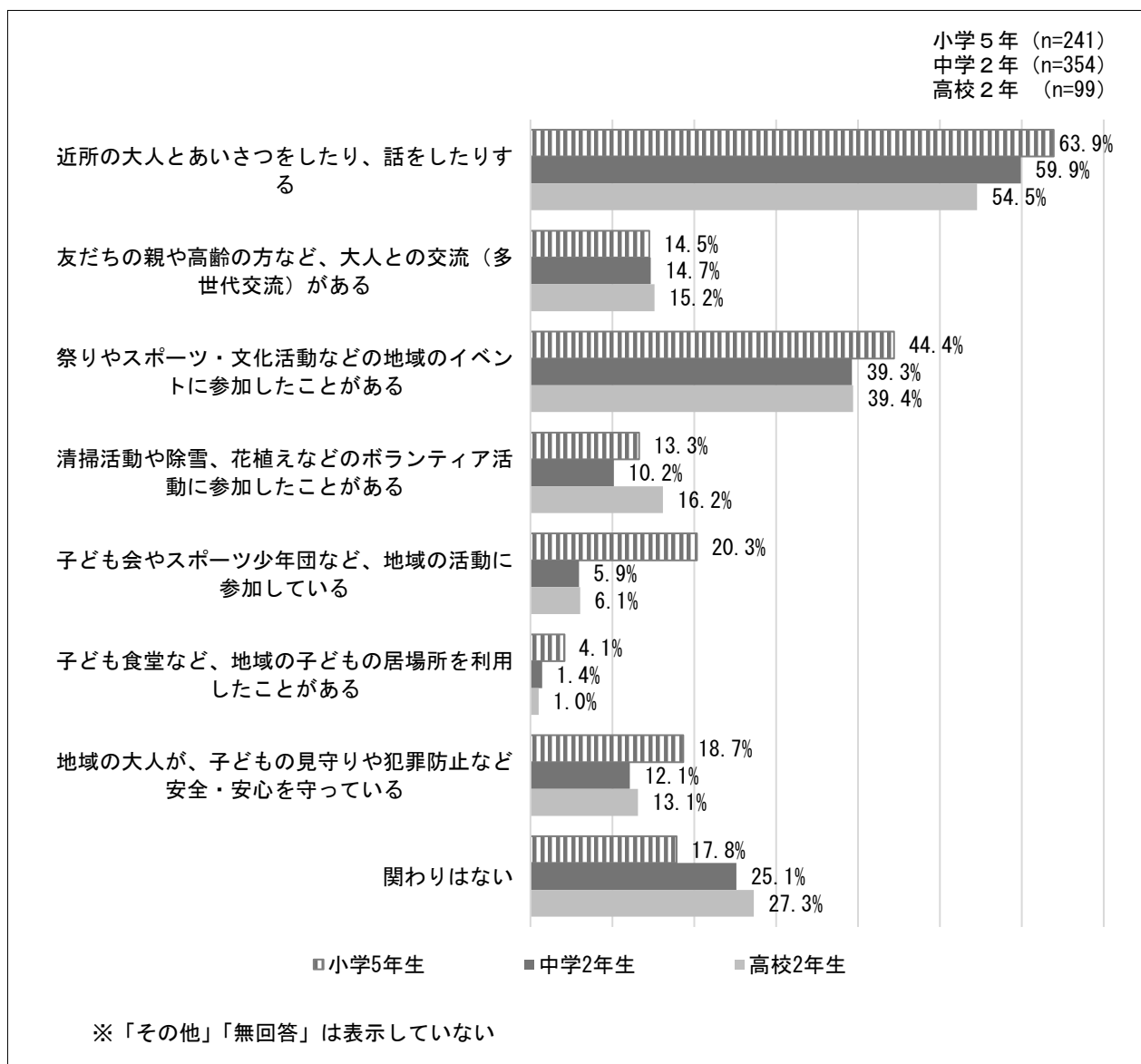
1) 地域との関わりについて

【全学年】



地域との関わりについては、「近所の大人とあいさつをしたり、話をしたりする」が60.7%と最も多く、次いで「祭りやスポーツ・文化活動などの地域のイベントに参加したことがある」が41.1%となっている。

「関りはない」と回答した子どもの割合を除いた「近所の人や地域とのつながりがある」と答えた子どもの割合は7割を超えた。

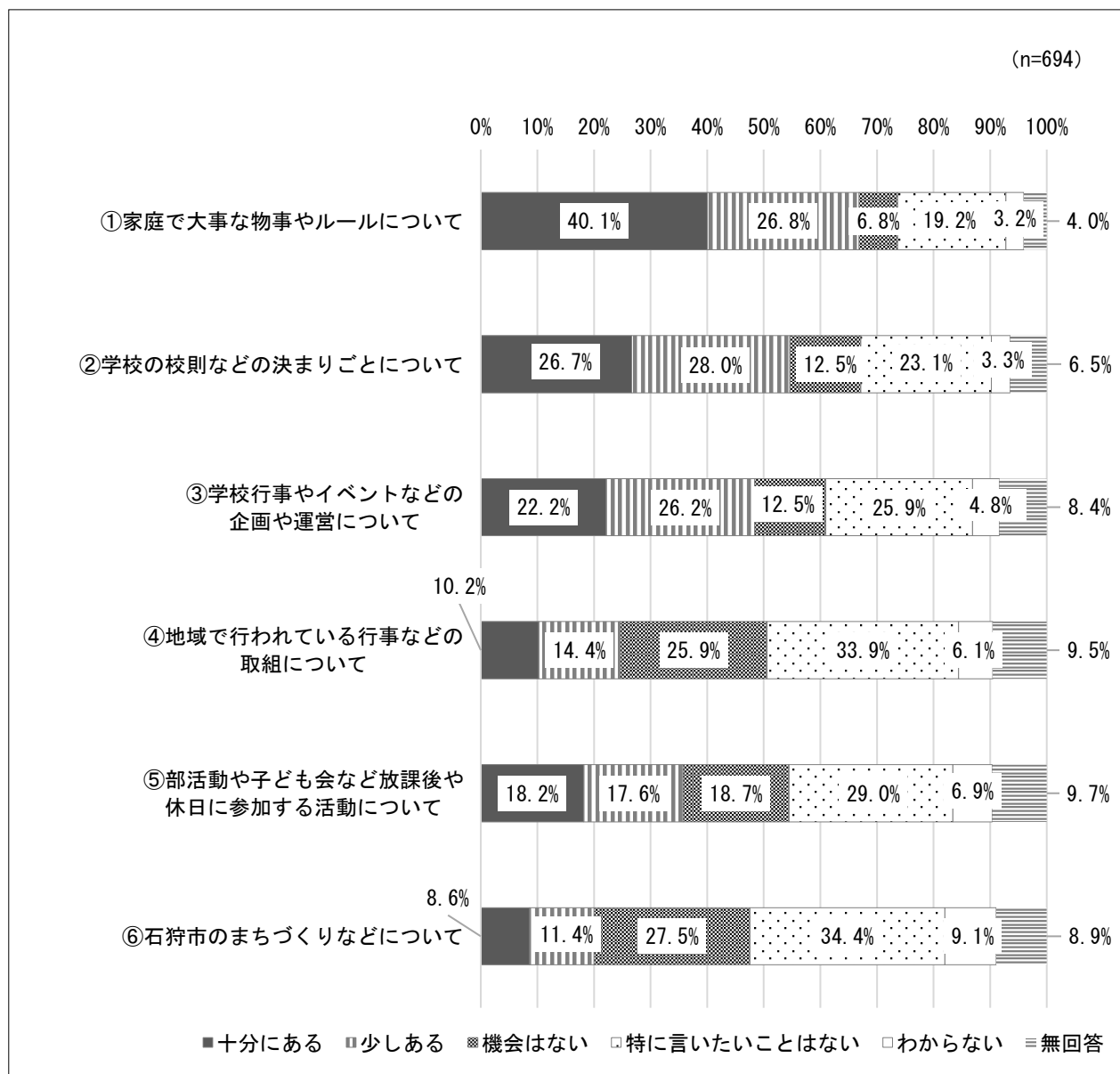


学年別に見ると、小学5年生の方が、中学2年生・高校2年生と比較して、地域との関わりが多い傾向がみられる。

(3) 子どもの意見表明

1) 子どもが意見表明できる機会

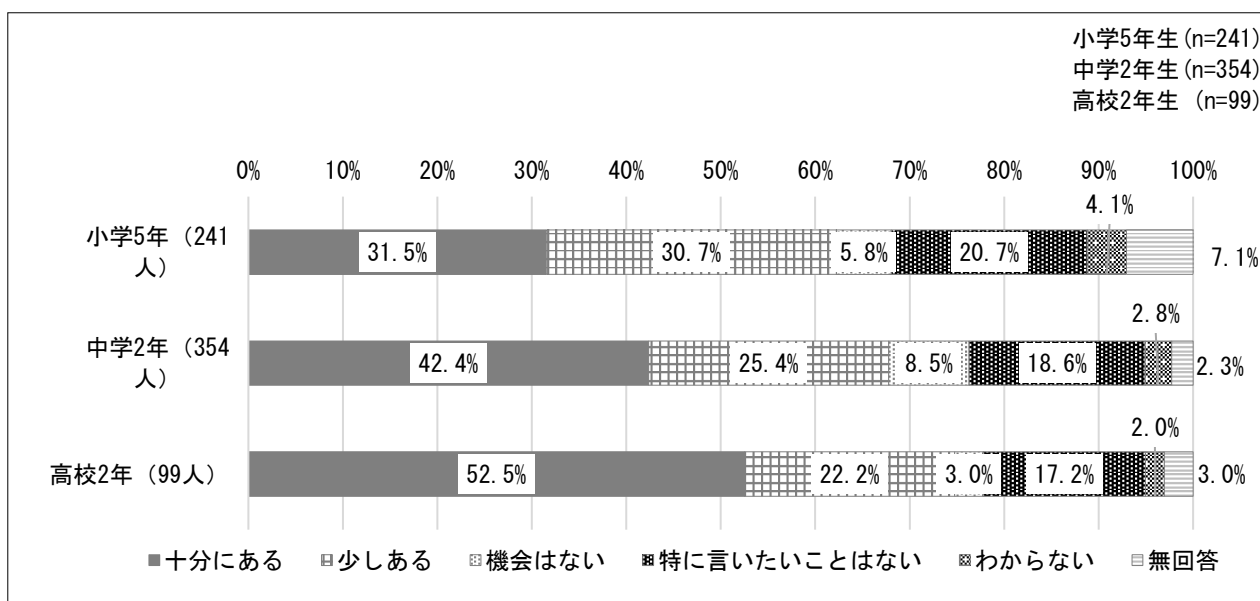
【全学年】



子どもが意見表明できる機会については、「家庭で大事な物事やルールについて」「学校の校則などの決まりごとについて」「学校行事やイベントなどの企画や運営について」では意見表明の機会が「十分にある」「少しある」子どもが約半数に上った。

一方、「地域で行われている行事などの取組について」「石狩市のまちづくりなどについて」では「特に言いたいことはない」子どもが3割を超えた。

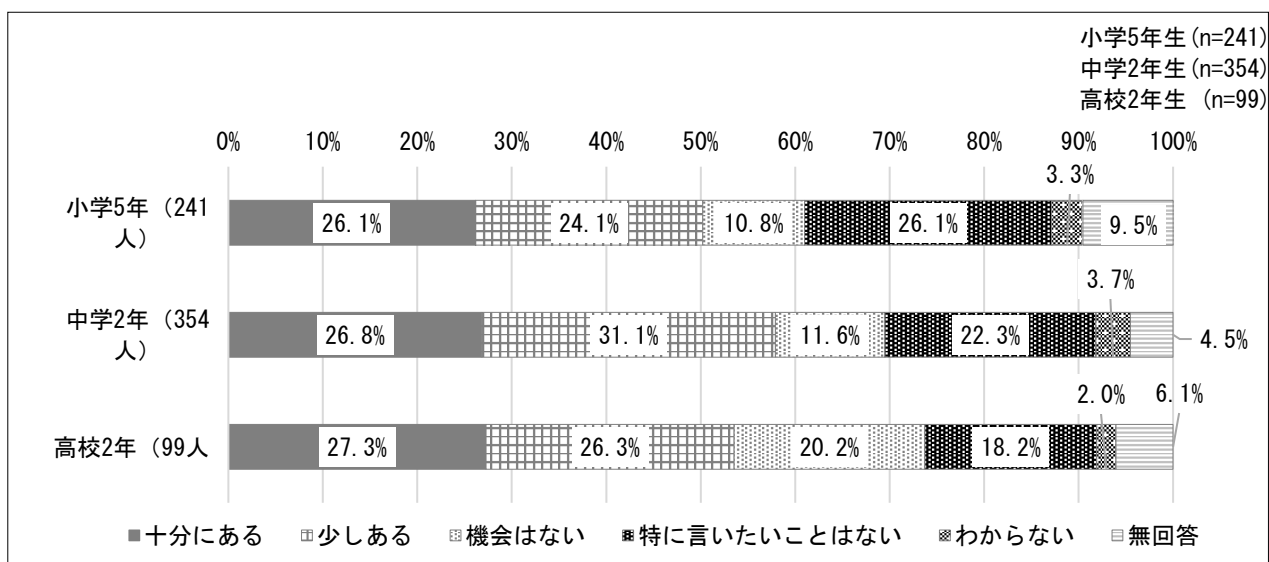
①家庭で大事な物事やルールについて



“家庭で大事な物事やルールについて”は、全体では意見表明の機会が「十分にある」が40.1%と最も多い。

学年別で見ると、高校2年生の「十分にある」が52.5%と半数を超えている。

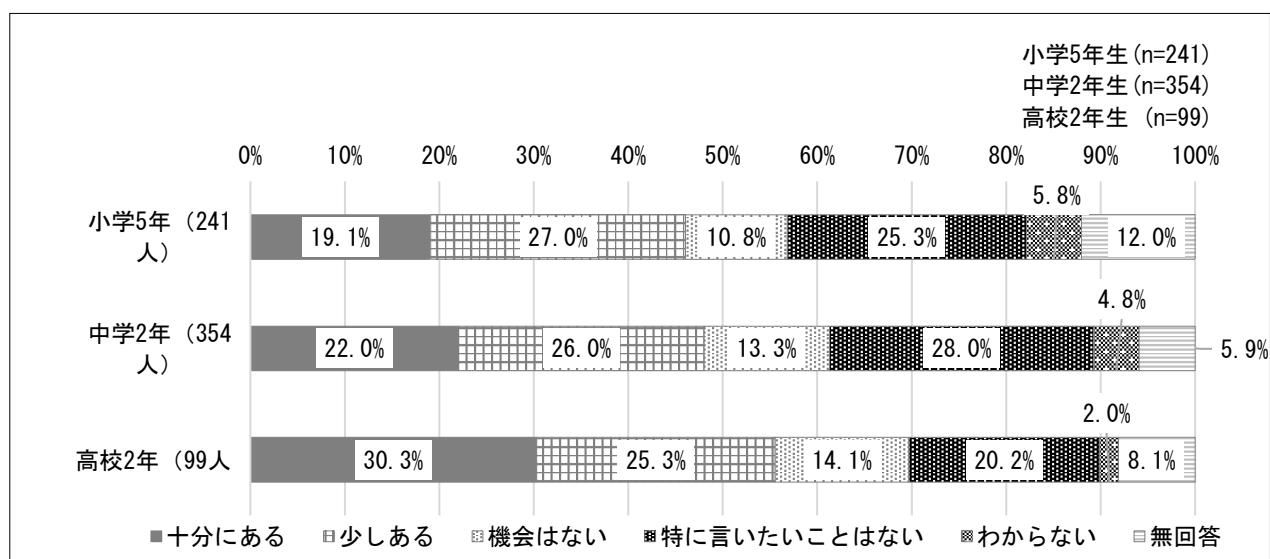
②学校の校則などの決まりごとについて



“学校の校則などの決まりごとについて”は、全体では意見表明の機会が「少しある」が28.0%と最も多い。

学年別で見ても、どの学年でも「十分にある」が26%前後と、学年ごとの差は小さい。

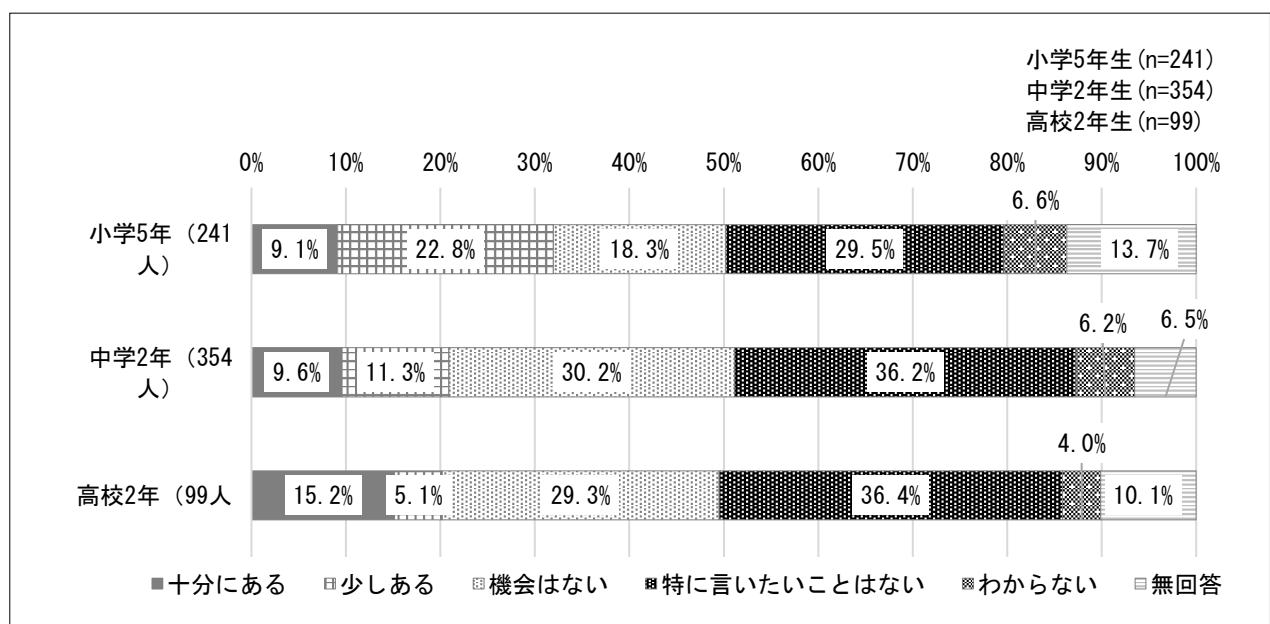
③学校行事やイベントなどの企画や運営について



“学校行事やイベントなどの企画や運営について”は、全体では意見表明の機会が「少しある」が26.2%と最も多い。

学年別で見ると、高校2年生において、「十分にある」が3割を超えている。

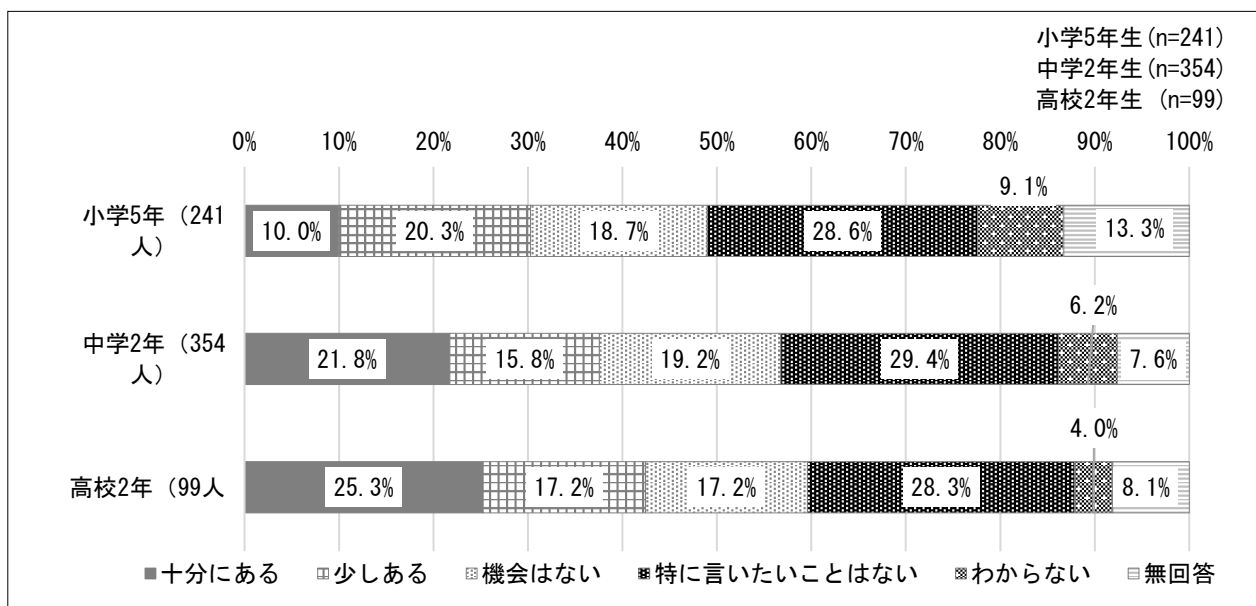
④地域で行われている行事などの取組について



“地域で行われている行事などの取組について”は、全体では「特に言いたいことはない」が33.9%と最も多く、次いで「機会はない」が25.9%となっている。

学年別で見ると、意見表明の機会が「十分にある」「少しある」の合計が最も多いのは、小学5年生の31.9%となっている。

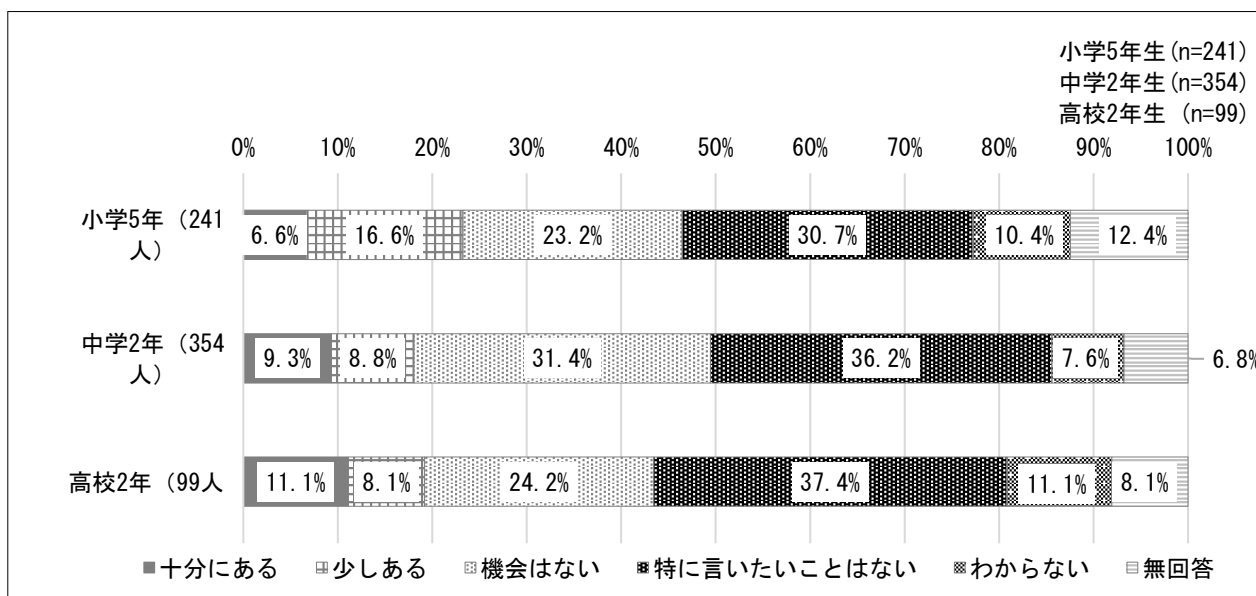
⑤部活動や子ども会など放課後や休日に参加する活動について



“部活動や子ども会など放課後や休日に参加する活動について”は、全体では「特に言いたいことはない」が29.0%と最も多い。

学年別で見ると、「特に言いたいことはない」以外の意見については、高校2年生において「十分にある」が25.3%と最も多く、中学2年生においても「十分にある」が21.8%と最も多い。

⑥石狩市のまちづくりなどについて



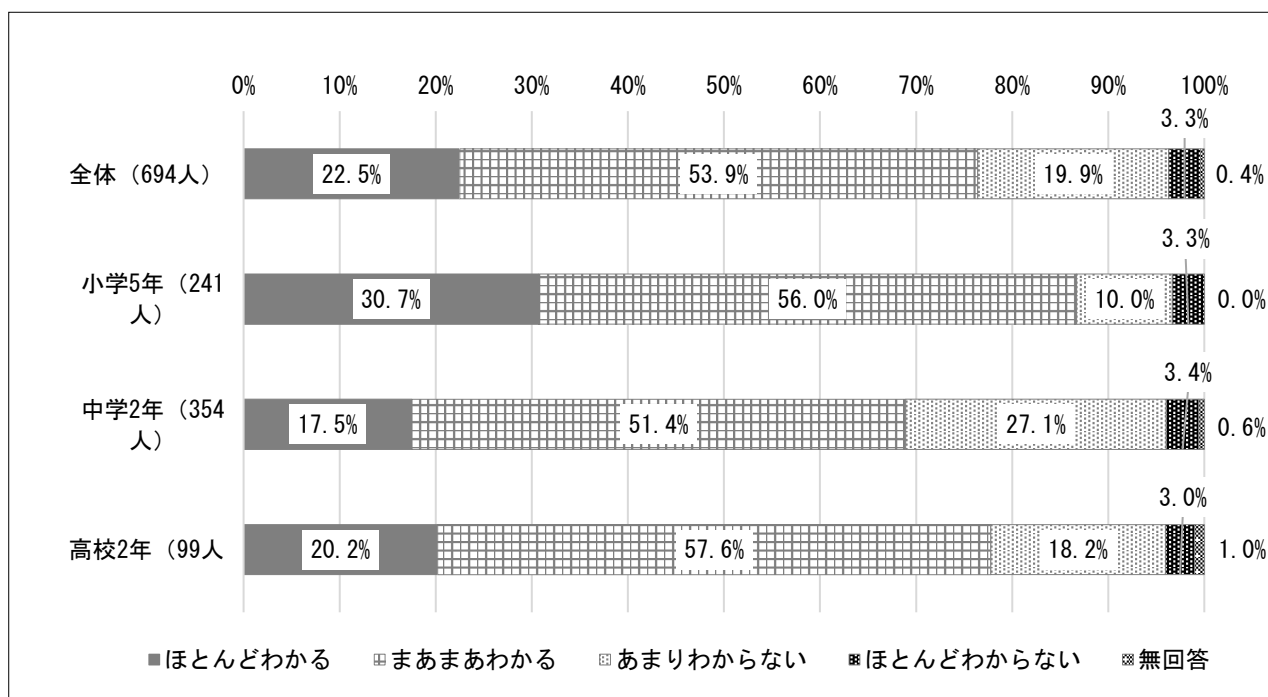
“石狩市のまちづくりなどについて”は、全体では「特に言いたいことはない」が34.4%と最も多い。

学年別で見ると、「機会はない」「特に言いたいことはない」割合が高く、「十分にある」「少しある」も2割弱となっている。

(4) 進学等について

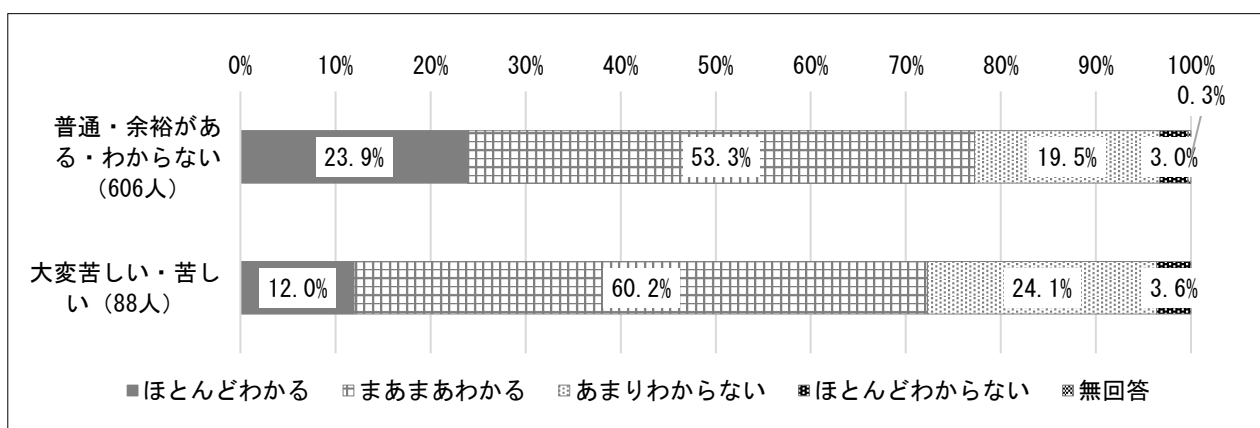
1) 授業の理解度

【全学年】



授業の理解度について、「まあまあわかる」が53.9%と最も多く、次いで「ほとんどわかる」が22.5%、「あまりわからない」が19.9%となった。

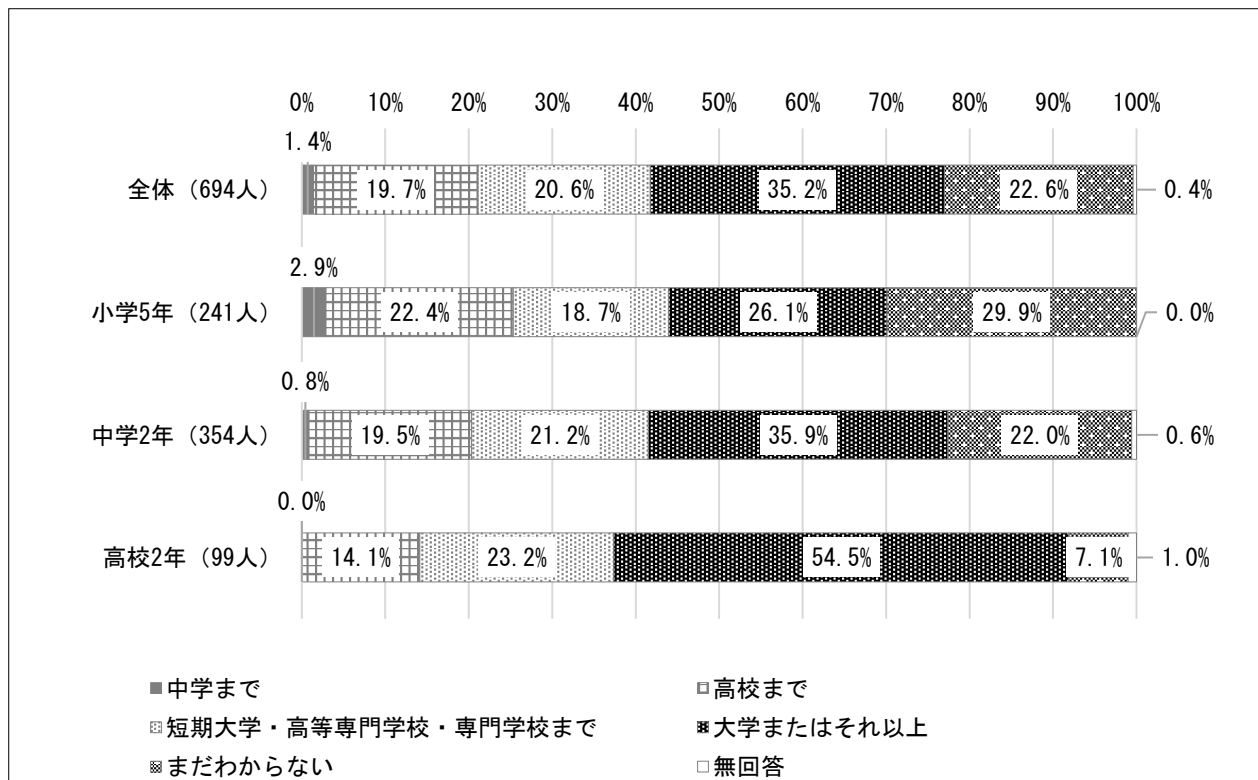
学年別で見ると、中学2年生において「あまりわからない」割合が27.1%と、小学5年生や高校2年生と比較して高い。



子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯においては、「ほとんどわかる」が23.9%と多く、「苦しい・大変苦しい」の世帯においては、「あまりわからない」が24.1%と多い。

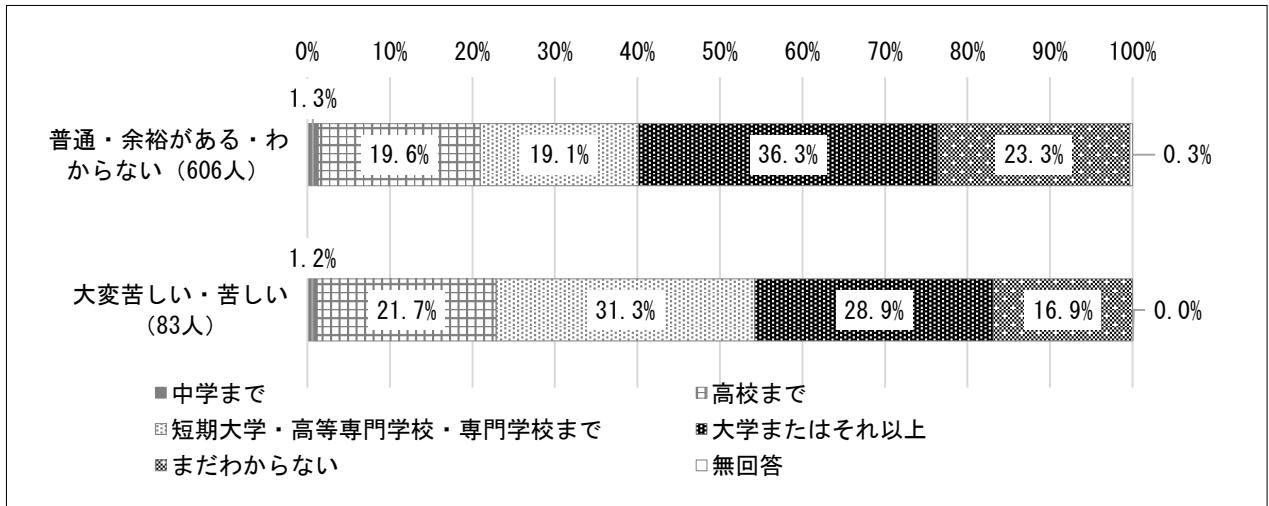
2) 子どもの将来の進学希望

【全学年】



子どもの将来の進学希望について、「大学またはそれ以上」が35.2%と最も多く、次いで「まだわからない」が22.6%となった。

学年別に見ると、高校2年生では「大学またはそれ以上」が半数を超え、小学5年生と中学2年生では「まだわからない」の割合が高い傾向が見られる。

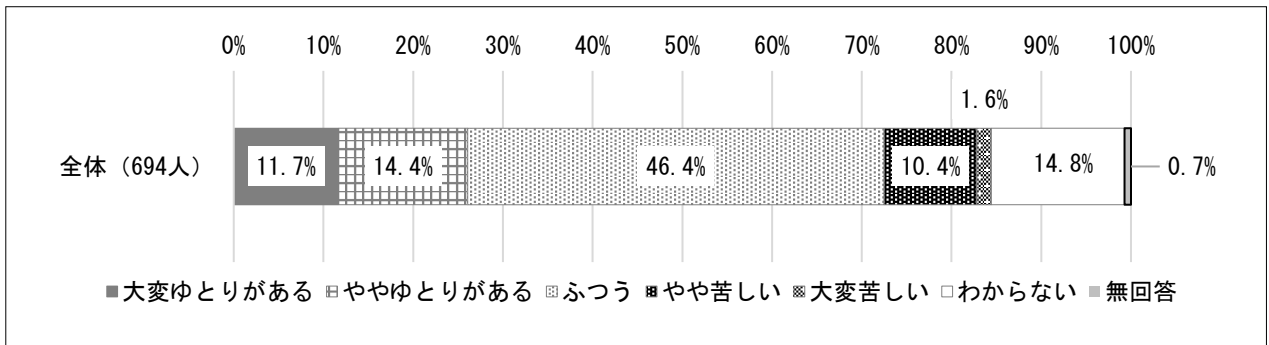


子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯に比べて、「苦しい・大変苦しい」の世帯においては、「短期大学・高等専門学校・専門学校まで」が31.3%と12.2ポイント多くなった。

(5) 家庭の経済状況について

1) 家計の状況

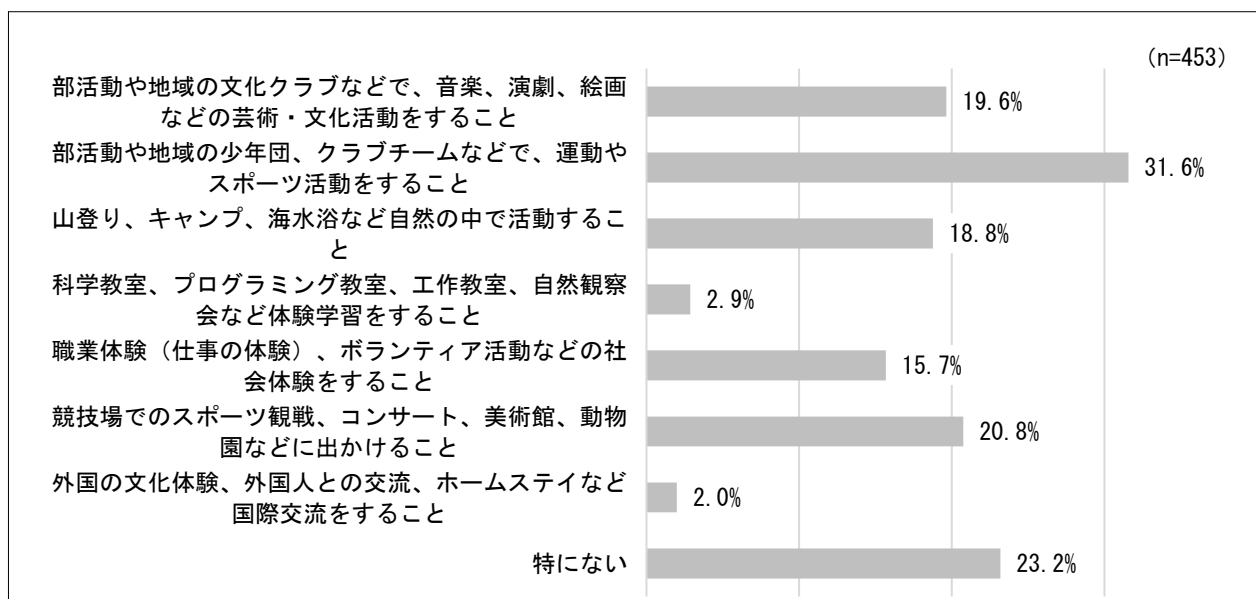
【全学年】



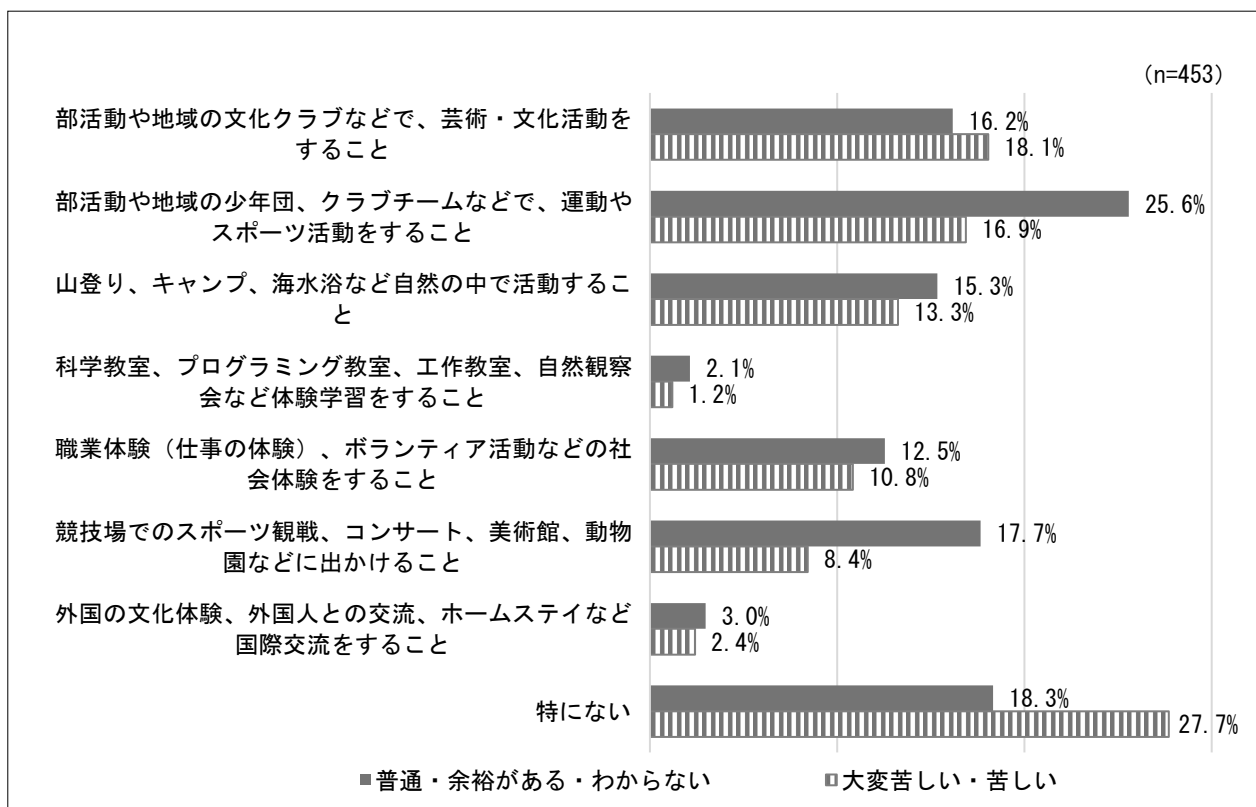
家計の状況については、「ふつう」が46.4%と最も多く、次いで「わからない」が14.8%、「ややゆとりがある」が14.4%となった。

2) 学校の授業以外での体験や活動の機会

【中学2年～高校2年】



学校の授業以外での体験や活動の機会について、「部活動や地域の少年団、クラブチームなどで、運動やスポーツ活動をする事」が31.6%と最も多く、次いで「特になし」が23.2%、「競技場でのスポーツ観戦、コンサート、美術館、動物園などに出かけること」が20.8%となった。



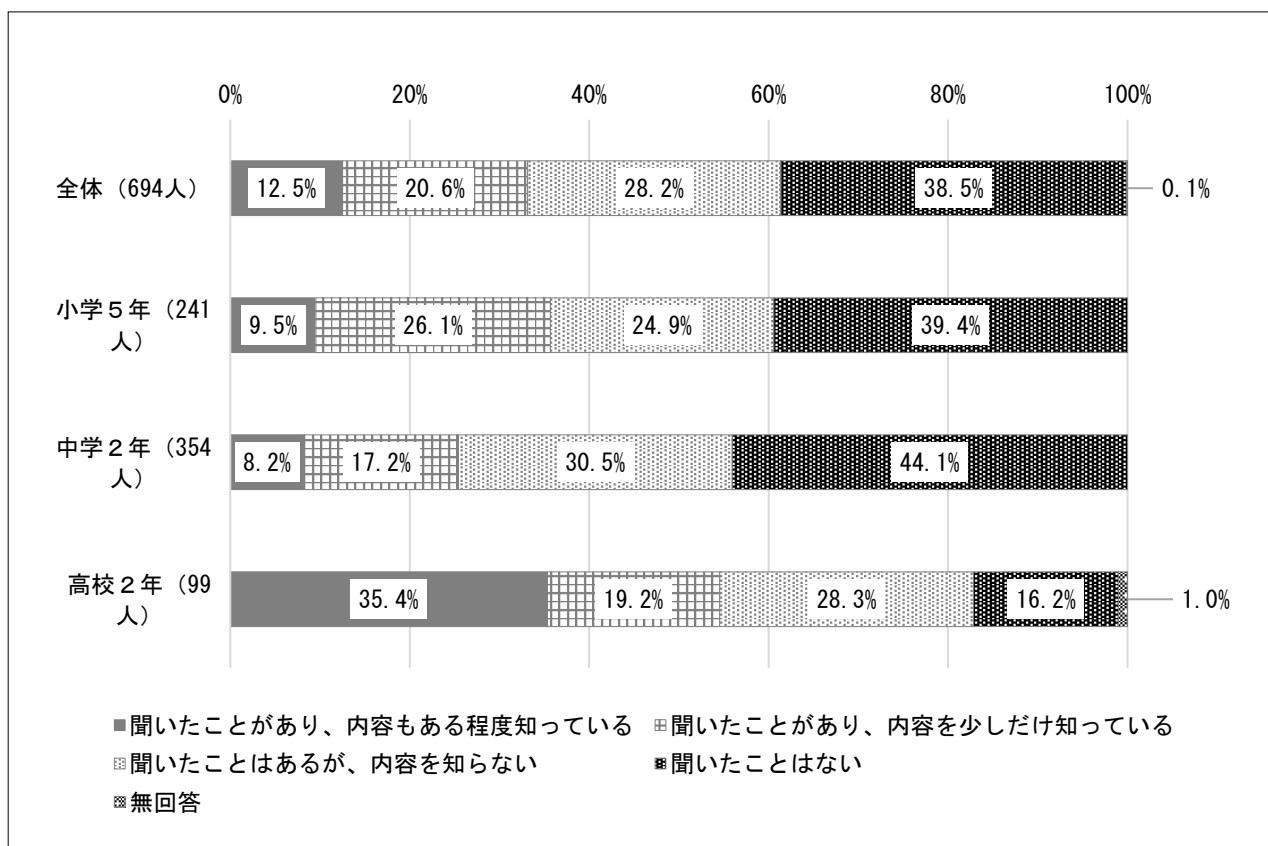
子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯では、「苦しい・大変苦しい」の世帯と比べて、「部活動や地域の少年団、クラブチームなどで、運動やスポーツ活動をすること」「競技場でのスポーツ観戦、コンサート、美術館、動物園などに出かけること」の割合が高い。

「苦しい・大変苦しい」の世帯においては、「普通・余裕がある・わからない」の世帯と比べて、「特にない」の割合が高い。

(6) 子どもの権利について

1) 子どもの権利の認知度

【全学年】

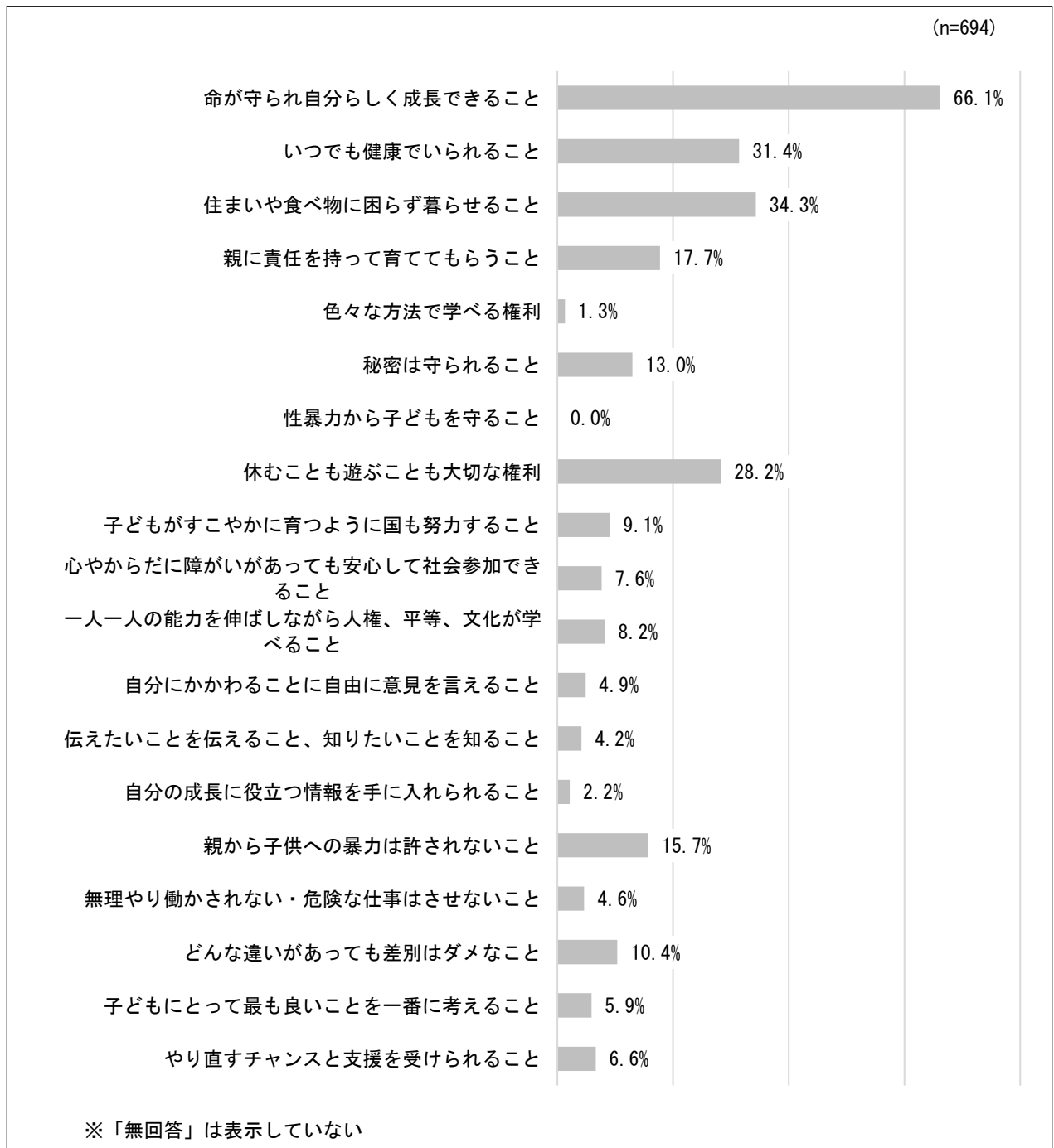


子どもの権利の認知度については、「聞いたことがあります、内容もある程度知っている」「聞いたことがあります、内容を少しだけ知っている」の合計が33.1%、「聞いたことはあるが、内容を知らない」が28.2%、「聞いたことはない」が38.5%となった。

学年別で見ると、子どもの権利について「聞いたことがあります、内容もある程度知っている」「聞いたことがあります、内容を少しだけ知っている」割合は高校生が最も高く54.6%となった。

2) 子ども自身が特に大切にしてほしい子どもの権利

【全学年】

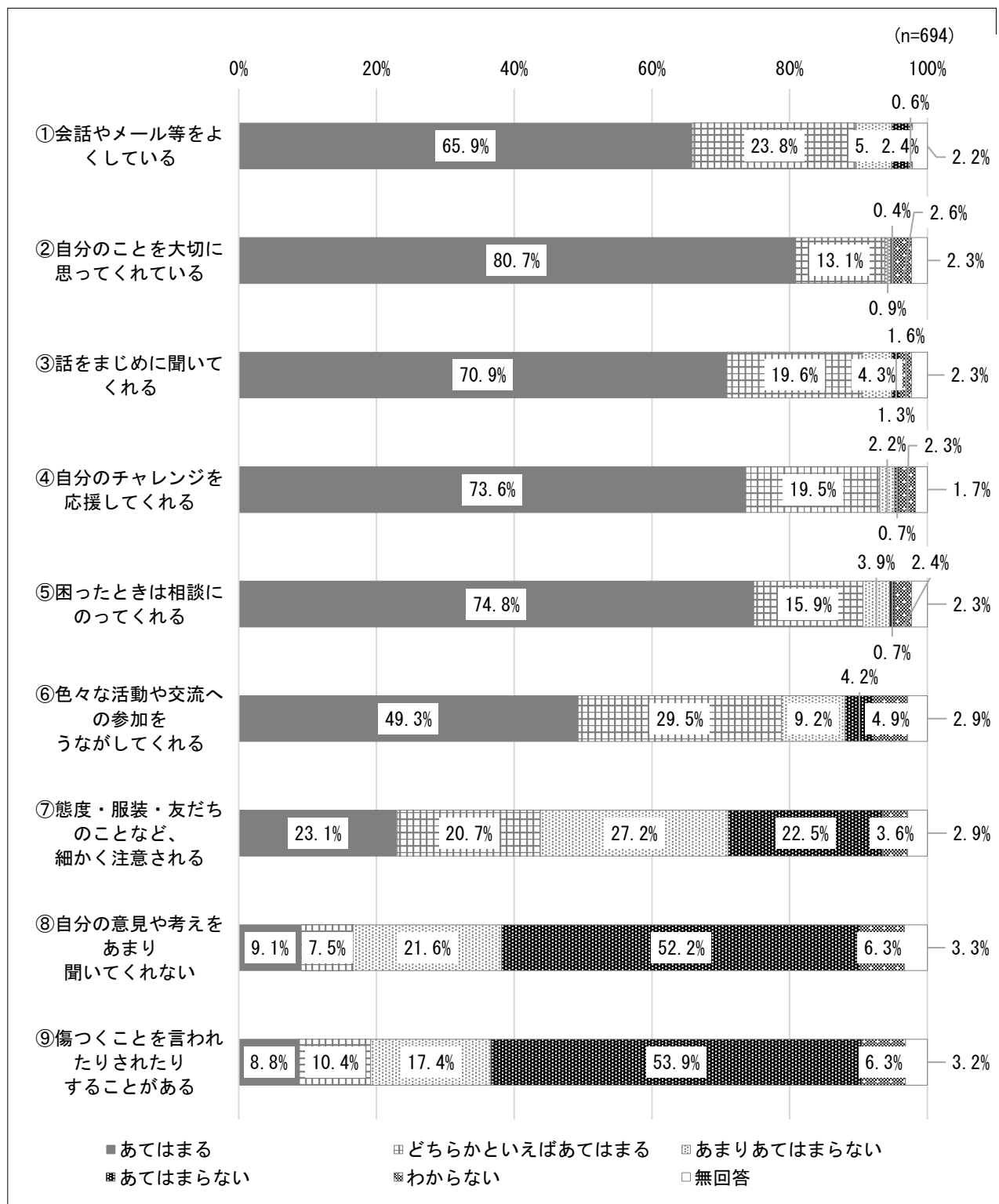


子どもが特に大切にしてほしい子どもの権利については、「命が守られ自分らしく成長できること」が66.1%と最も多く、次いで「住まいや食べ物に困らず暮らせること」が34.3%、「いつでも健康でいられること」が31.4%となった。

(7) 子ども自身について

1) 保護者との関わり方

【全学年】



保護者との関わり方について、①“会話やメール等をよくしている”は「あてはまる」が65.9%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が23.8%となった。

保護者との関わり方について、②“自分のことを大切に思ってくれている”は「あてはまる」が80.7%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が13.1%となった。

保護者との関わり方について、③“話をまじめに聞いてくれる”は「あてはまる」が70.9%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が19.6%となった。

保護者との関わり方について、④“自分のチャレンジを応援してくれる”は「あてはまる」が73.6%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が19.5%となった。

保護者との関わり方について、⑤“困ったときは相談にのってくれる”は「あてはまる」が74.8%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が15.9%となった。

保護者との関わり方について、⑥“色々な活動や交流への参加をうながしてくれる”は「あてはまる」が49.3%と最も多く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が29.5%となった。

保護者との関わり方について、⑦“態度・服装・友だちのことなど、細かく注意される”は「あまりあてはまらない」が27.2%と最も多く、次いで「あてはまる」が23.1%となった。

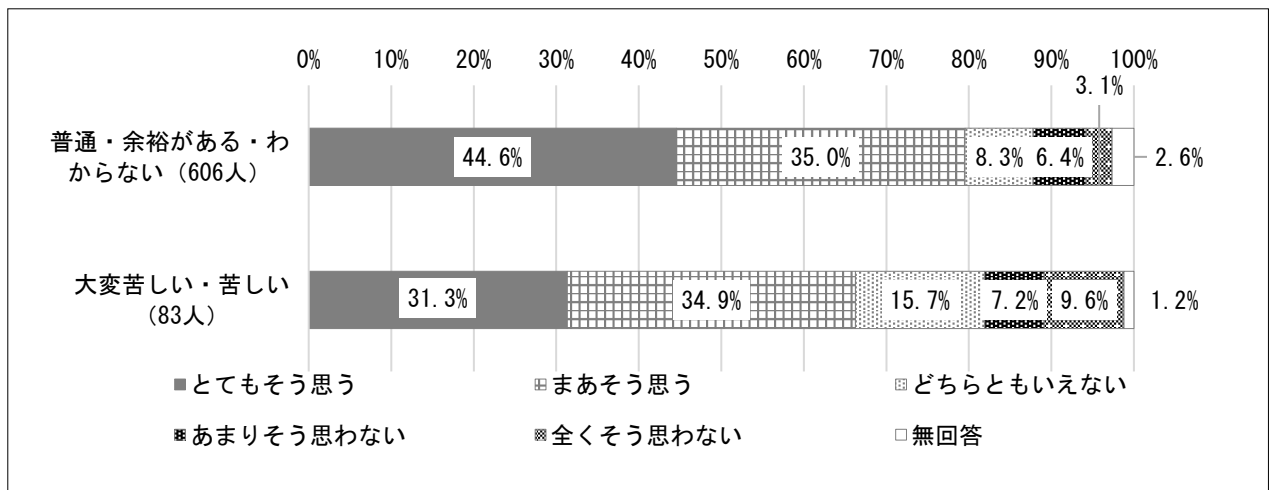
保護者との関わり方について、⑧“自分の意見や考えをあまり聞いてくれない”は「あてはまらない」が52.2%と最も多く、次いで「あまりあてはまらない」が21.6%となった。

保護者との関わり方について、⑨“傷つくことを言われたりされたりすることがある”は「あてはまらない」が53.9%と最も多く、次いで「あまりあてはまらない」が17.4%となった。

2) 子ども自身の思いについて

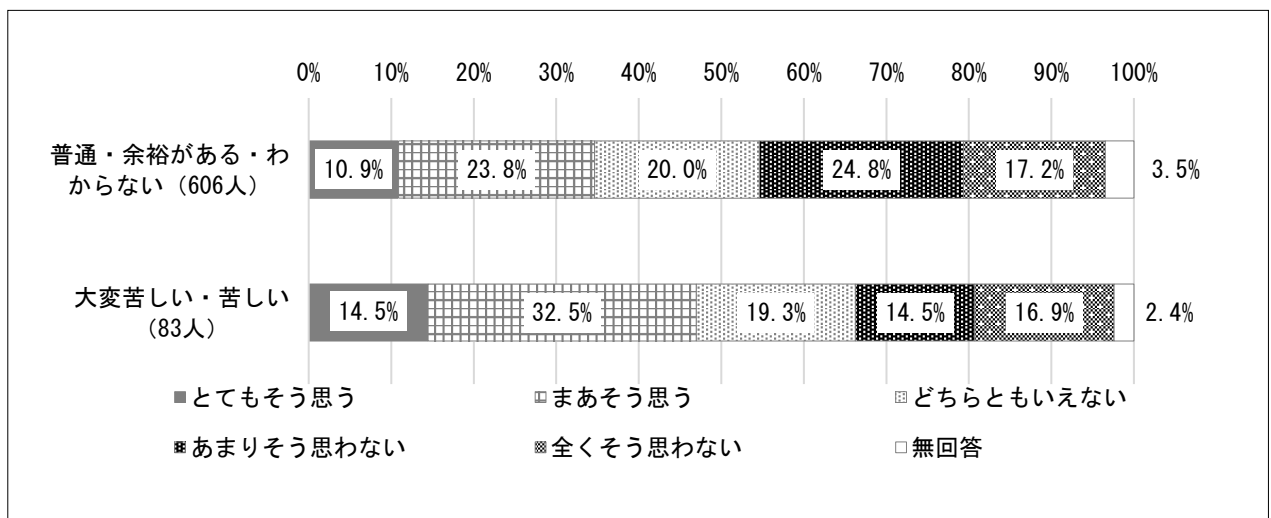
【全学年】

①がんばれば、むくわれる



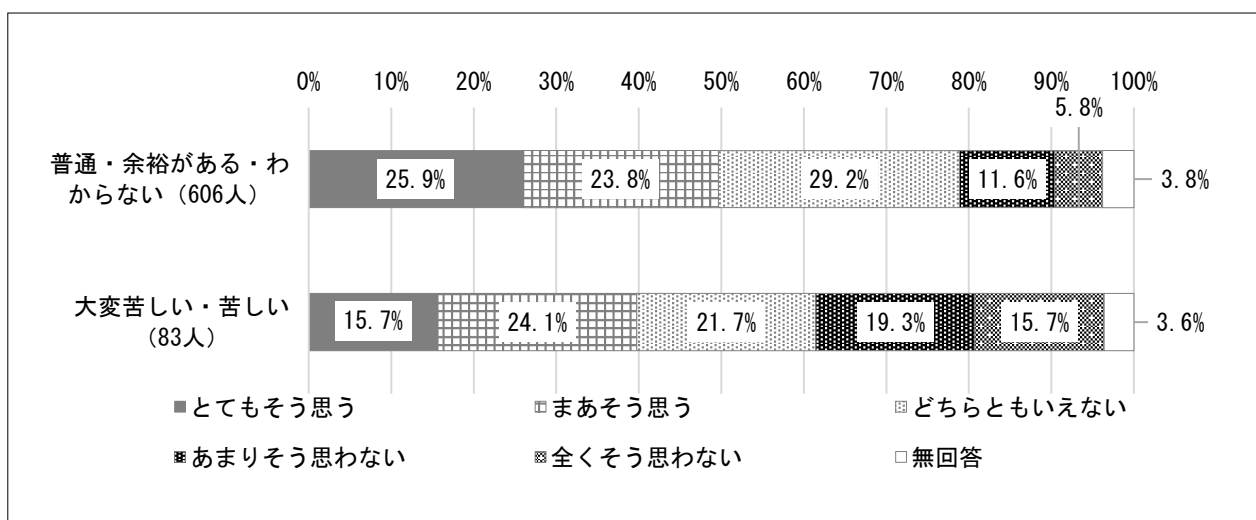
“がんばれば、むくわれる”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯では「とてもそう思う」が44.6%と最も多く、「苦しい・大変苦しい」の世帯の31.3%と比べて、13.3ポイント多い。

②孤独と感ることがある



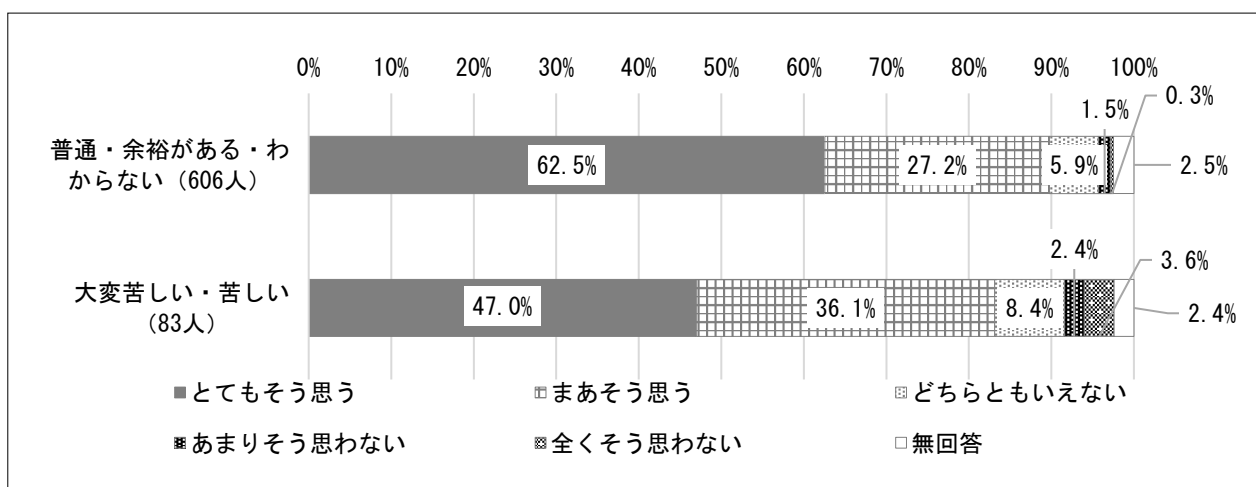
“孤独と感ることがある”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯では「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計が42.0%と多い。「苦しい・大変苦しい」の世帯では、「まあそう思う」が32.5%と比較的多い。

③自分は価値のある人間だ



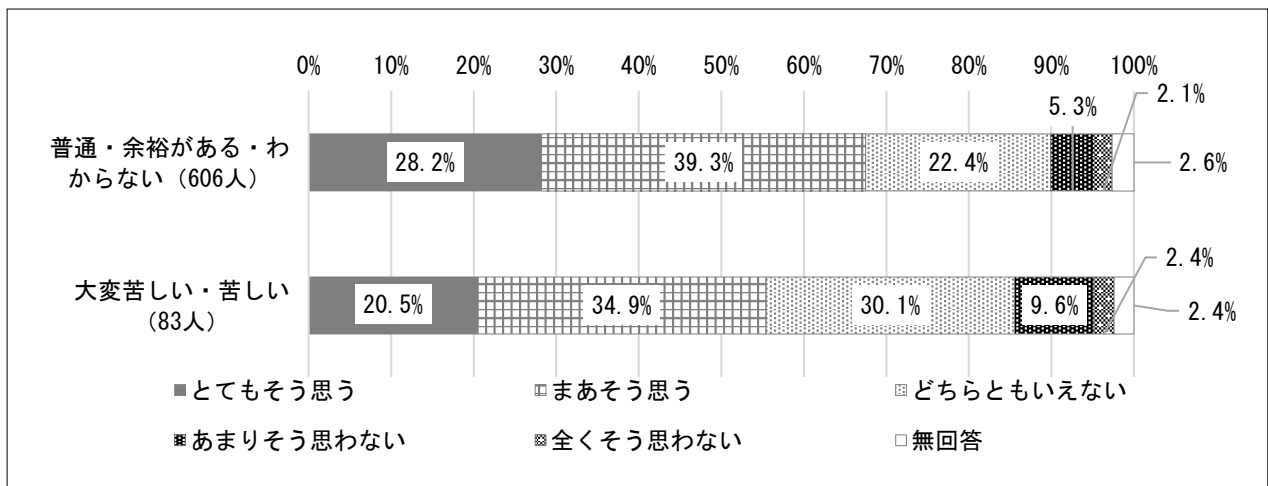
“自分は価値のある人間だ”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯では「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が49.7%と約半数に上る。一方、「苦しい・大変苦しい」の世帯では、「普通・余裕がある・わからない」世帯よりも9.9ポイント少ない39.8%となった。

④自分は家族に大事にされている



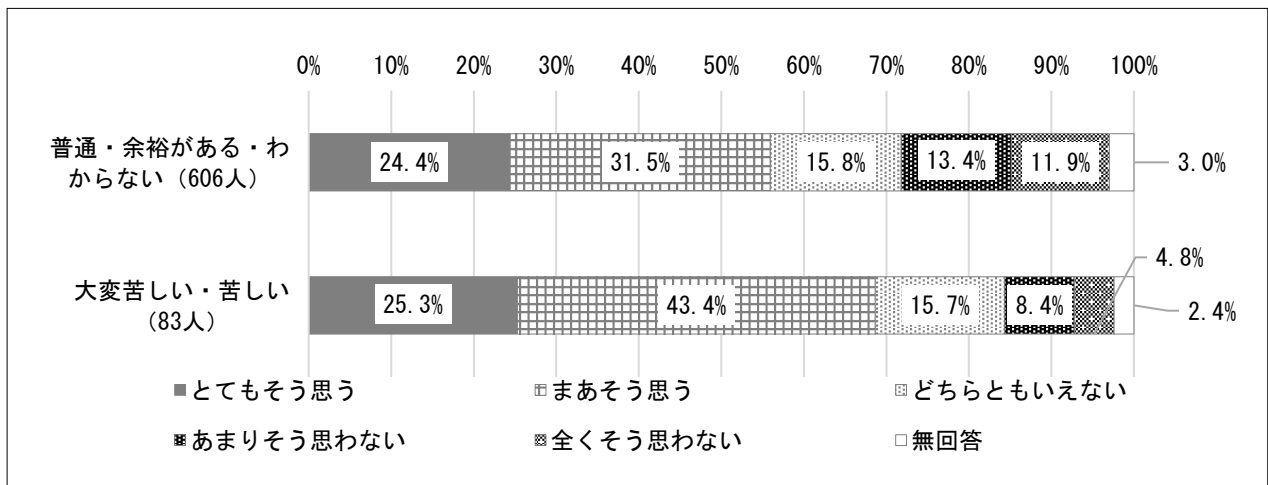
“自分は家族に大事にされている”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「普通・余裕がある・わからない」の世帯では「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が89.7%と約9割を占める。一方、「苦しい・大変苦しい」の世帯では、「全くそう思わない」が3.6%みられる。

⑤自分は友達に好かれている



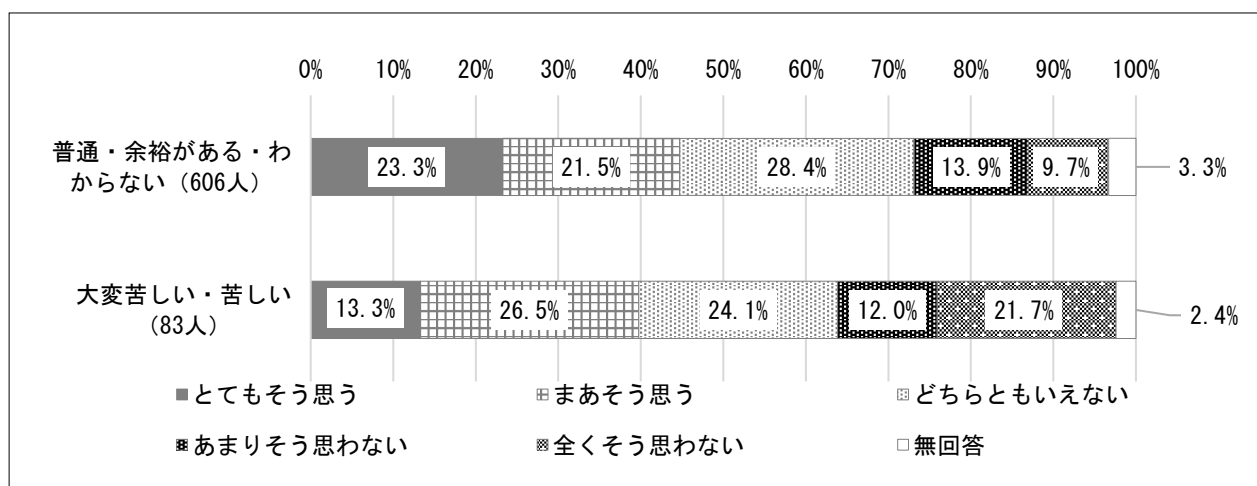
“自分は友達に好かれている”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「苦しい・大変苦しい」の世帯では「どちらともいえない」割合が30.1%と高い。

⑥不安に感じることもある



“不安に感じることもある”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「苦しい・大変苦しい」の世帯では「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計が68.7%と約7割になった。

⑦自分のことが好きだ

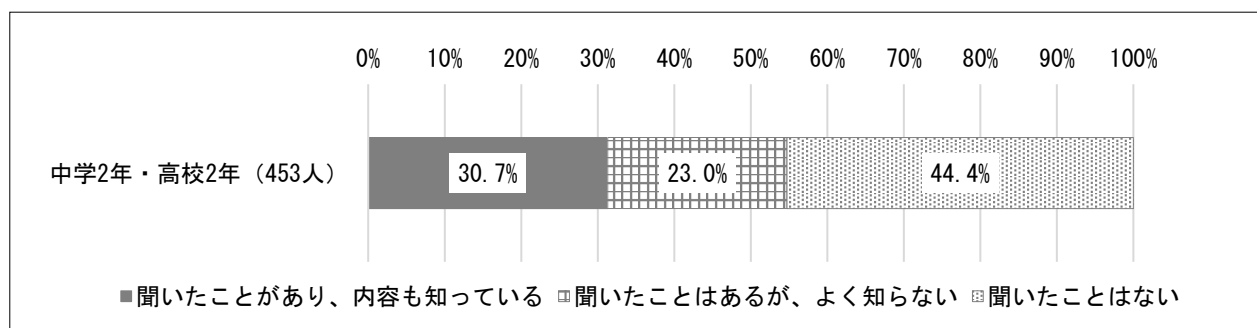


“自分のことが好きだ”と思う子どもは、子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「苦しい・大変苦しい」の世帯では「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の合計が33.7%と、「普通・余裕がある・わからない」の世帯と比べて10.1ポイント多い。

(8) ヤングケアラーについて

1) ヤングケアラーの認知度

【中学2年生・高校2年生】

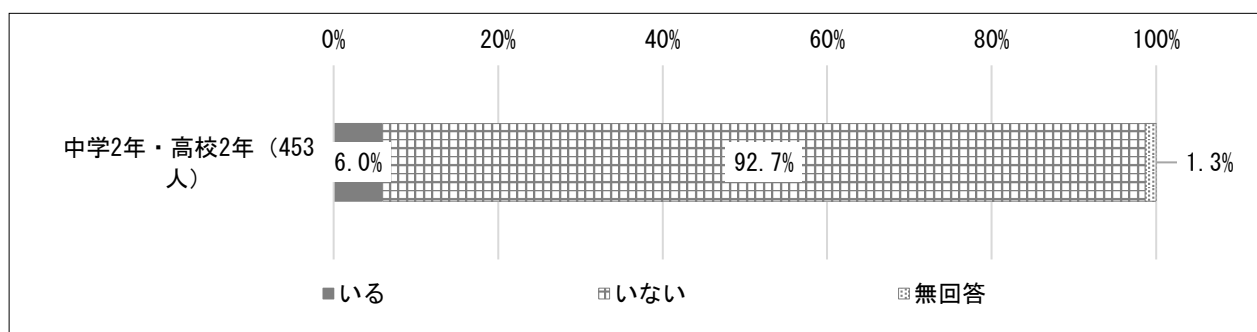


中学2年生・高校2年生のヤングケアラーの認知度について、「聞いたことはない」が44.4%と最も多く、次いで「聞いたことがあり、内容も知っている」が30.7%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が23.0%となった。

2) 子ども自身が家族のお世話をしている割合

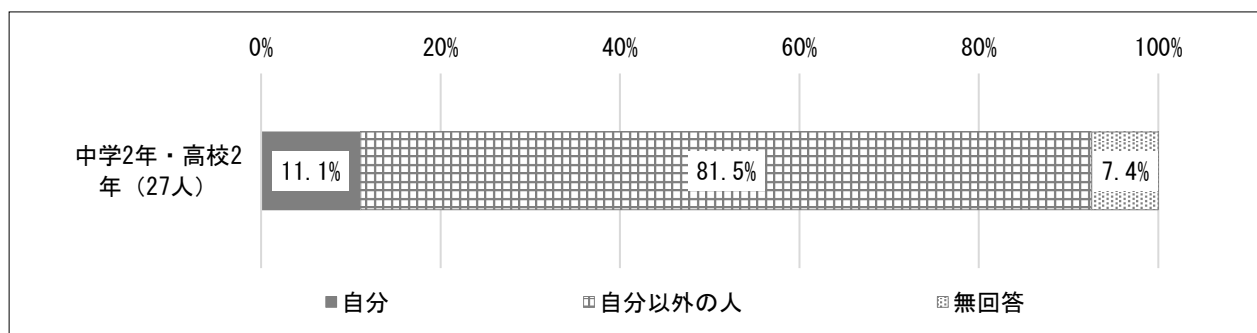
【中学2年生・高校2年生】

①お世話が必要な家族がいるか



子ども自身が家族のお世話をしている割合について、お世話が必要な家族が「いる」世帯は、全体の6.0%となった。

②家族のお世話している中学生・高校生

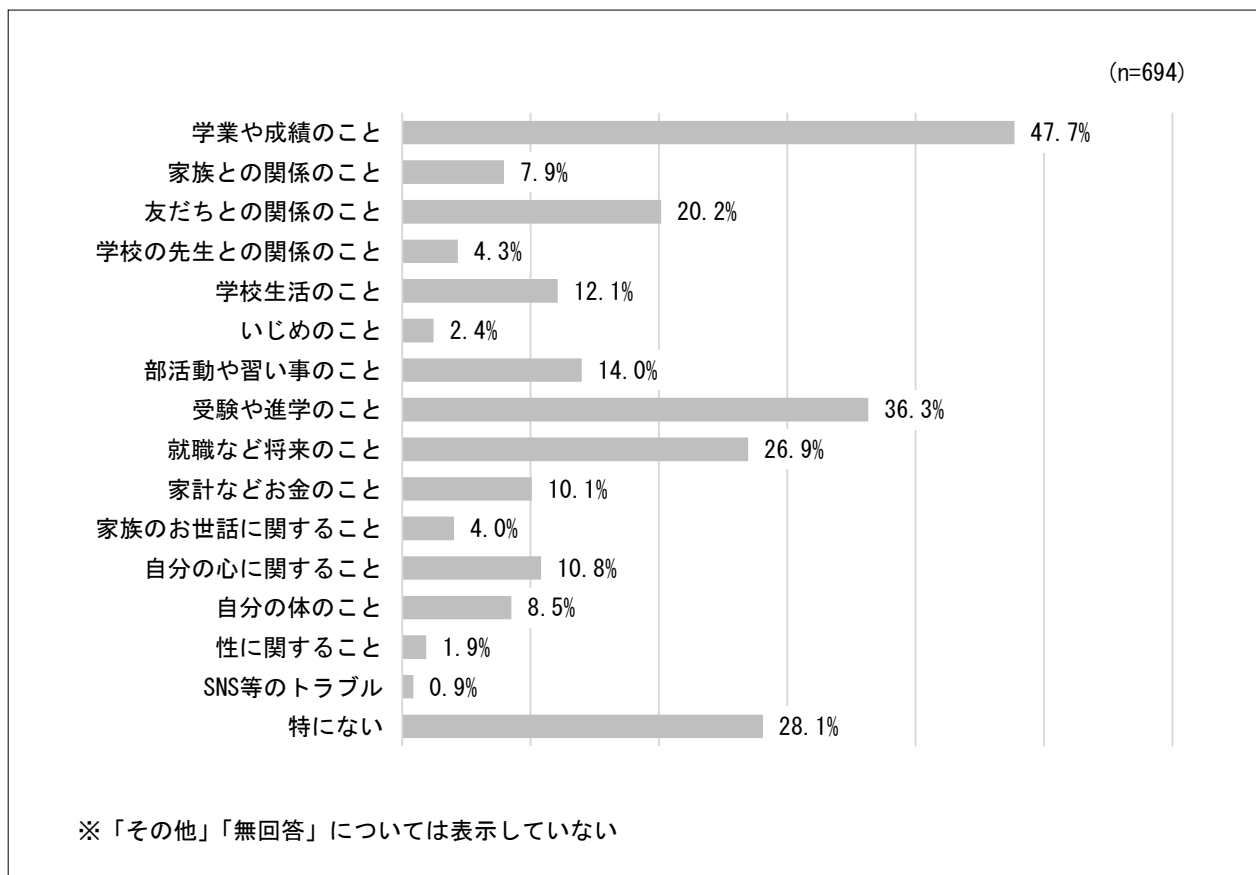


①でお世話が必要な家族がいると回答した世帯のうち、「自分」が家族のお世話をしている中学生・高校生の割合は11.1%となっている。

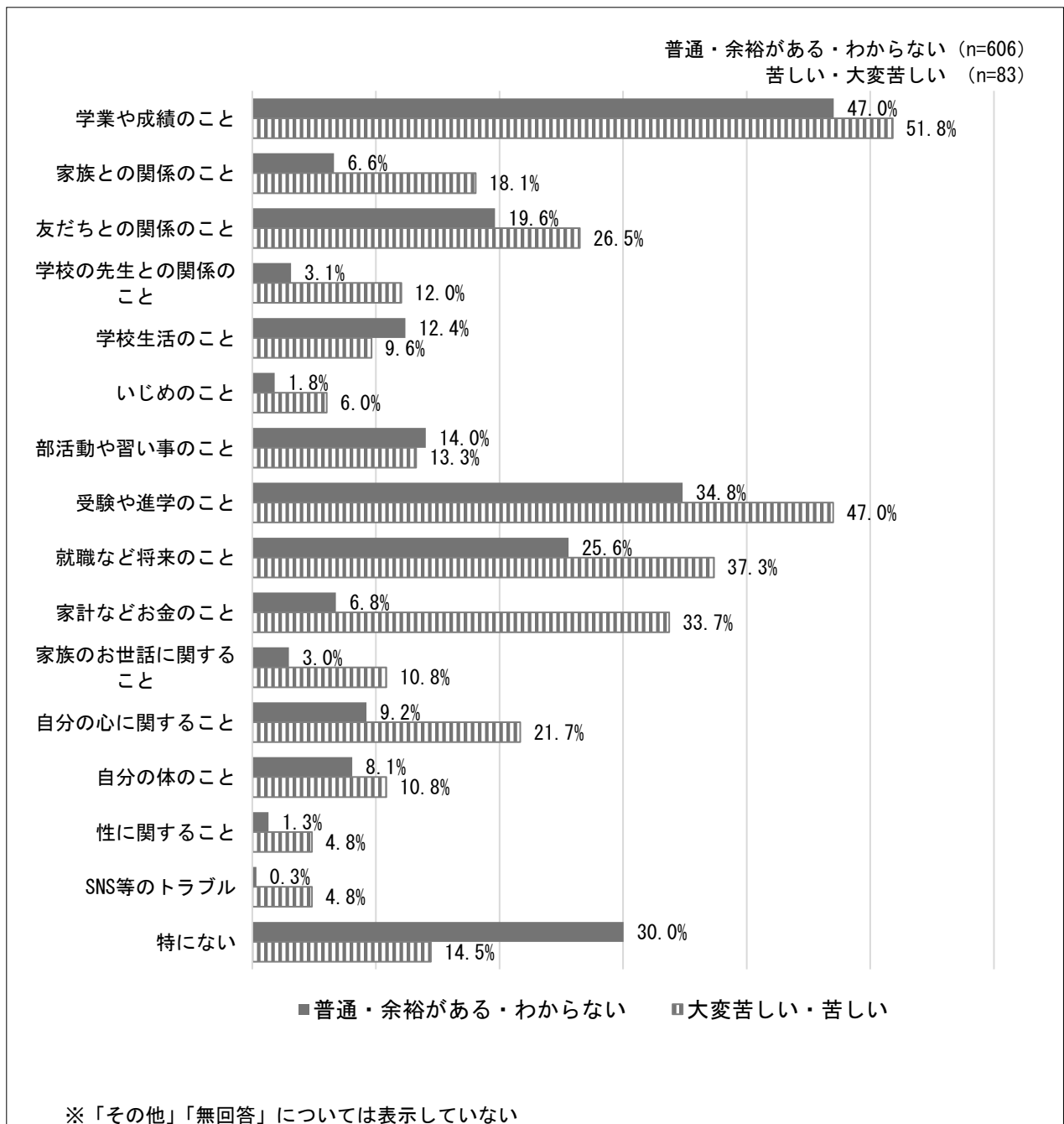
(9) その他

1) 悩んだり困ったりしていること

【全学年】



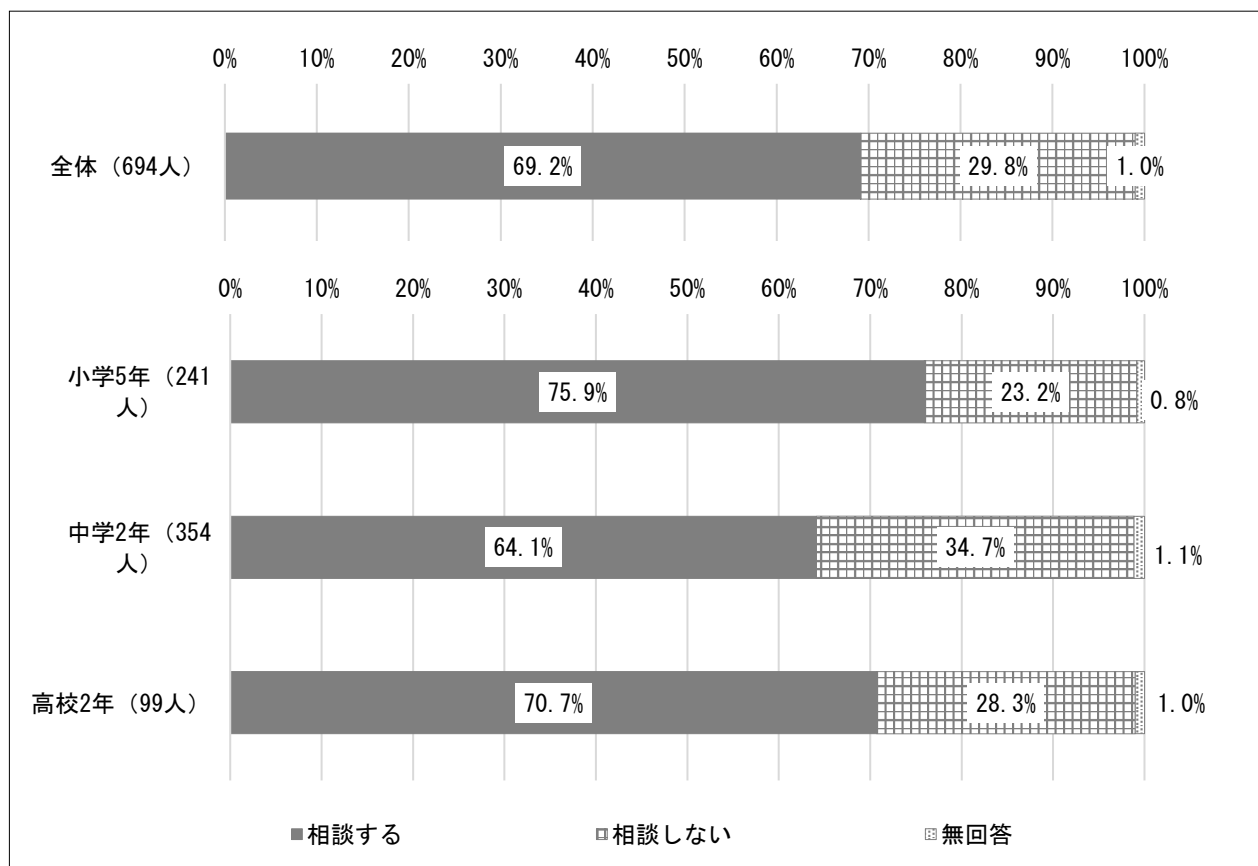
子どもが悩んだり困ったりしていることについて、「学業や成績のこと」が47.7%と最も多く、次いで「受験や進学のこと」が36.3%となった。



子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ると、「苦しい・大変苦しい」の世帯では、「普通・余裕がある・わからない」の世帯と比べて、「学業や成績のこと」「受験や進学のこと」「家計などお金に関すること」の割合が高くなっている。

2) 悩みごとの相談（する・しない、誰に、しない理由）

【全学年】

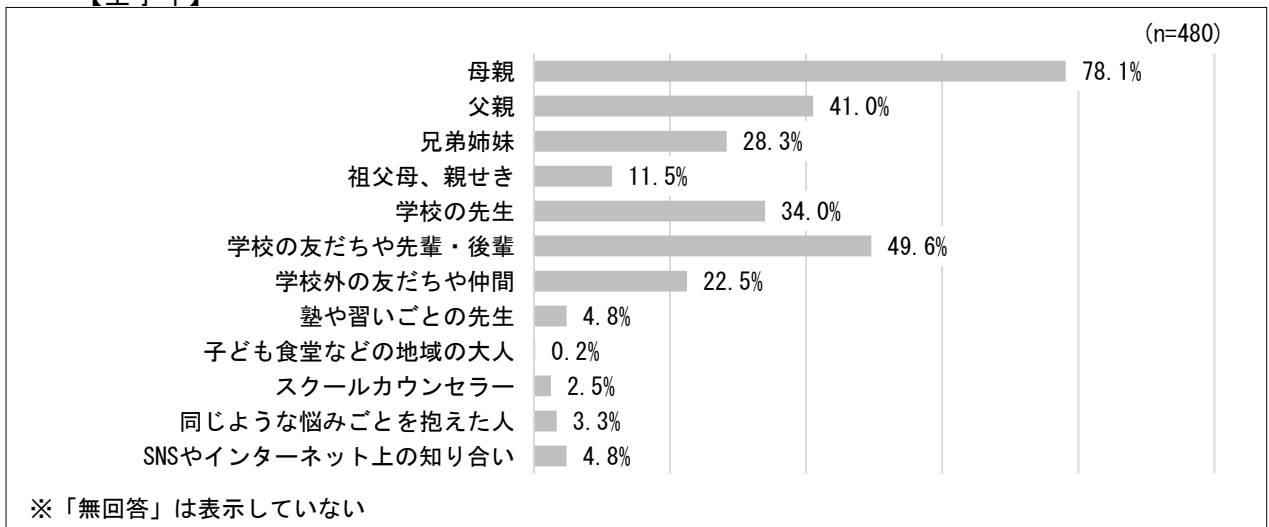


悩みごとの相談については、全体では「相談する」が69.2%、「相談しない」が29.8%となっている。悩みや不安を相談できる人がいる子どもの割合は約7割となった。

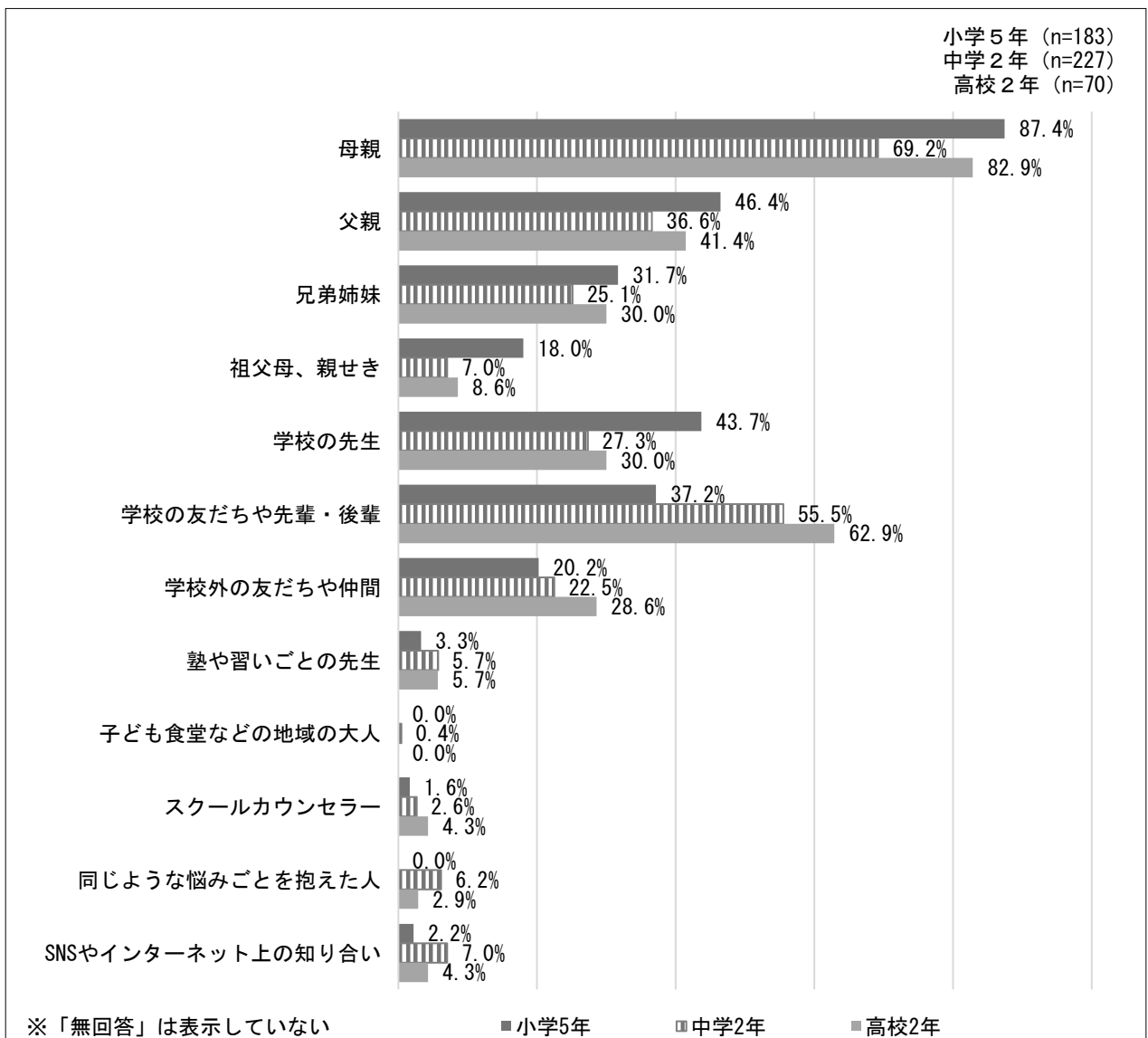
学年別に見ると、小学5年生と高校2年生においては、「相談する」割合が7割を超える。中学2年生については、「相談しない」が3割を超える。

3) 悩みごとを相談する相手

【全学年】



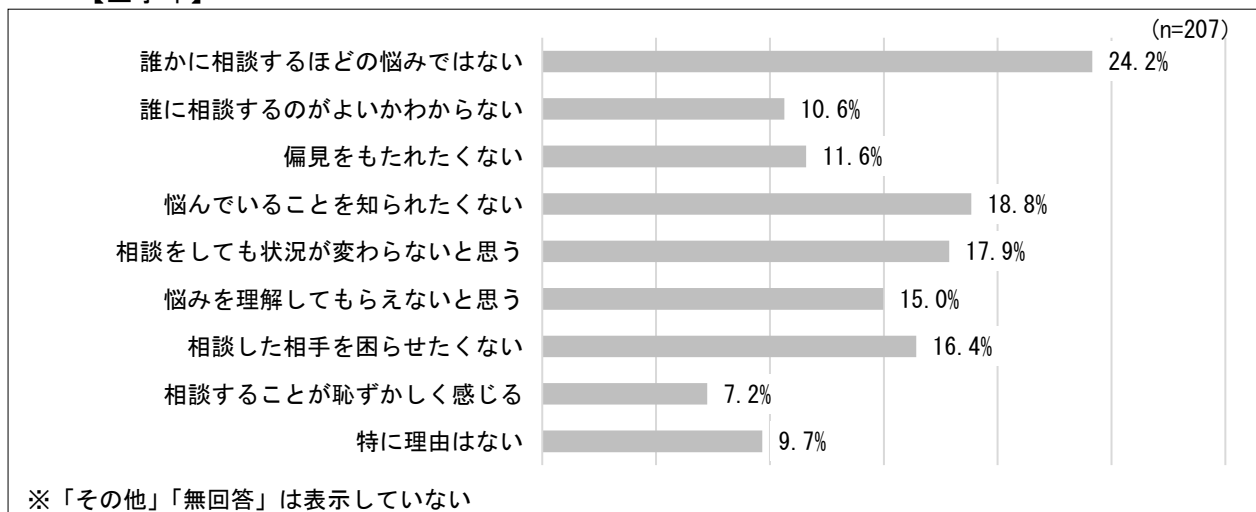
悩みごとを相談する相手については、全体では「母親」が78.1%と最も多く、次いで「学校の友だちや先輩・後輩」が49.6%となった。



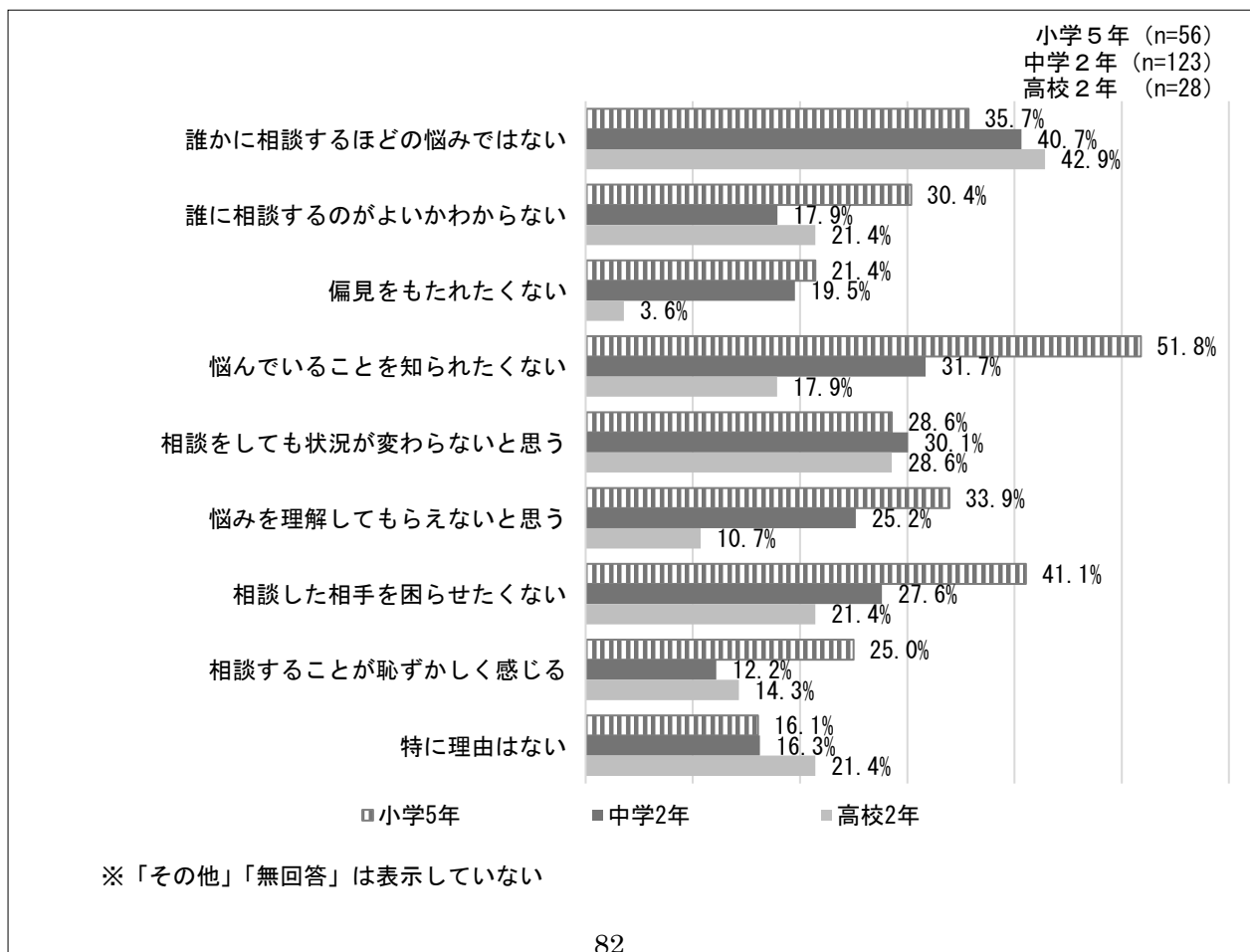
学年別に見ると、小学5年生においては「学校の先生」に相談する割合が43.7%と、中学2年生や高校2年生と比較して高い傾向がみられる。

4) 悩みごとを相談しない理由

【全学年】



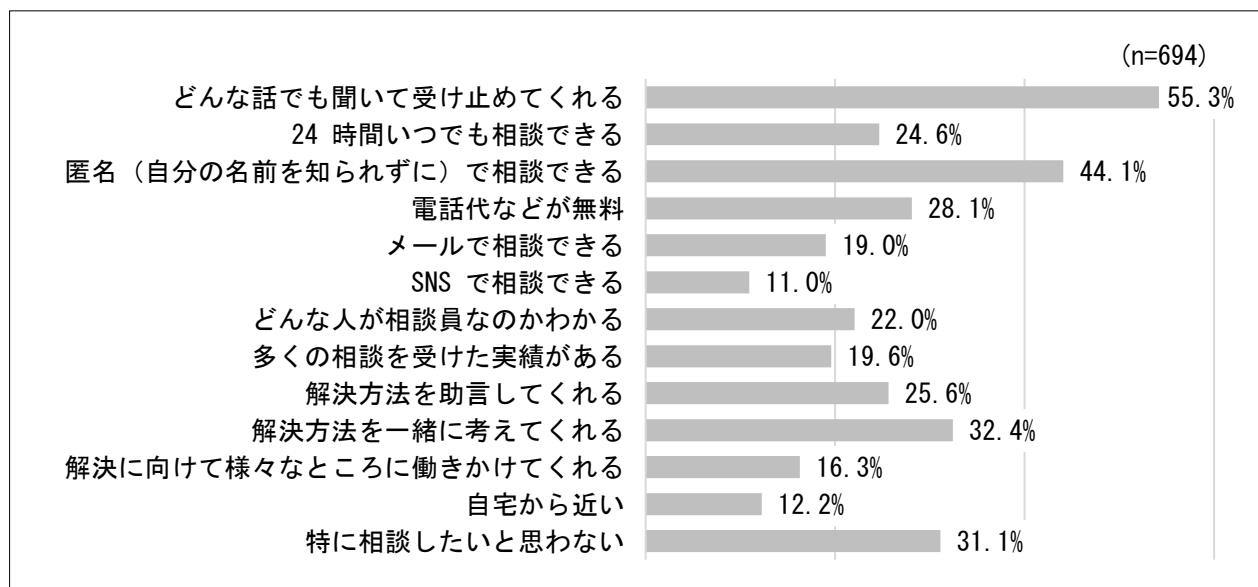
悩みごとを相談しない理由として、全体では「誰かに相談するほどの悩みではない」が24.2%と最も多く、次いで「悩んでいることを知られたくない」が18.8%となった。



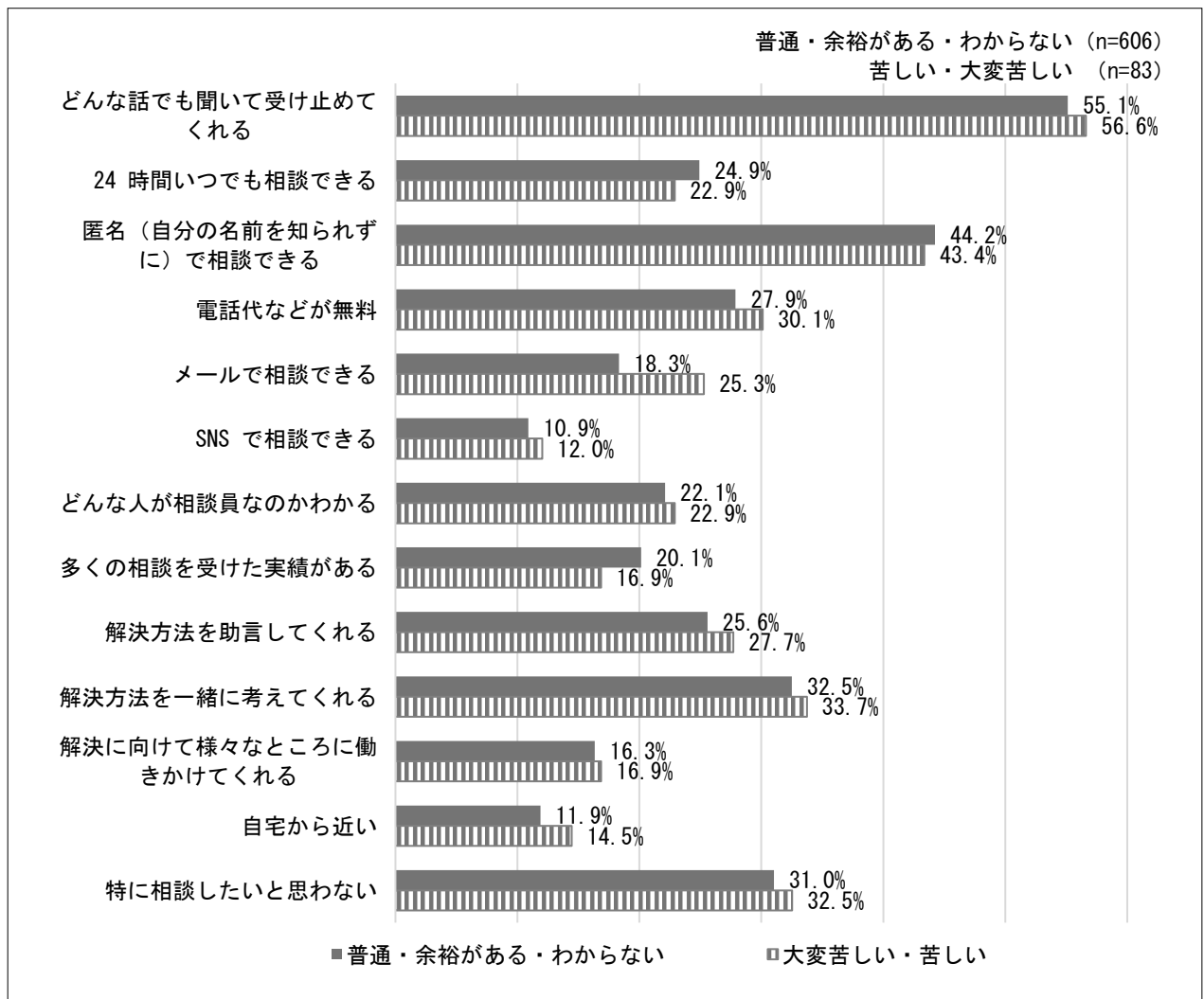
学年別で見ると、小学5年生において「悩んでいることを知られたくない」「相談した相手を困らせたくない」割合が、中学2年生、高校2年生と比較して高い。

5) どのようなところであれば相談したいか

【全学年】



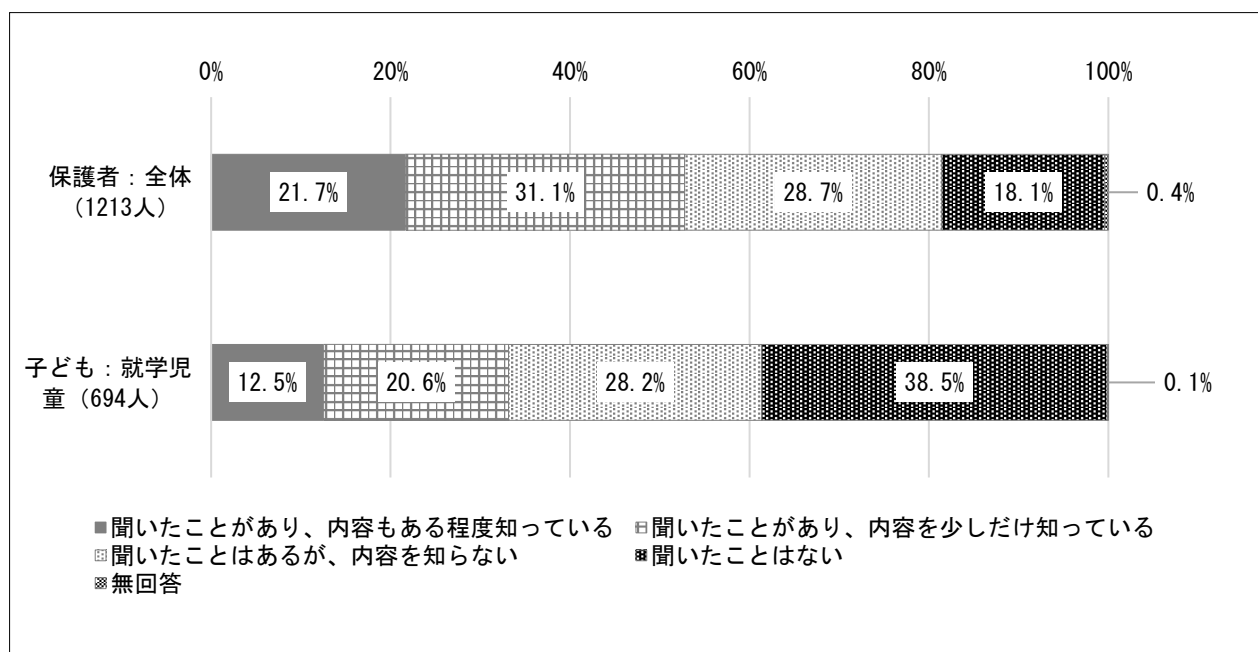
どのようなところであれば相談したいかについて、全体では「どんな話でも聞いて受け止めてくれる」が55.3%と最も多く、次いで「匿名（自分の名前を知られずに）で相談できる」が44.1%となった。



子ども自身が実感している家庭の経済状況別に見ても、「普通・余裕がある・わからない」世帯と「苦しい・大変苦しい」世帯で大きな差は見られなかった。

3. 子どもと保護者の比較

(1) 子どもの権利の認知度



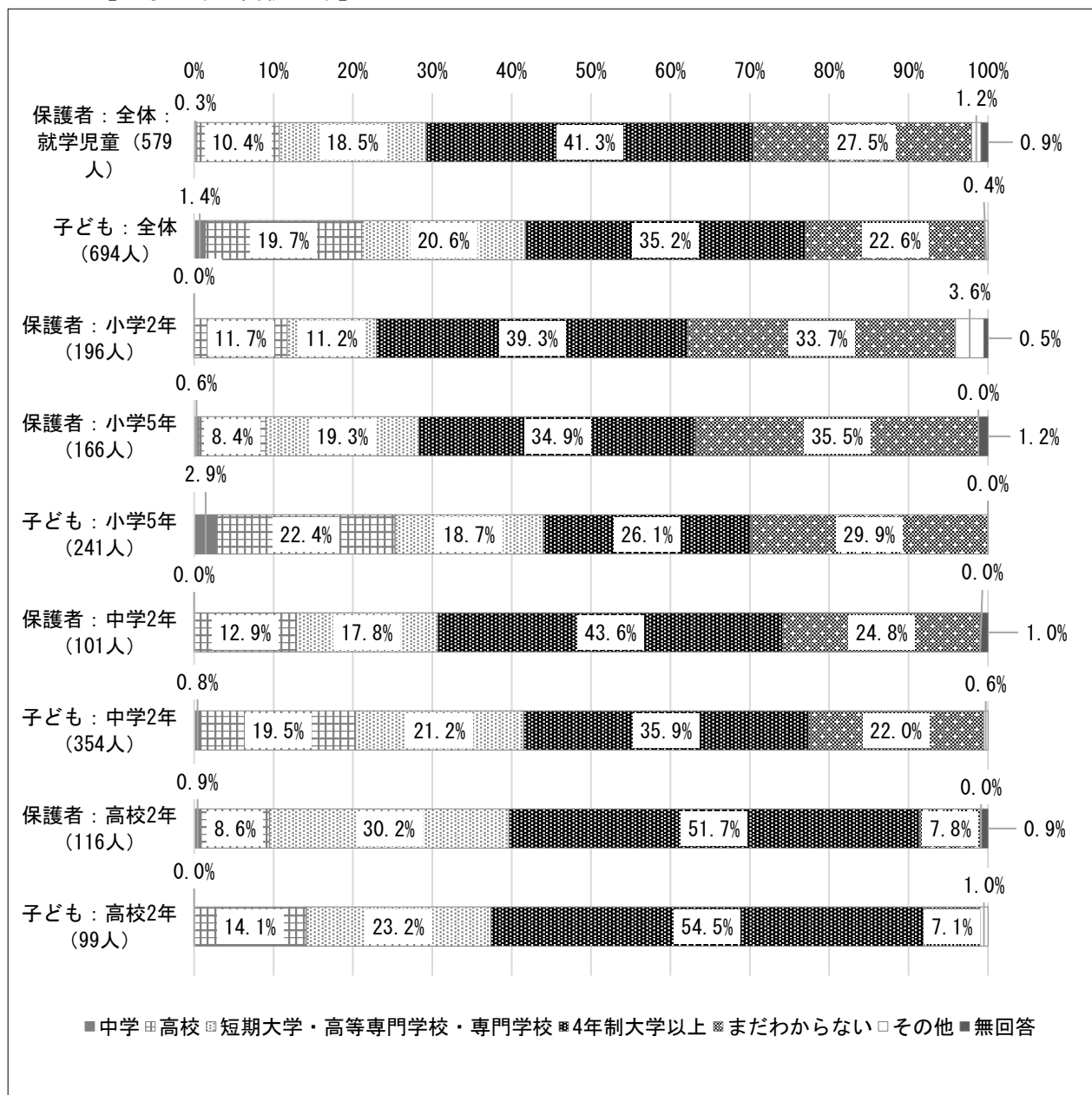
子どもの権利の認知度について、「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」は保護者が52.8%、子どもが33.1%となっている。

子どもは「聞いたことはない」が38.5%と約4割を占めている。

保護者の方が子どもよりも子どもの権利について「知っている」割合が高い。

(2) 進学希望

【小学5年～高校2年】



小学5年では、保護者・子ども共に「4年制大学以上」まで進学を希望する割合が高く、子どもにおいては「高校まで」進学を希望する割合が保護者よりも高い。

中学2年生では、保護者・子ども共に「4年制大学以上」まで進学を希望する割合が高くなっている。保護者においては「中学まで」と回答したものは0人となった。

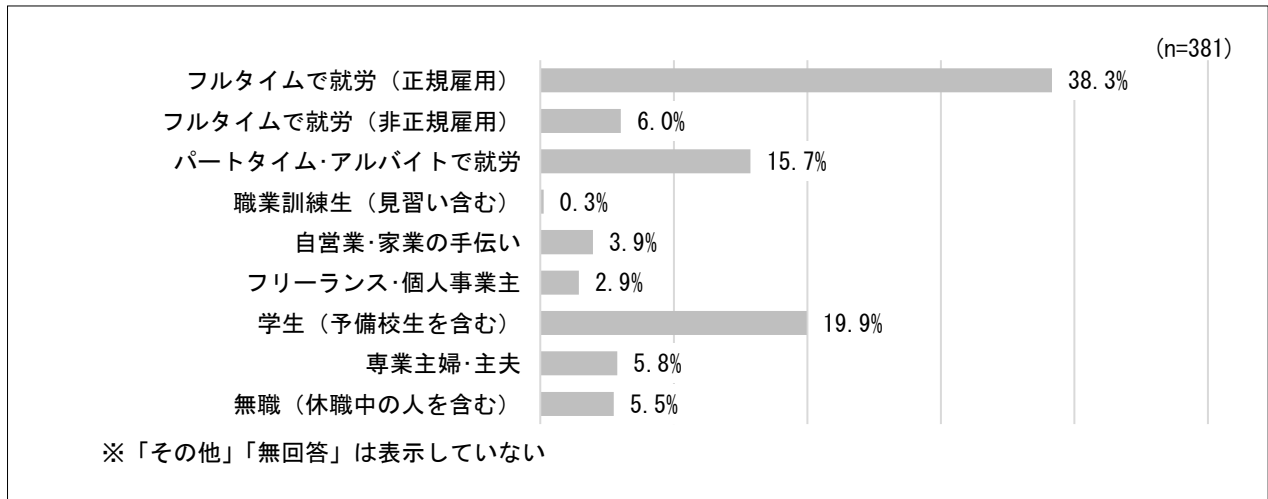
高校2年生では、保護者・子ども共に「4年制大学以上」まで進学を希望する割合が高く、いずれも5割を超えている。次いで「短期大学・高等専門学校・専門学校まで」の進学希望の割合が高い。

4. 若者アンケート結果

(1) 就労の状況

1) 若者の就労・雇用状況

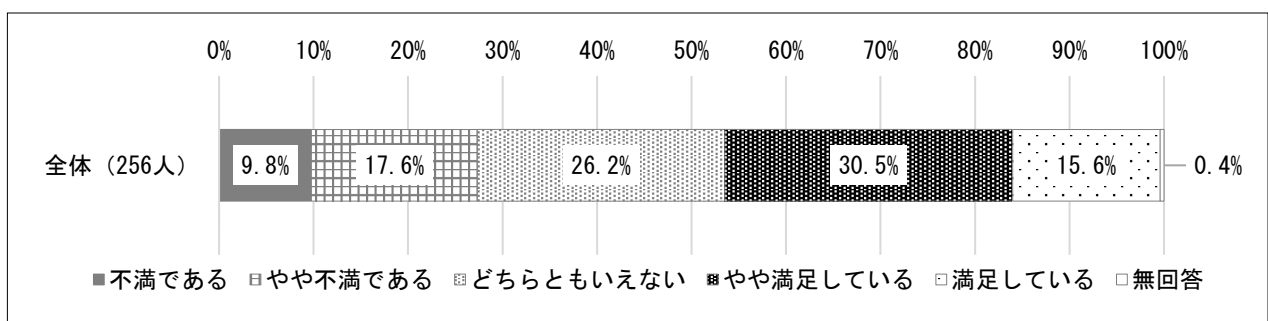
①就労・就学状況



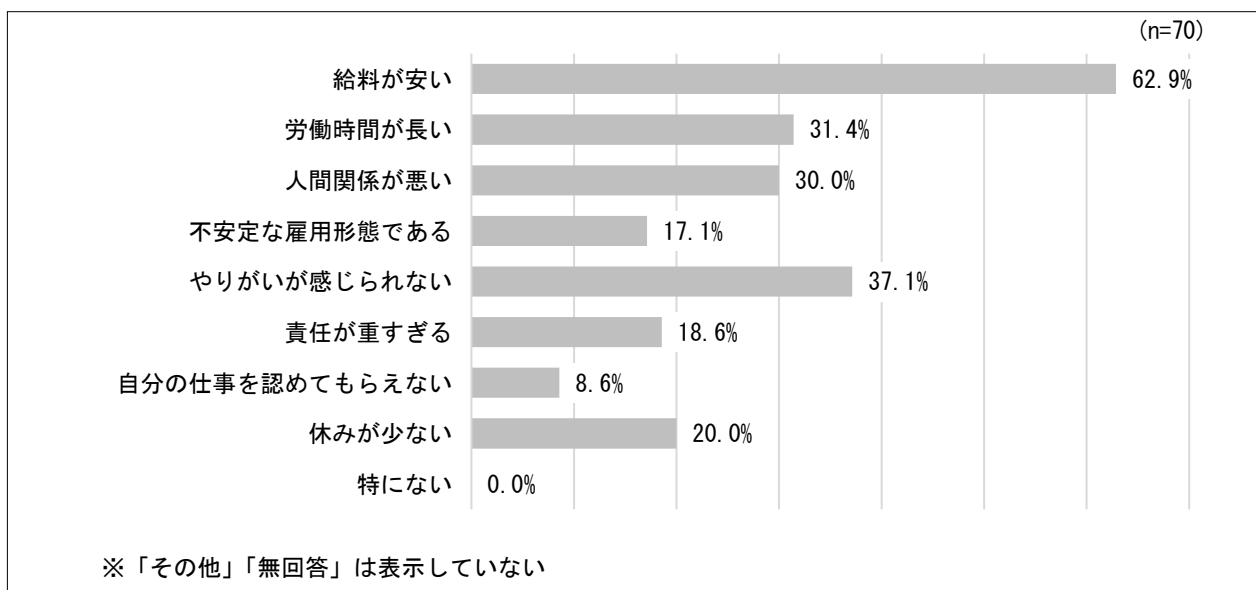
若者の就労・雇用状況について、就労している若者は67.1%、就学している若者は19.9%となっている。「専業主婦・主夫」や「無職（休業中の人を含む）」など、就労していない若者は11.3%となっている。

就労・雇用状況の内訳については、「フルタイムで就労（正規雇用）」が38.3%と最も多く、次いで「学生（予備校生を含む）」が19.9%、「パートタイム・アルバイトで就労」が15.7%となっている。

②仕事を不満に感じる理由

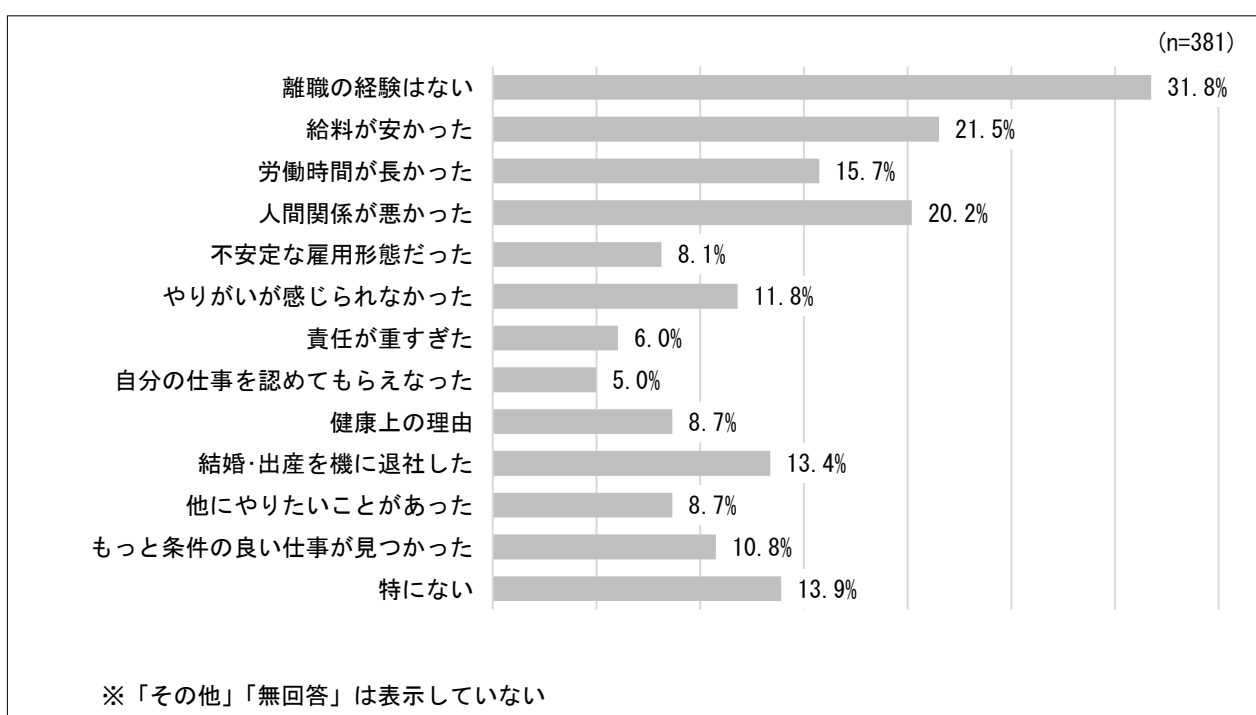


現在就業状態にある若者が仕事を不満に感じる理由については、「不満である」（9.8%）と「やや不満である」（17.6%）を合わせた『不満』が27.4%、「満足している」（15.6%）と「やや満足している」（30.5%）を合わせた『満足』が46.1%となった。「どちらともいえない」は26.2%であった。



現在の仕事に不満を感じている若者の理由については、「給料が安い」が62.9%と最も多く、次いで「やりがいを感じられない」が37.1%、「労働時間が長い」が31.4%、「人間関係が悪い」が30.0%となった。

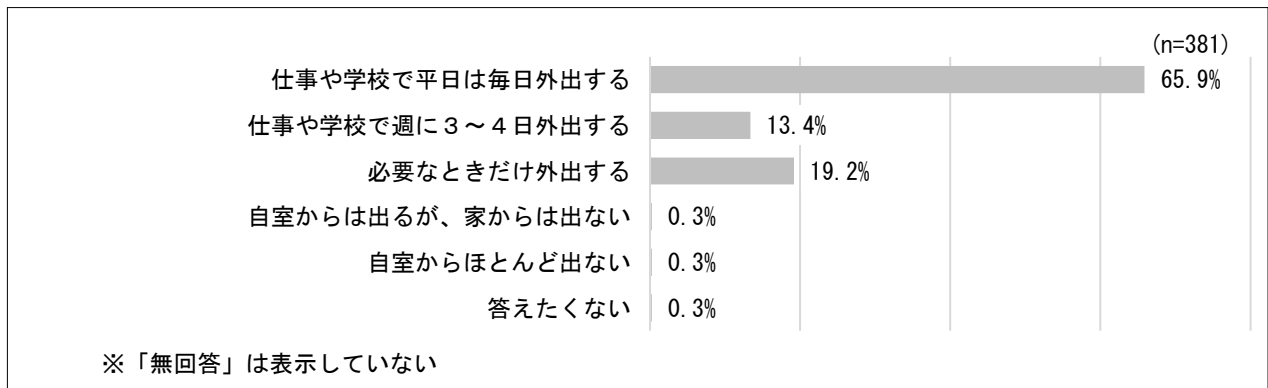
2) 離職経験とその理由



離職経験については、「離職の経験はない」が31.8%と最も多い。離職の理由については、「給料が安かった」が21.5%、「人間関係が悪かった」が20.2%と多い。

(2) 外出の機会について

1) 1週間の外出頻度

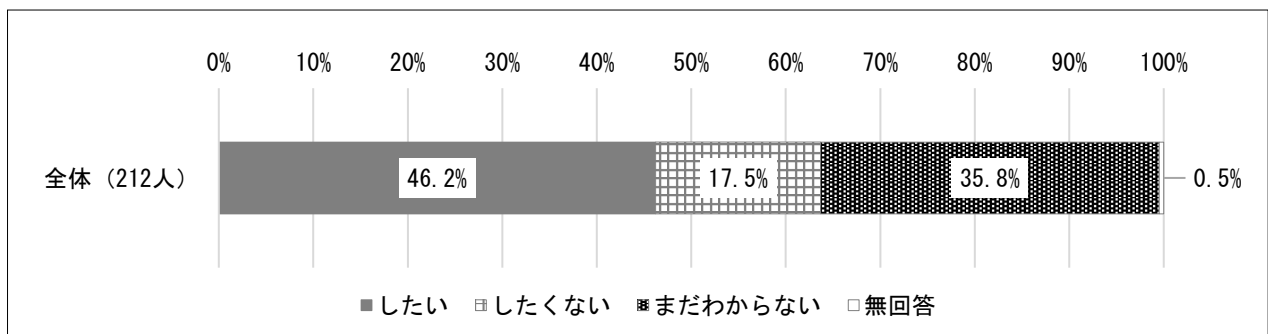


1週間の外出頻度について、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が65.9%と最も多く、次いで「必要な時だけ外出する」が19.2%となった。

(3) 結婚・子育てについて

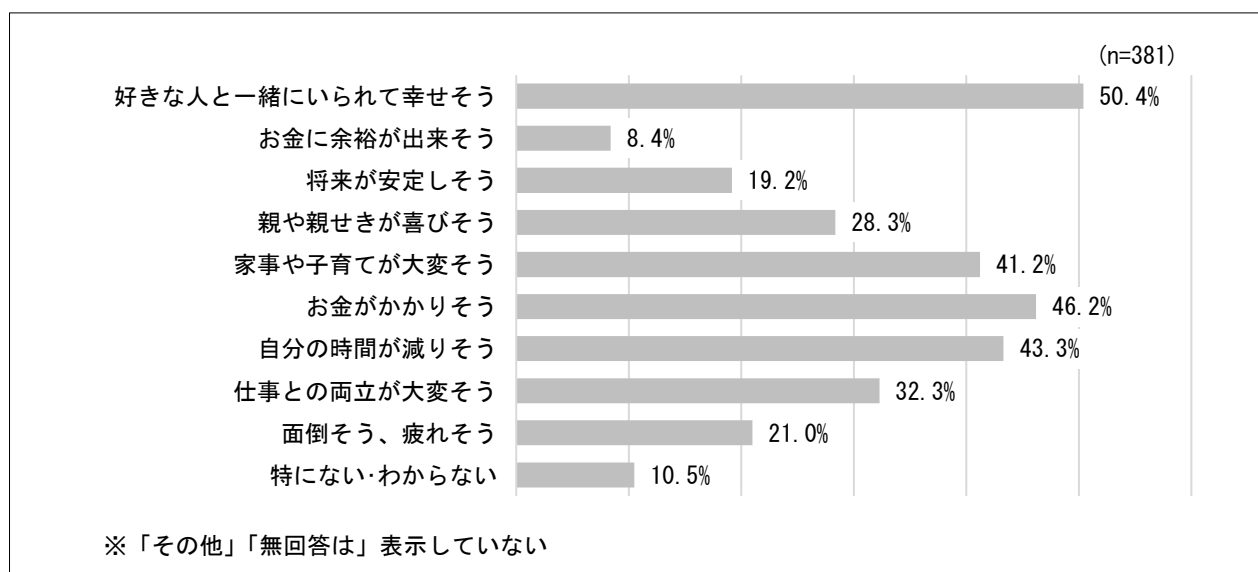
1) 若者の結婚願望

①結婚願望

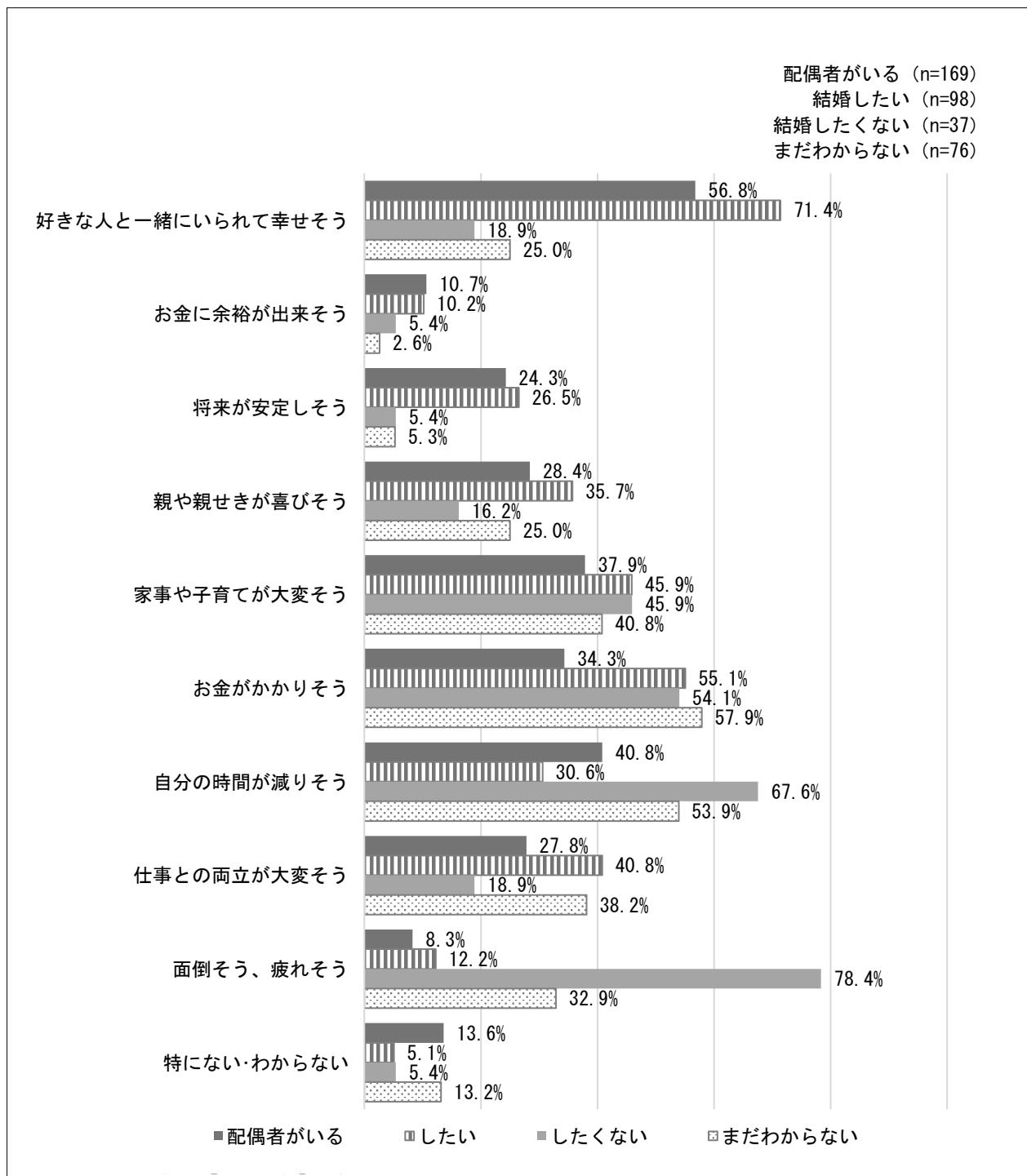


配偶者がいない若者の結婚願望については、「したい」が46.2%、「したくない」が17.5%となった。「まだわからない」も35.8%と多くを占める。

②結婚に対して持っているイメージ



結婚に対して持っているイメージについては、「好きな人と一緒にいられて幸せそう」が50.4%と最も多く、次いで「お金がかかりそう」が46.2%となった。

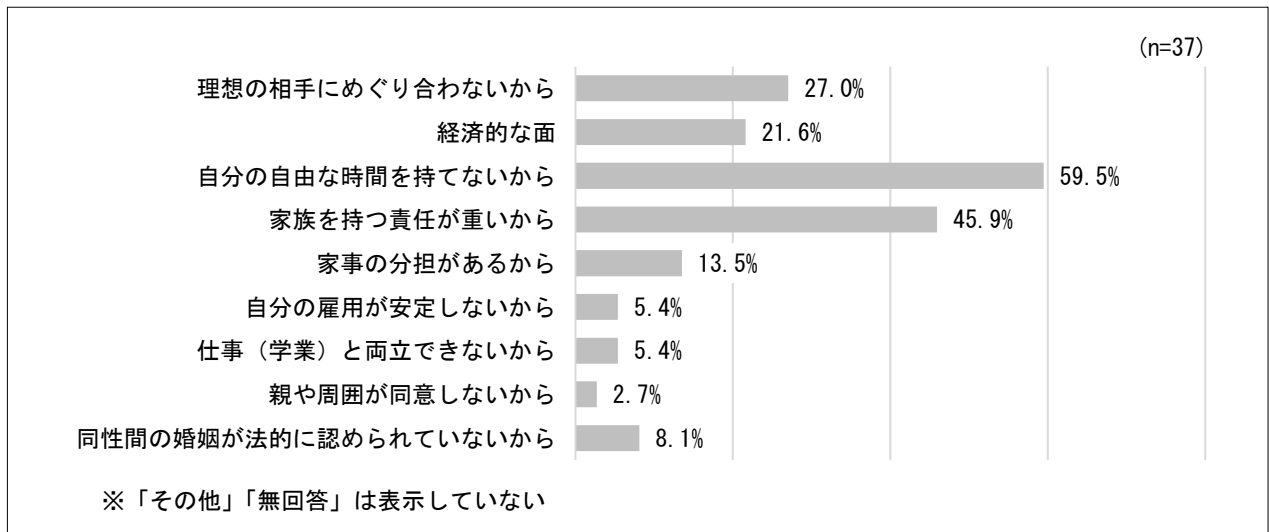


属性別に見ると、配偶者がいる若者は、「好きな人と一緒にいられて幸せそう」が56.8%と最も多く、次いで「自分の時間が減りそう」が40.8%となっている。

配偶者がおらず将来結婚したい若者では、「好きな人と一緒にいられて幸せそう」が71.4%と最も多く、次いで「お金がかかりそう」が55.1%となっている。

将来結婚したくない若者・まだわからない若者では、「面倒そう、疲れそう」が最も多く、次いで「自分の時間が減りそう」となっている。

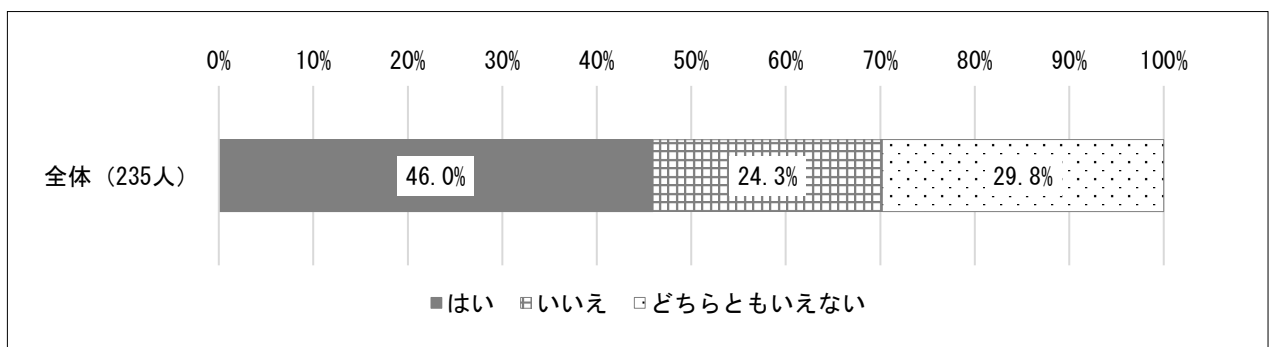
③結婚したくない理由



将来結婚したくない若者の結婚したくない理由については、「自分の自由な時間を持ってないから」が59.5%と最も多く、次いで「家族を持つ責任が重いから」が45.9%となった。

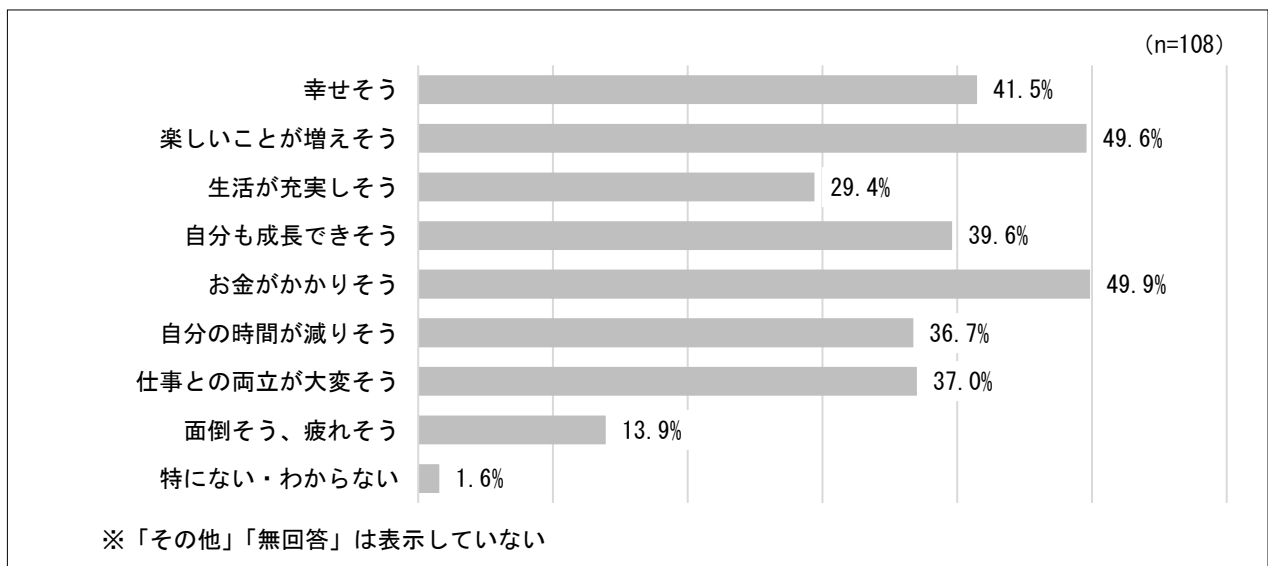
2) 子ども・子育てへの希望

①将来子どもを持ちたいと思うか



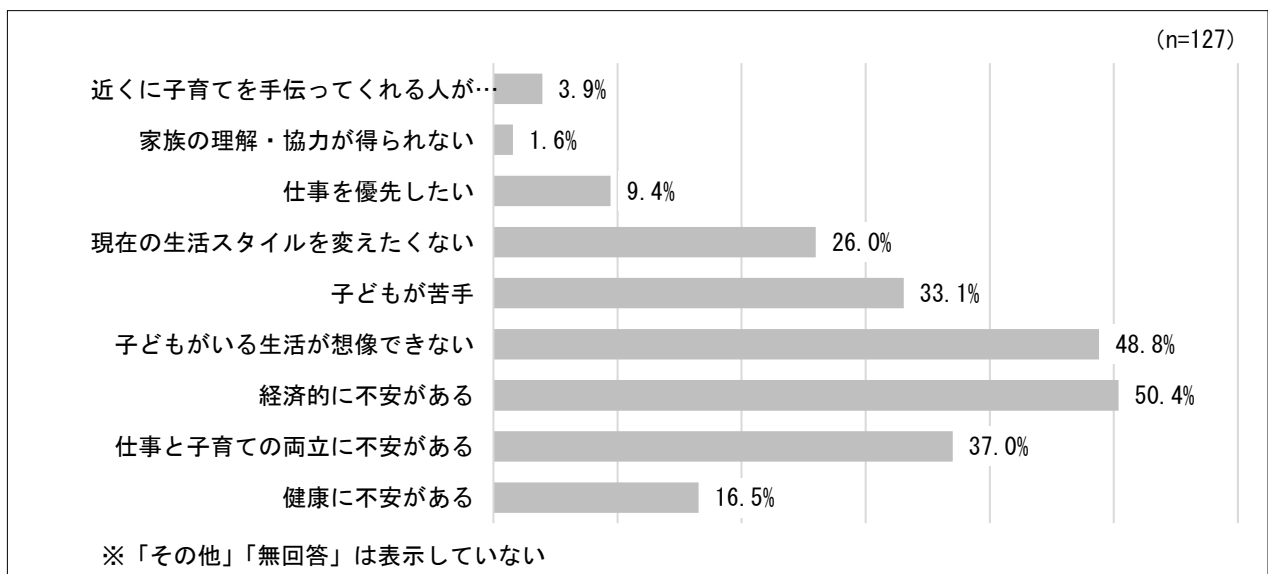
将来子どもを持ちたいと思うかについては、「はい」が46.0%と最も多く、「どちらともいえない」が29.8%、「いいえ」が24.3%となった。

②子育てに対して持っているイメージ



将来子どもを持ちたい若者が子育てに対して持っているイメージについては、「お金がかかりそう」が49.9%、「楽しいことが増えそう」が49.6%と多く、次いで「幸せそう」が41.5%、「自分も成長できそう」が39.6%となった。

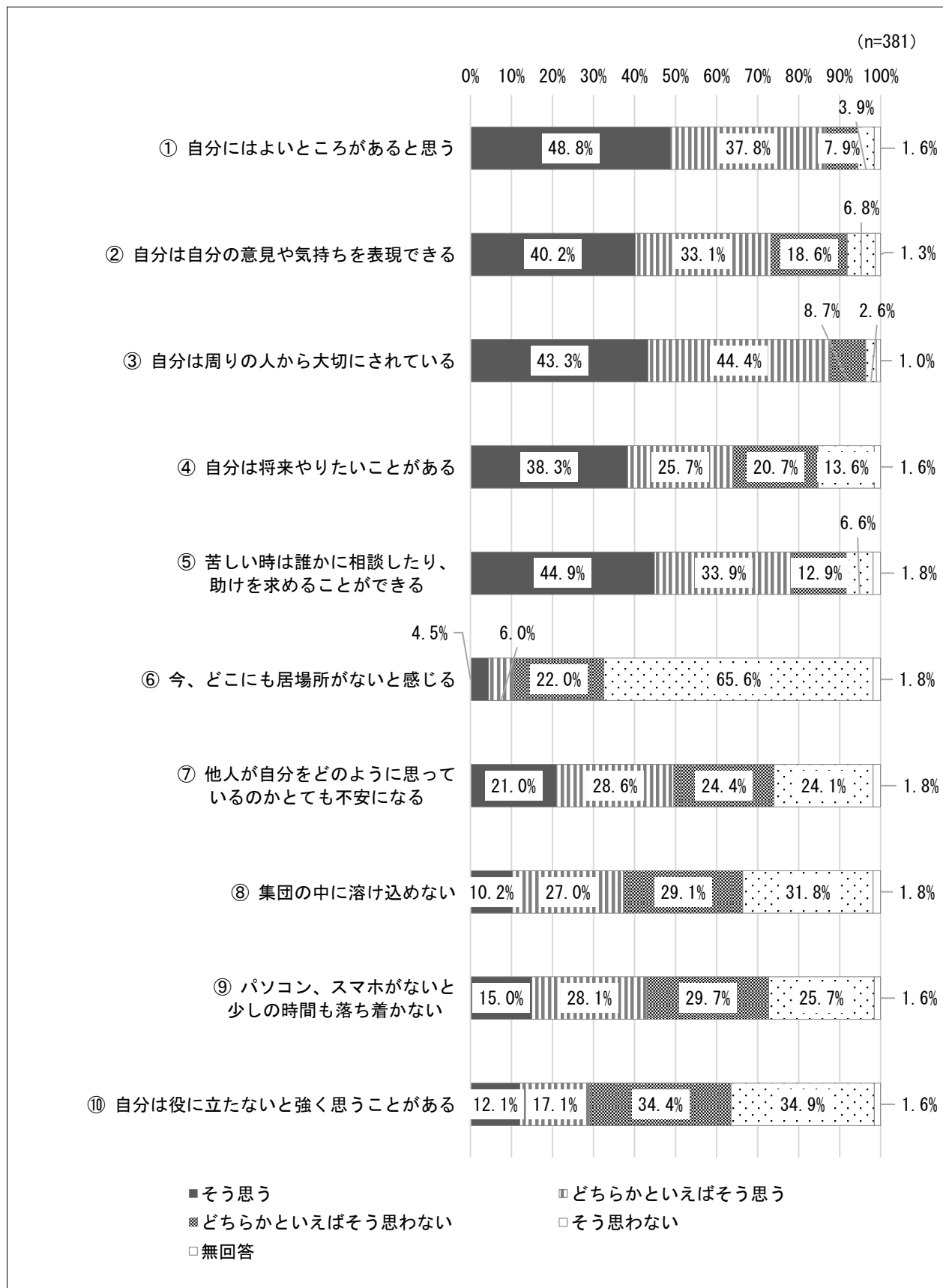
③子どもが欲しいと思わない理由



子どもが欲しいと思わない理由について、「経済的に不安がある」が50.4%、「子どもがいる生活が想像できない」が48.8%と多い。

(4) 若者自身について

1) 若者自身について



自分自身について、①“自分にはよいところがあると思う”若者は、「そう思う」(48.8%)と「どちらかといえばそう思う」(37.8%)を合わせた『そう思う』が86.6%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(7.9%)と「そう思わない」(3.9%)を合わせた『そう思わない』が11.8%となった。

自分自身について、②“自分は自分の意見や気持ちを表現できる”若者は、「そう思う」(40.2%)と「どちらかといえばそう思う」(33.1%)を合わせた『そう思う』が73.3%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(18.6%)と「そう思わない」(6.8%)を合わせた『そう思わない』が25.4%となった。

自分自身について、③“自分は周りの人から大切にされている”若者は、「そう思う」(43.3%)と「どちらかといえばそう思う」(44.4%)を合わせた『そう思う』が87.7%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(8.7%)と「そう思わない」(2.6%)を合わせた『そう思わない』が11.3%となった。

自分自身について、④“自分は将来やりたいことがある”若者は、「そう思う」(38.3%)と「どちらかといえばそう思う」(25.7%)を合わせた『そう思う』が64.0%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(20.7%)と「そう思わない」(13.6%)を合わせた『そう思わない』が34.3%となった。

自分自身について、⑤“苦しい時は誰かに相談したり、助けを求めたりすることができる”若者は、「そう思う」(44.9%)と「どちらかといえばそう思う」(33.9%)を合わせた『そう思う』が78.8%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(12.9%)と「そう思わない」(6.6%)を合わせた『そう思わない』が19.5%となった。

自分自身について、⑥“今、どこにも居場所がないと感じる”若者は、「そう思う」(4.5%)と「どちらかといえばそう思う」(6.0%)を合わせた『そう思う』が10.5%、「どちらかといえばそう思わない」(22.0%)と「そう思わない」(65.6%)を合わせた『そう思わない』が87.6%を占める。

自分自身について、⑦“他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる”若者は、「そう思う」(21.0%)と「どちらかといえばそう思う」(28.6%)を合わせた『そう思う』が49.6%、「どちらかといえばそう思わない」(24.4%)と「そう思わない」(24.1%)を合わせた『そう思わない』が48.5%となった。

自分自身について、⑧“集団の中に溶け込めない”若者は、「そう思う」(10.2%)と「どちらかといえばそう思う」(27.0%)を合わせた『そう思う』が37.2%、「どちらかといえばそう思わない」(29.1%)と「そう思わない」(31.8%)を合わせた『そう思わない』が60.9%を占める。

自分自身について、⑨“パソコン、スマホがないと少しの時間も落ち着かない”若者は、「そう思う」(15.0%)と「どちらかといえばそう思う」(28.1%)を合わせた『そう思う』が43.1%、「どちらかといえばそう思わない」(29.7%)と「そう思わない」(25.7%)を合わせた『そう思わない』が55.4%となった。

自分自身について、⑩“自分は役に立たないと強く思うことがある”若者は、「そう思う」(12.1%)と「どちらかといえばそう思う」(17.1%)を合わせた『そう思う』が29.2%、「どちらかといえばそう思わない」(34.4%)と「そう思わない」(34.9%)を合わせた『そう思わない』が69.3%を占める。